男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

加東市

平成 30 年 1 月

目次

Ⅰ　調査の概要 1
１．調査の目的 1
２．調査の方法 1
３．回収結果 1
４．報告書の見方 1
５．標本誤差 2
６．国、兵庫県の調査の概要 3
（１）国 3
（２）兵庫県 3
Ⅱ　調査結果 4
１．回答者の属性 4
（１）性別 4
（２）年代 4
（３）居住地域 4
（４）職業 5
（５）家族構成 5
（６）婚姻状況 6
２．男女平等、役割分担について 7
（１）「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について 7
（２）現在の日本社会の男女の地位について 11
（３）子どもの育て方について 15
（４）家庭での役割分担について（「実際」と「希望」） 18
３．働き方・女性の活躍について 30
（１）ワーク・ライフ・バランスについて（現状の生活と希望の生活） 30
（２）女性が職業をもつことについて 36
（３）女性が働きやすい環境をつくるために必要なこと 38
（４）男性の育児休業や介護休業の取得が進まない理由について 41
４．社会参加活動について 43
（１）ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと 43
（２）自治会や議会に女性の参画が進まない理由 46
（３）女性のリーダーの増加による影響 49
（４）女性の参画が必要になると思う分野、領域 51
（５）男女共同参画社会の実現のために学校教育の場で大切になること 53
（６）男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと 55
５．虐待、セクシュアル・ハラスメントについて 58
（１）子どもに対する虐待の経験等 58
（２）高齢者に対する虐待の経験等 60
（３）セクシュアル・ハラスメントの経験等 61
（４）セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたときの対応 63
Ⅲ　自由意見（抜粋） 65

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

この調査は、平成 30 年度で計画期間の満了を迎える「第２次加東市男女共同参画プラン」の改定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識、意向などを把握し、新計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

２．調査の方法

（１）調査対象

平成 29 年 4 月 1 日現在、市内に居住する 18 歳以上の市民 4,000 人

（２）抽出方法

住民基本台帳より無作為抽出

（３）調査方法

・配布：郵送
・回収：郵送もしくはインターネットによる回答を、回答者が選択

（４）調査期間

平成 29 年 8 月 23 日（水）～平成 29 年 9 月 15 日（金）

３．回収結果

発送数	回収数	うち無効票	有効回答数	有効回答率
4,000	1,490	0	1,490	37.3%

４．報告書の見方

○本文中および図中に示した集計結果は、その質問の回答者数を基数（ｎ）として算出し、百分率（%）で示しています。
○集計結果は小数点第２位で四捨五入しているため、回答比率の合計が 100.0%とならない場合があります。
○複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがあります。またグラフには以下の表示を付記しています。
・ＭＡ％（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものすべてを選択する場合
・3ＬＡ％（3Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つまで選択する場合
・2ＬＡ％（2Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 2 つまで選択する場合
○紙面の都合上、設問の選択肢を短縮して記載している場合があります。

５．標本誤差

この調査は標本調査であり、今回得られた結果から加東市全体の意見を推測することができます。この場合、標本誤差は以下の式により近似値を求めることができます。（ただし、信頼度 95%とします。）

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

Ｎ＝母集団
ｎ＝有効回答者数
Ｐ＝回答比率

今回の場合、Ｎはｎより非常に大きい値であるため、$\frac{N-n}{N-1}$ ≒１とみなして計算しています。

例えば、有効回答者数が 1,490 人の質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が 50%の場合、母集団（18 歳以上の市民全体）における回答比率は、47.5～52.5%の間であると推測されます。

信頼度 95%とは、同じ方法で 100 回調査すれば、95 回は上記の式で求められた範囲内に入るということです。

	P（%）	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
	n	95	90	85	80	75	70	65	60	55	50
総数	1,490	1.1	1.5	1.8	2.0	2.2	2.3	2.4	2.5	2.5	2.5
〈性別〉											
男性	865	1.5	2.0	2.4	2.7	2.9	3.1	3.2	3.3	3.3	3.3
女性	566	1.8	2.5	2.9	3.3	3.6	3.8	3.9	4.0	4.1	4.1
〈年齢別〉											
20 歳代以下	132	3.7	5.1	6.1	6.8	7.4	7.8	8.1	8.4	8.5	8.5
30 歳代	154	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.9	7.9
40 歳代	231	2.8	3.9	4.6	5.2	5.6	5.9	6.2	6.3	6.4	6.4
50 歳代	250	2.7	3.7	4.4	5.0	5.4	5.7	5.9	6.1	6.2	6.2
60 歳代	394	2.2	3.0	3.5	3.9	4.3	4.5	4.7	4.8	4.9	4.9
70 歳代以上	276	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.9	5.9

６．国、兵庫県の調査の概要

国及び兵庫県で実施された調査で、類似の調査項目がある場合に比較するために掲載しています。各調査の概要は次のとおりです。

（１）国

・男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）

調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

有効回収数： 3,059 人

調査時期：平成 28 年 8 月 25 日～ 9 月 11 日

調査方法：調査員による個別面接聴取

（２）兵庫県

・平成 26 年度　第 3 回県民モニターアンケート調査

調査テーマ：「男女共同参画に関する意識調査について」

調査対象：県民モニター2,248 名（平成 26 年 10 月 8 日時点での登録者）

回答者数：1,472 名

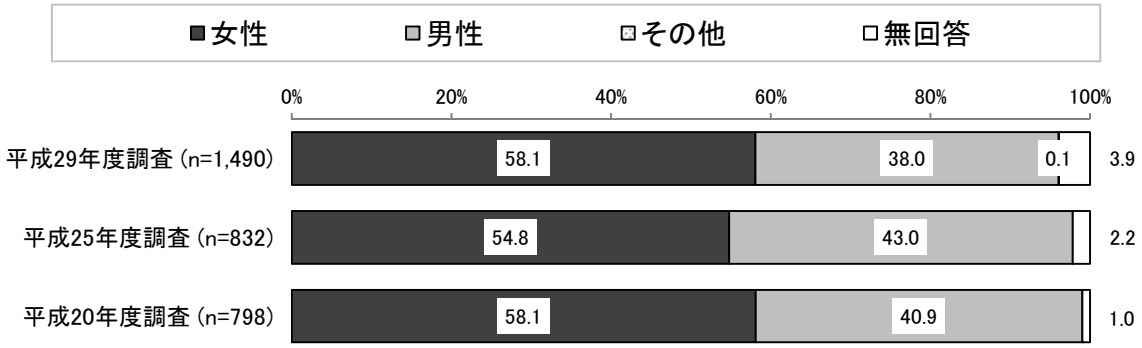
調査時期：平成 26 年 9 月 25 日～10 月 8 日

調査方法：インターネットを利用し県ホームページ上のアンケートフォームに入力

Ⅱ　調査結果

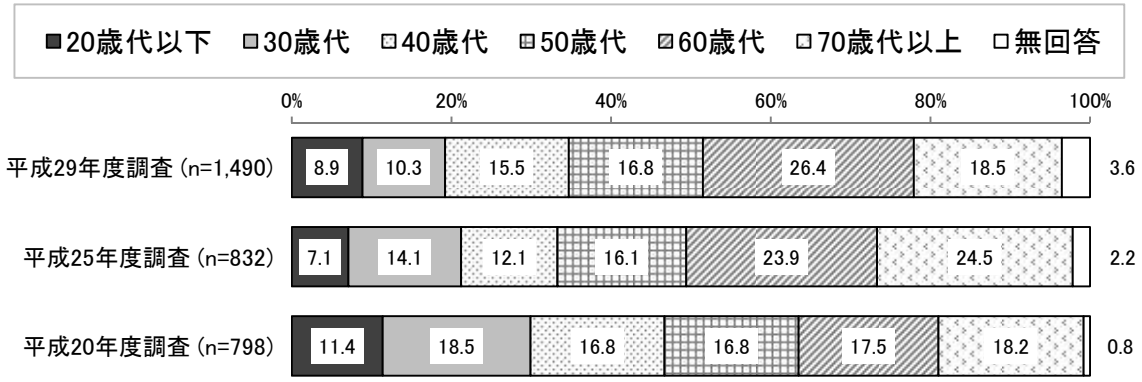
１．回答者の属性

（１）性別

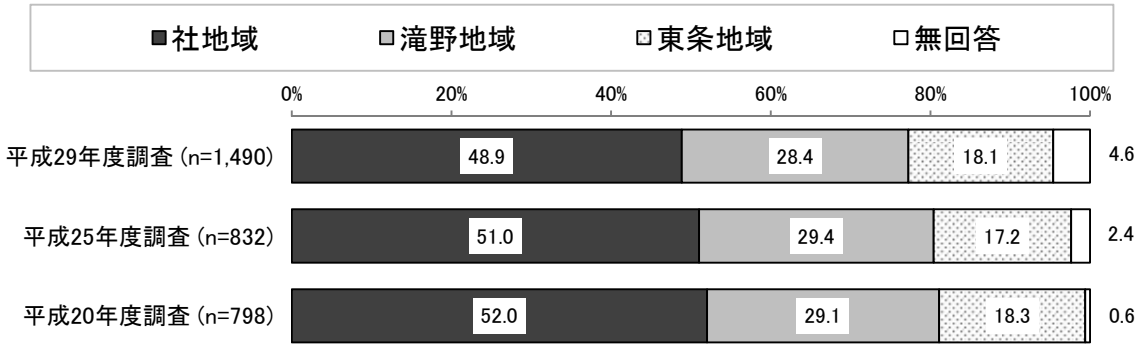


※平成 25 年度調査以前は「その他」の選択肢はありません。

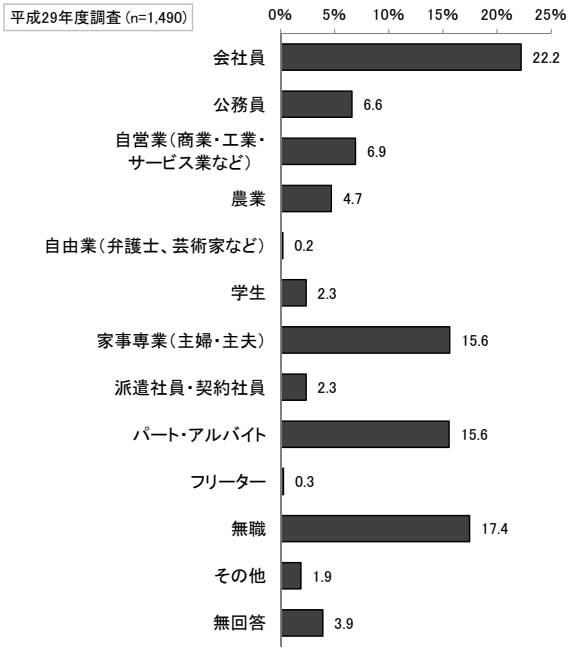
（２）年代

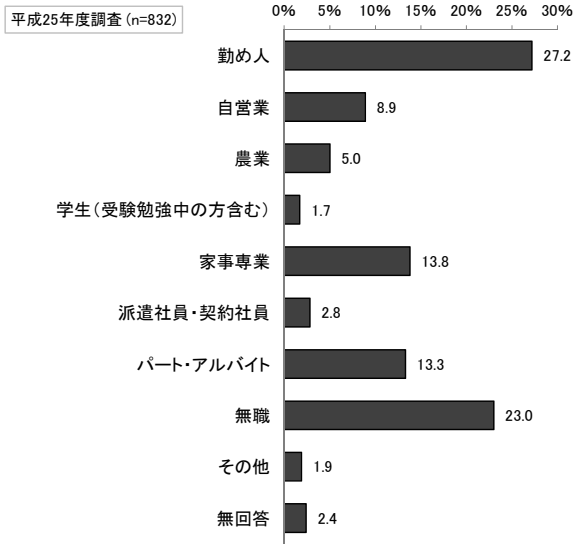


（３）居住地域

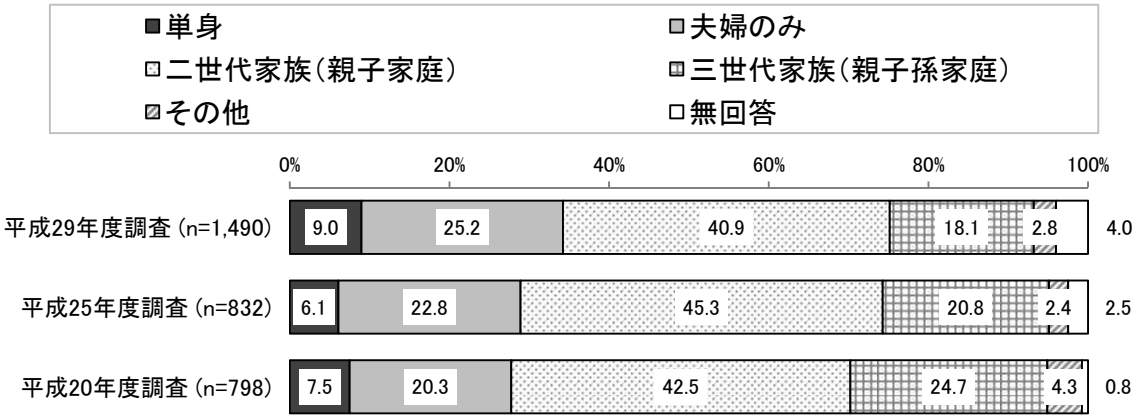


（４）職業

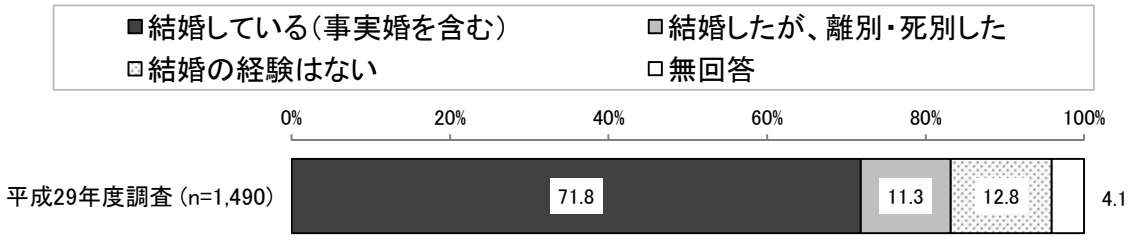

平成29年度調査（n=1,490）
0%
5%
10%
15%
20%
25%
会社員 22.2
公務員 6.6
自営業（商業・工業・サービス業など） 6.9
農業 4.7
自由業（弁護士、芸術家など） 0.2
学生 2.3
家事専業（主婦・主夫） 15.6
派遣社員・契約社員 2.3
パート・アルバイト 15.6
フリーター 0.3
無職 17.4
その他 1.9
無回答 3.9

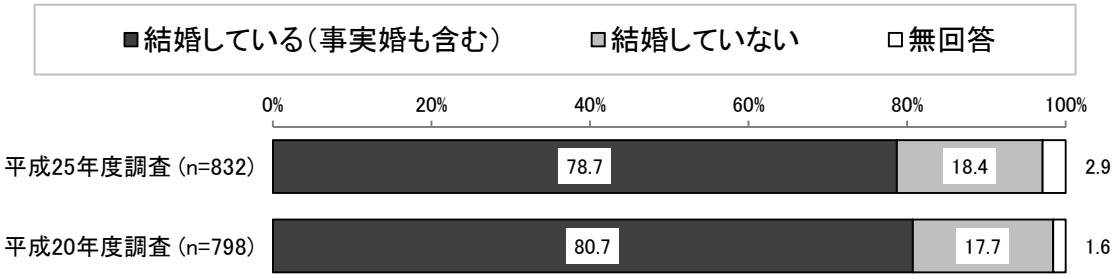

平成25年度調査（n=832）
0%
5%
10%
15%
20%
25%
30%
勤め人 27.2
自営業 8.9
農業 5.0
学生（受験勉強中の方含む） 1.7
家事専業 13.8
派遣社員・契約社員 2.8
パート・アルバイト 13.3
無職 23.0
その他 1.9
無回答 2.4

（５）家族構成


単身
夫婦のみ
二世代家族（親子家庭）
三世代家族（親子孫家庭）
その他
無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
平成29年度調査（n=1,490） 9.0 25.2 40.9 18.1 2.8 4.0
平成25年度調査（n=832） 6.1 22.8 45.3 20.8 2.4 2.5
平成20年度調査（n=798） 7.5 20.3 42.5 24.7 4.3 0.8

（６）婚姻状況

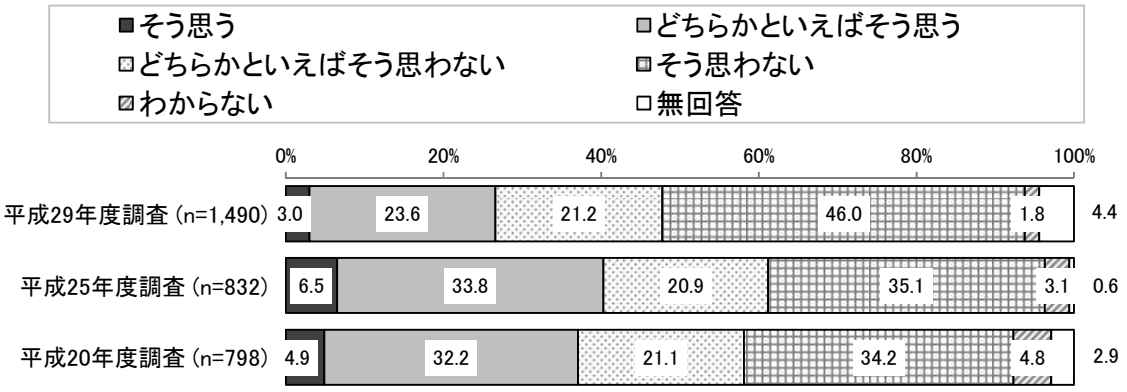

■結婚している（事実婚を含む）
■結婚したが、離別・死別した
□結婚の経験はない
□無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
平成29年度調査（n=1,490）
71.8
11.3
12.8
4.1


■結婚している（事実婚も含む）
■結婚していない
□無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
平成25年度調査（n=832）
78.7
18.4
2.9
平成20年度調査（n=798）
80.7
17.7
1.6

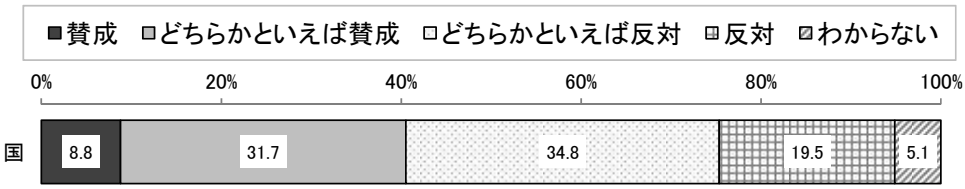
２．男女平等、役割分担について

（１）「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について

1	あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。（○は１つ）



≪国の調査結果≫



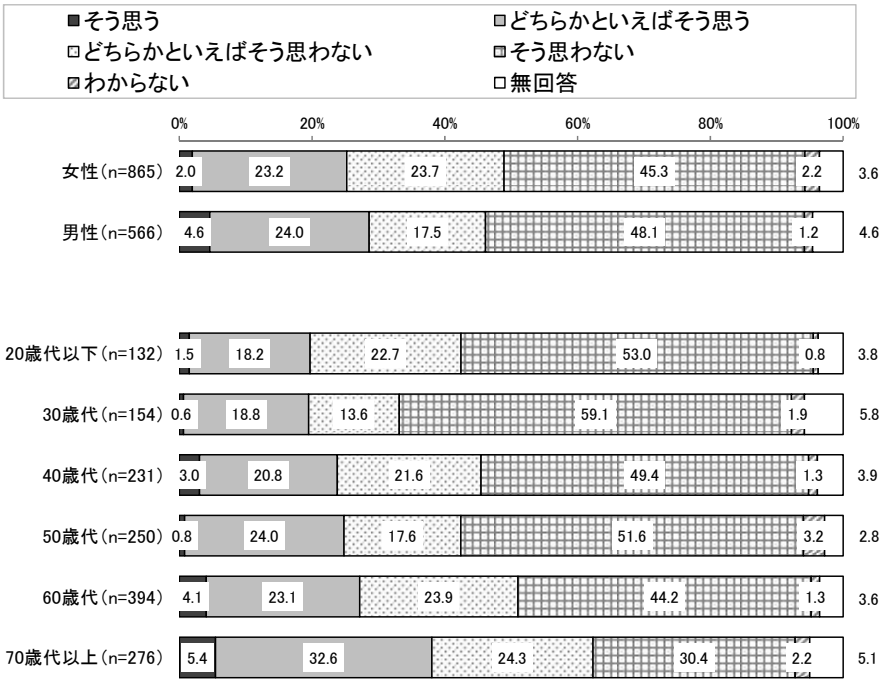
国（内閣府）	
男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年度）	
問	「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方について，あなたはどうお考えですか。この中から１つだけお答えください。

「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方についてたずねたところ、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）が 26.6%、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合）が 67.2%で、『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。

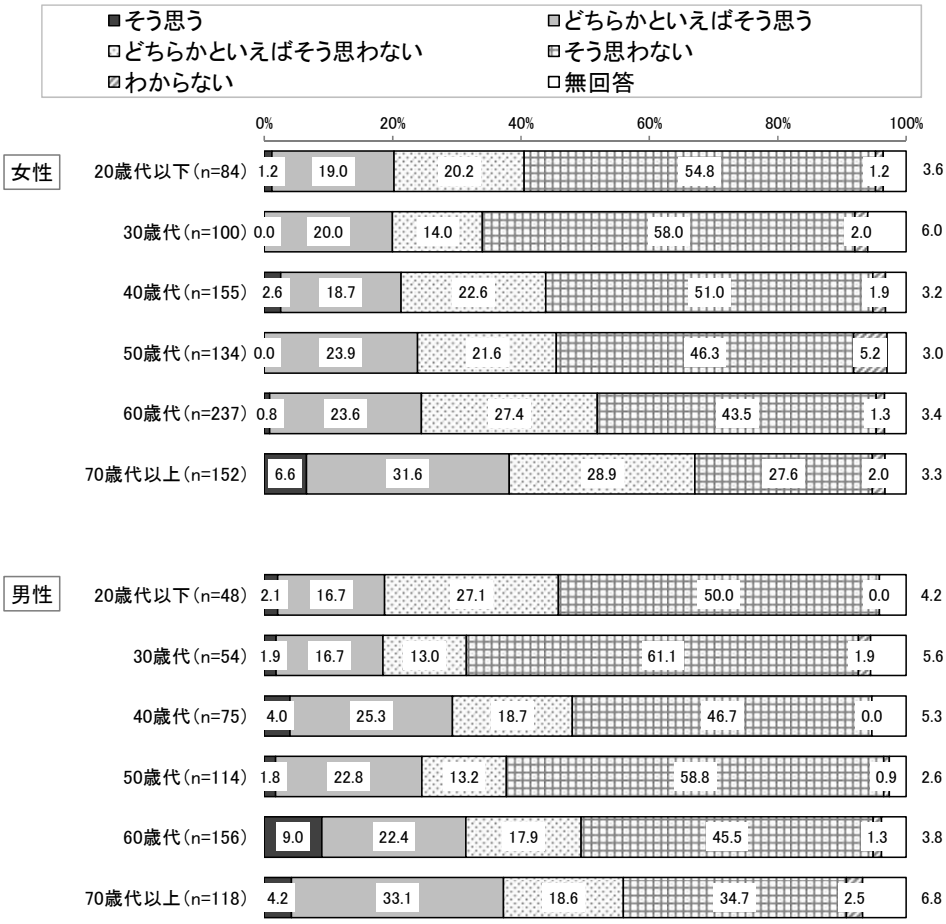
平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、『そう思わない』が増加しています。

国の調査では、『そう思う』に相当する『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）が約 41%、『そう思わない』に相当する『反対』（「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた割合）が約 54%となっています。

【性別、年齢別　「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について】



【性・年齢別　「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について】

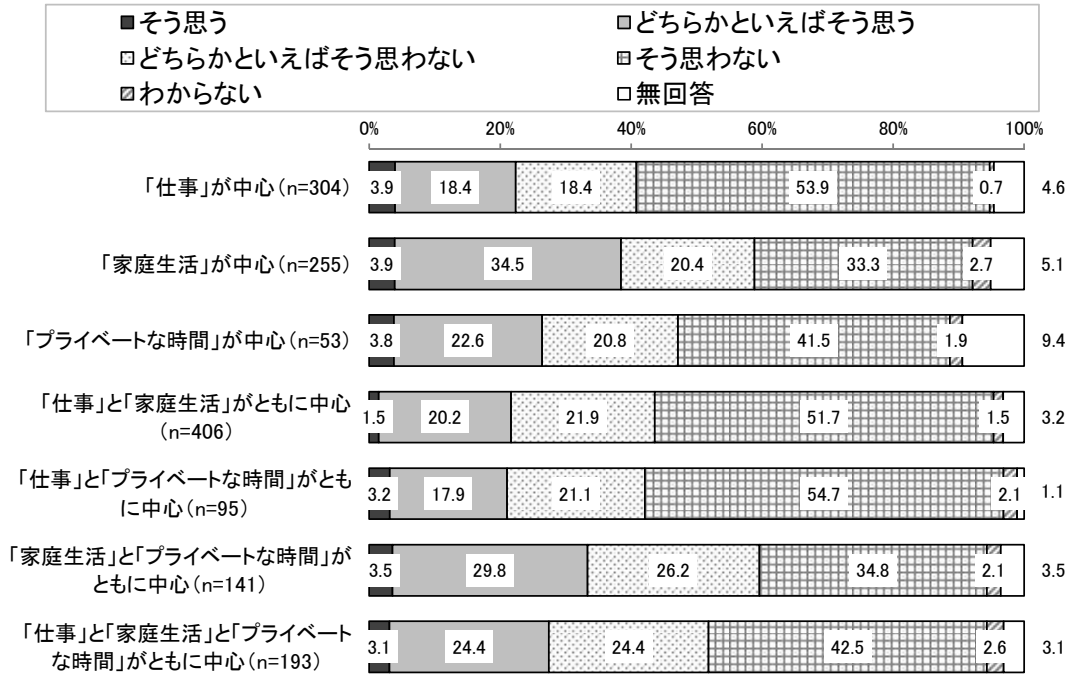


「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について性別にみると、男性は女性と比べて『そう思う』が多くなっています（女性 25.2%、男性 28.6%）。

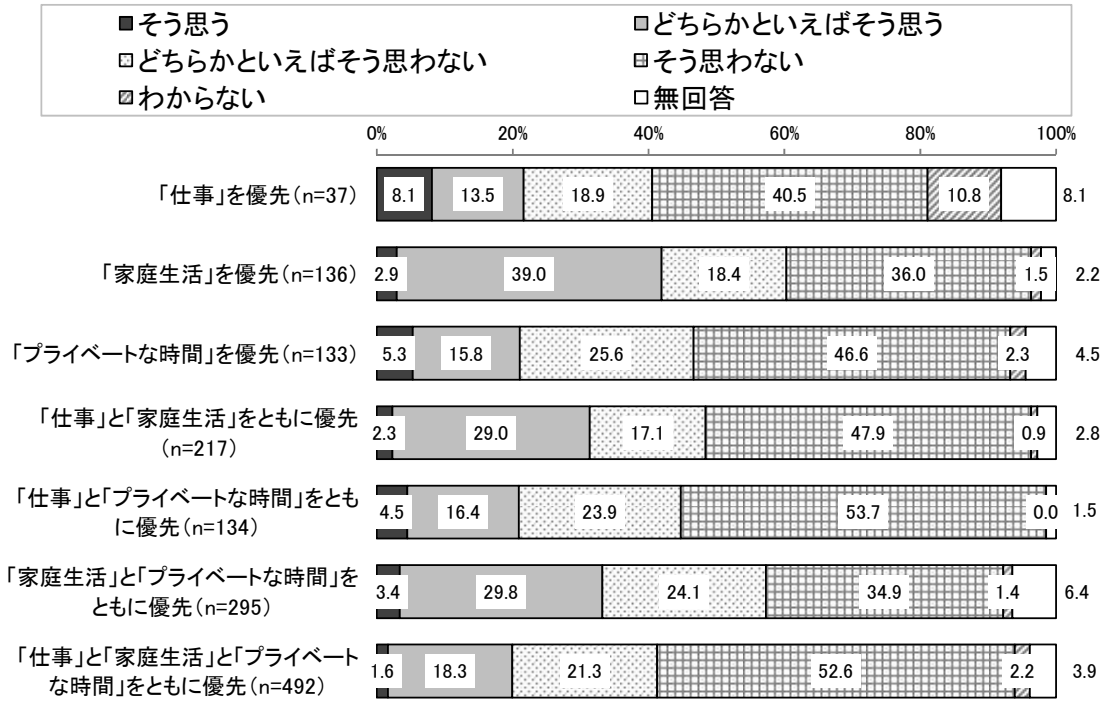
年齢別にみると、おおむね年齢が高いほど『そう思う』が多くなっています。

性・年齢別にみると、男性の 40 歳代は、比較的年齢の近い 30 歳代や 50 歳代の男性と比べて『そう思う』が多くなっています。

【ワーク・ライフ・バランスについて（現状の生活）別
「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について】



【ワーク・ライフ・バランスについて（希望の生活）別
「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について】



「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、現状および希望のワーク・ライフ・バランス別にみると、現状、希望のどちらにおいても、「「家庭生活」を優先」している人で、『そう思う』が最も多くなっています。

〈考察・まとめ〉

「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、賛成する人（『そう思う』人）は減少しています。国の調査と比べても、加東市において「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方をもつ人が少ない状況がうかがえます。

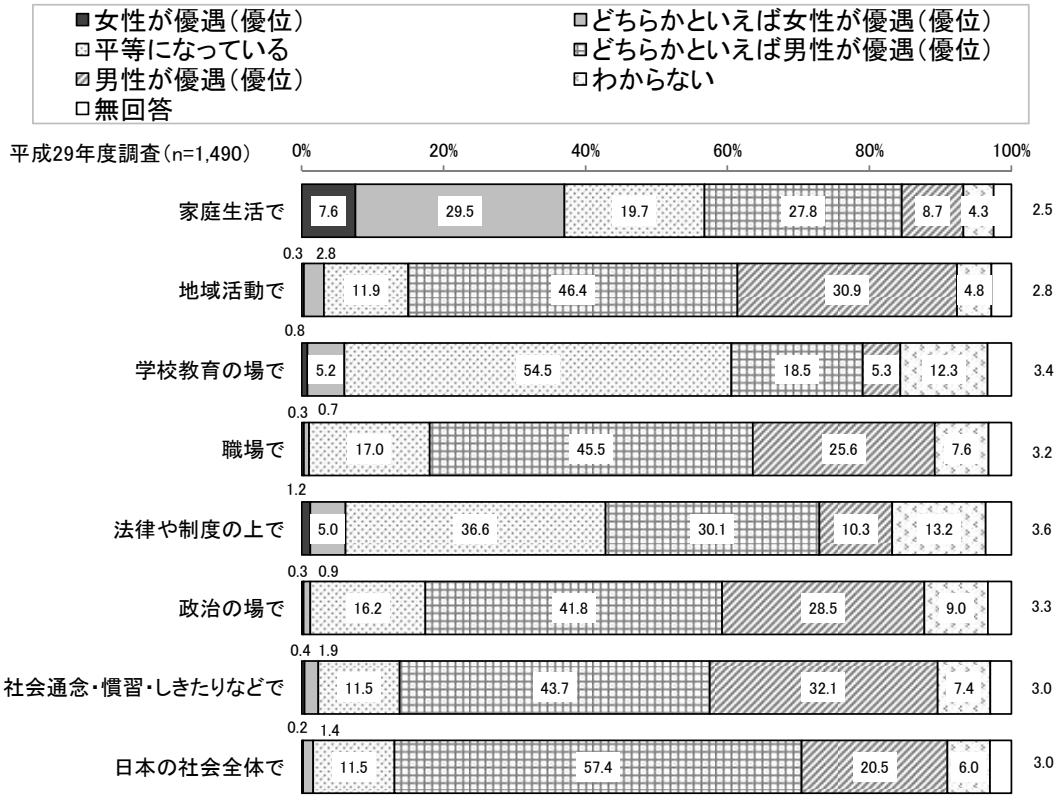
性別にみると、女性より男性のほうが固定的な性別役割分担意識をもつ人が多くなっています。

年齢別にみると、30 歳代以下の若い年代ではこの考え方に賛成する人が約 2 割にとどまっているのに対して、年齢が高い人ではこの考え方に賛成する人が多く、70 歳代以上では約 4 割に上っています。

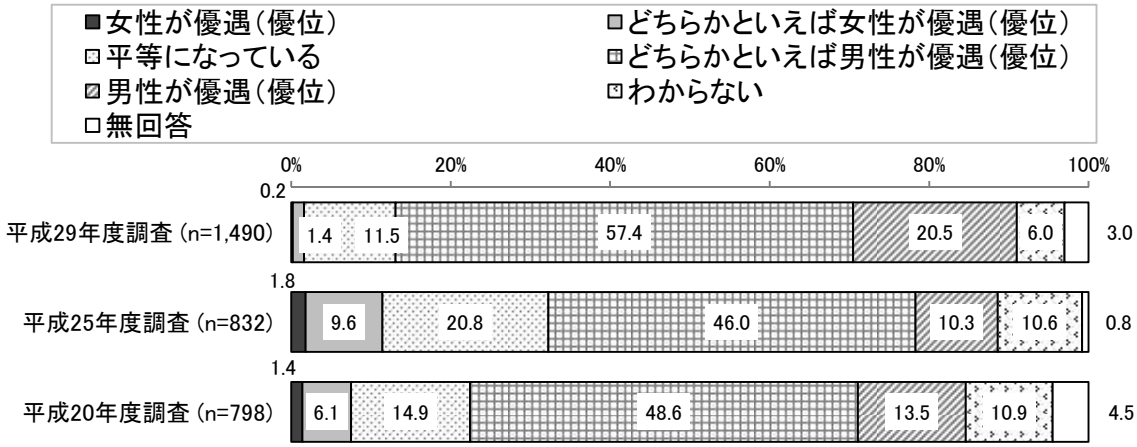
ワーク・ライフ・バランス別では、現在「家庭生活」が中心の生活を送っている人や「家庭生活」を優先したい人に、この考え方に賛成する人が多くなっています。

（２）現在の日本社会の男女の地位について

2　あなたは、現在の日本社会でみた場合の男女の地位についてどのよう感じますか。
（○はそれぞれ１つ）



【平成 25 年度調査、平成 20 年度調査との比較　「日本社会全体で」】

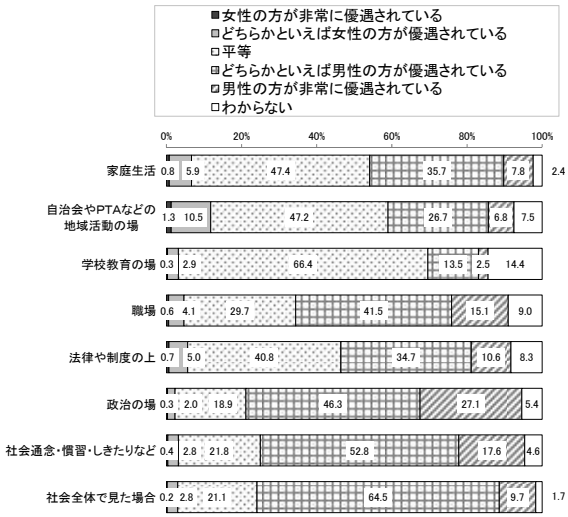


※前回までの調査では、「あなたは、現代の社会における男女の地位について、どのように思いますか」とたずねています。

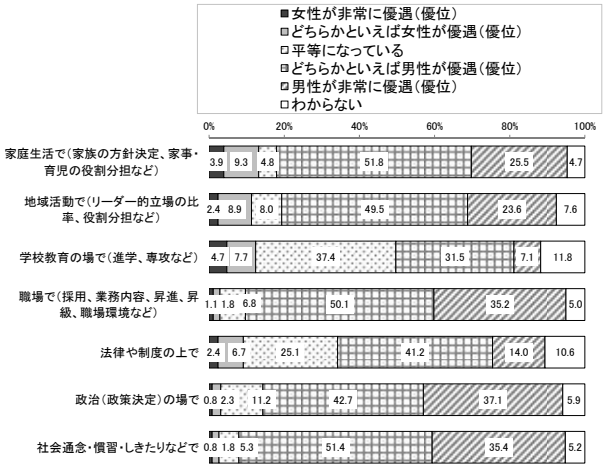
※前回までの調査では、『女性が優遇（優位）』の部分は『女性が優遇されている』、『男性が優遇（優位）』の部分は『男性が優遇されている』となっています。

≪国・県の調査結果≫

【国の調査結果】



【県の調査結果】



国（内閣府）		県	
男女共同参画社会に関する世論調査 （平成 28 年度）		県民モニター「第３回アンケート調査」 （平成 26 年度）	
問	あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを 1 つだけお答えください。	問	今の日本社会全体でみた場合、次のような男女の地位はどのようになっていると思いますか。それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

現在の日本社会の男女の地位について感じることをたずねたところ、家庭生活を除くいずれの場面においても『男性が優遇』（「どちらかといえば男性が優遇（優位）」と「男性が優遇（優位）」を合わせた割合）が『女性が優遇』（「女性が優遇（優位）」と「どちらかといえば女性が優遇（優位）」）を上回っています。

「地域活動で」、「職場で」、「政治の場で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「日本の社会全体で」については、『男性が優遇』が 7 割を超えています。

「法律や制度の上で」については、『男性が優遇』が他の場面に比べて少ないものの、「平等になっている」を上回っています。

「学校教育の場で」については、「平等になっている」が過半数を占めています。

「家庭生活で」については、『女性が優遇』と『男性が優遇』が同じ程度の割合となっています。

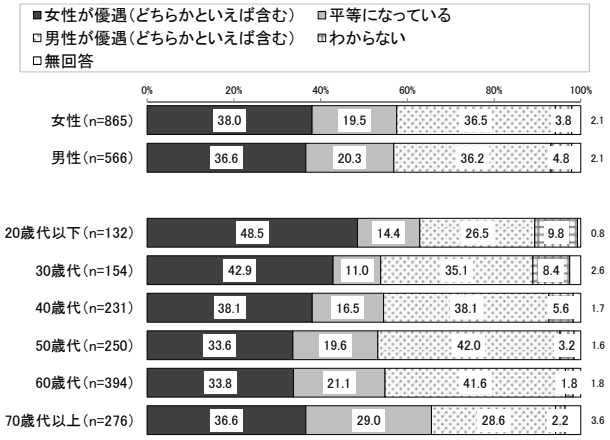
「日本の社会全体で」について、平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、「平等になっている」が減少し、『男性が優遇』が増加しています。

国の調査では、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体で見た場合」については『男性の方が優遇』（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「男性の方が非常に優遇されている」を合わせた割合）が 7 割を超えていますが、「家庭生活」、「自治会やＰＴＡなどの地域活動の場」、「学校教育の場」、「法律や制度の上」については「平等」が最も多くなっています。

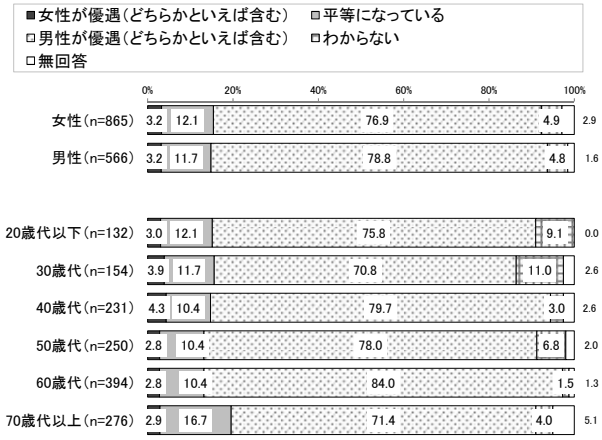
県の調査では、いずれの場面においても『男性が優遇』（「どちらかといえば男性が優遇（優位）」と「男性が非常に優遇（優位）」を合わせた割合）が、「平等になっている」や『女性が優遇』（「女性が非常に優遇（優位）」と「どちらかといえば女性が優遇（優位）」を合わせた割合）を上回っています。

【性別、年齢別　現在の日本社会の男女の地位について】

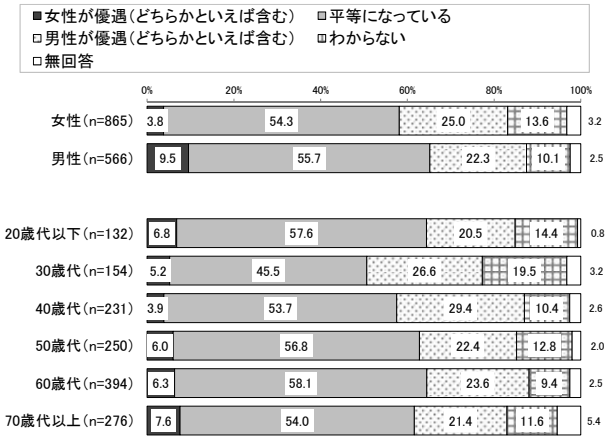
■家庭生活で



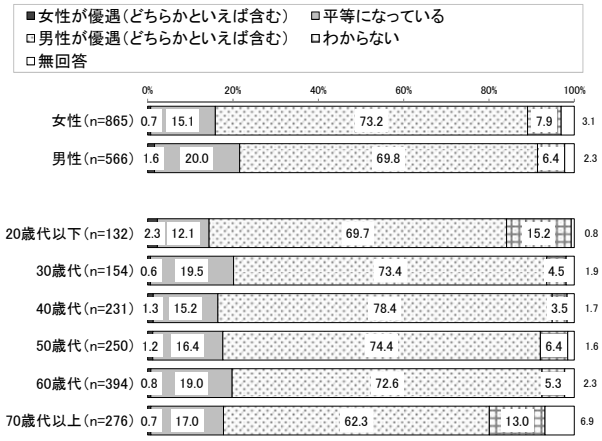
■地域活動で



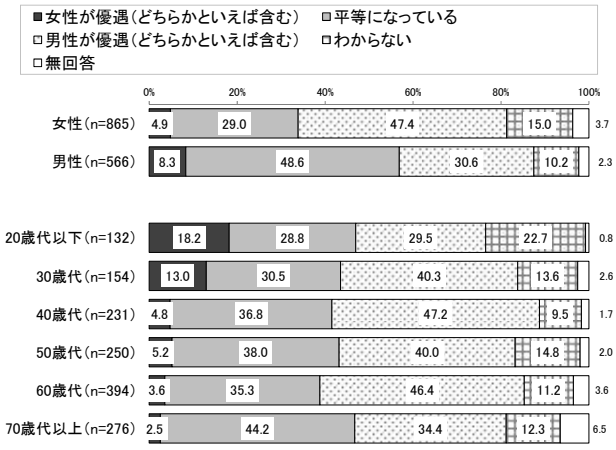
■学校教育の場で



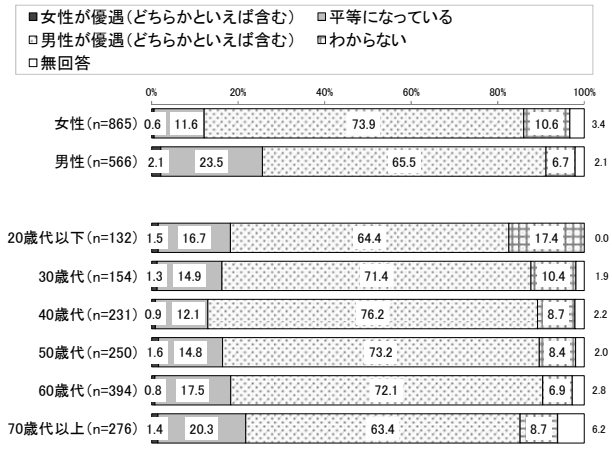
■職場で



■法律や制度の上で

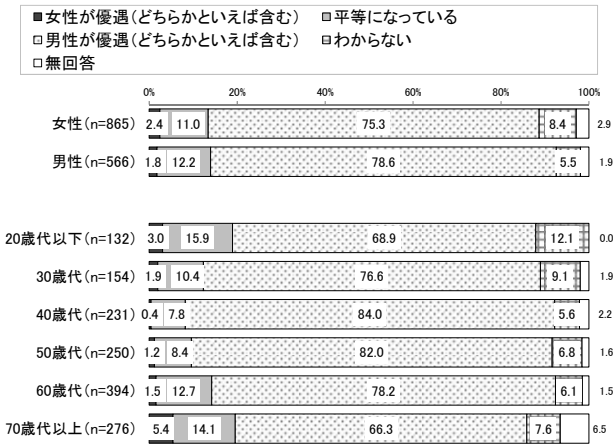


■政治の場で

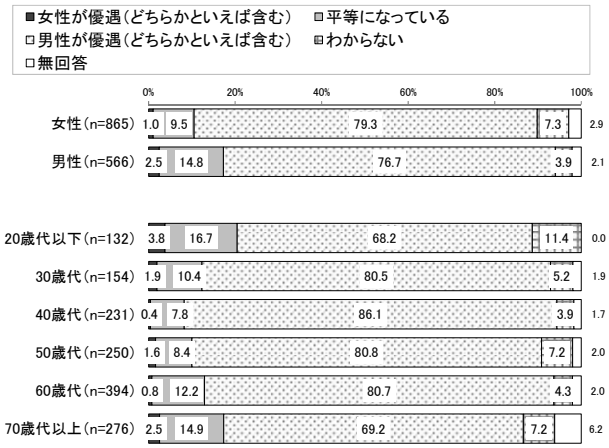


【性別、年齢別　現在の日本社会の男女の地位について】

■社会通念・慣習・しきたりなどで



■日本の社会全体で



現在の日本社会の男女の地位について感じること性別にみると、特に「法律や制度の上で」、「政治の場で」について、女性は男性と比べて『平等になっている』が少なく、『男性が優遇』が多くなっています。

年齢別にみると、「家庭生活では」についてはおおむね年齢が低いほど『女性が優遇』が多く、「平等になっている」が少なくなっています。

〈考察・まとめ〉

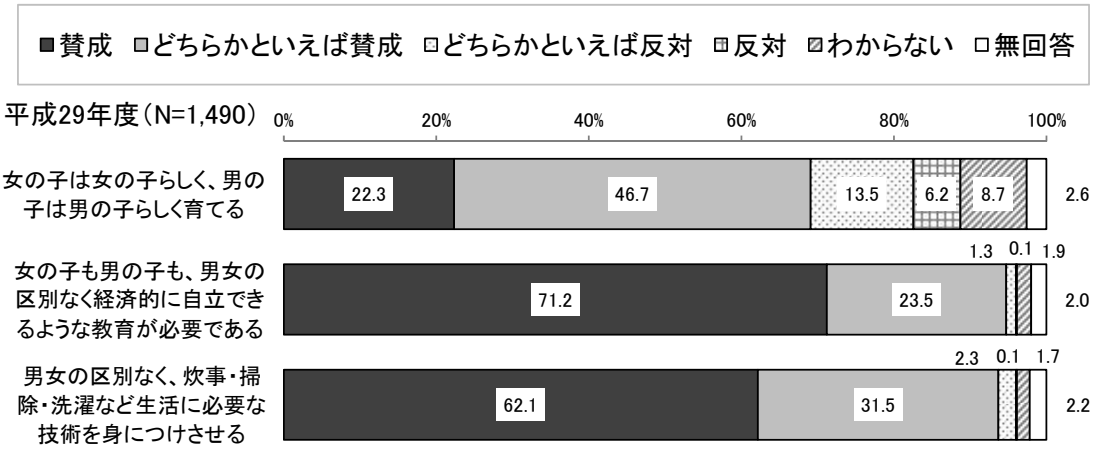
学校教育の場では「平等になっている」と感じている人が過半数いるものの、多くの場面で『男性が優遇』されていると感じている人が多くなっており、そういったことから、現在の「日本の社会全体」について、約８割の人が『男性が優遇』されている社会であると感じていることにつながっていると考えられます。

国の調査と比べると、特に家庭生活や地域活動で、男女の地位が平等になっていると感じている人が少なくなっています。

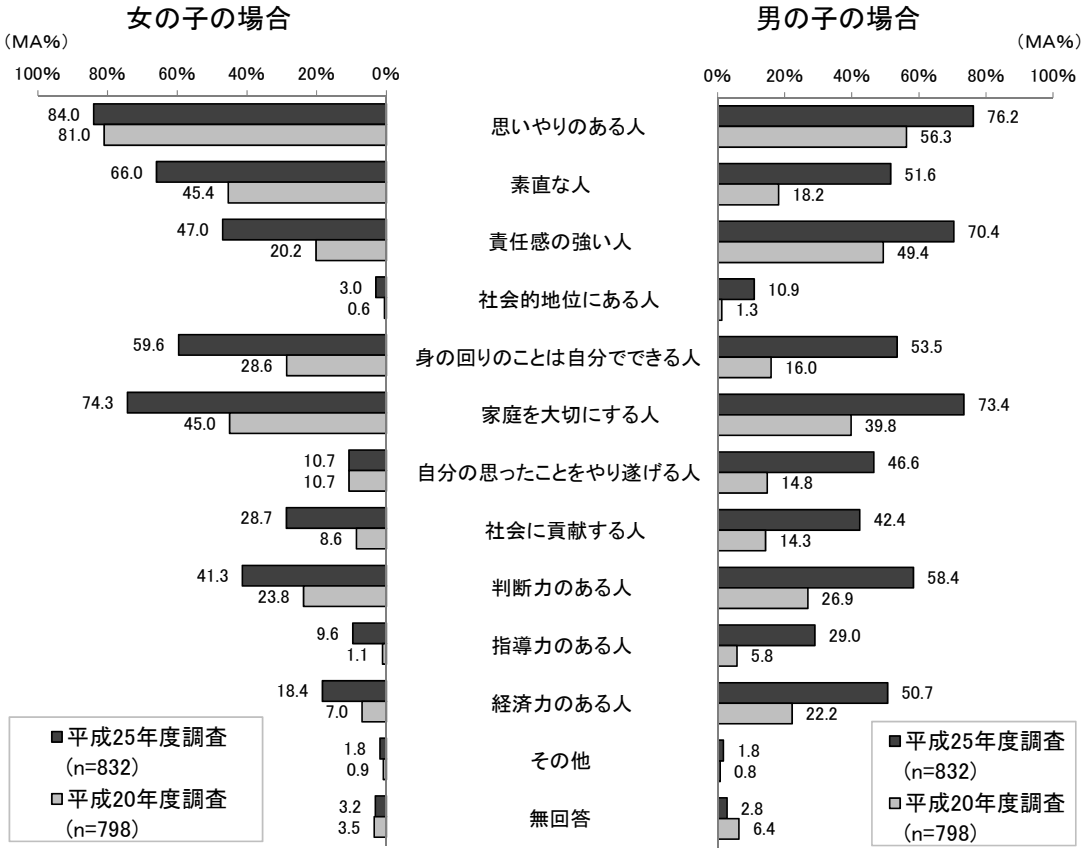
一方、県の調査と比べると、すべての場面について、平等になっていると感じている人が多くなっています。

（３）子どもの育て方について

3　子どもの育て方について、どのように思いますか。現在お子さんのいらっしゃらない方も「いる」と仮定しての考え方をお答えください。（○はそれぞれ１つ）



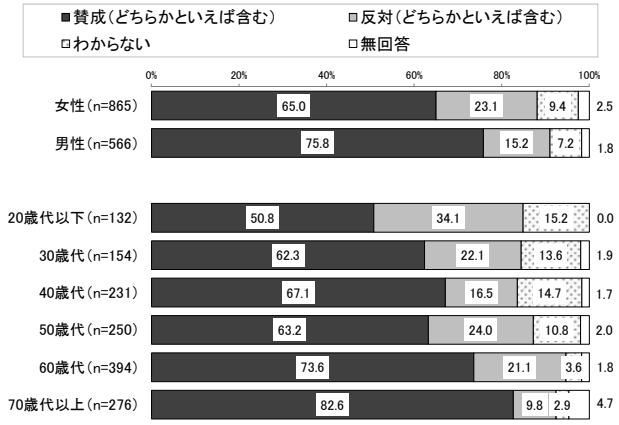
【平成 25 年度調査、平成 20 年度調査　子どもの育て方について】



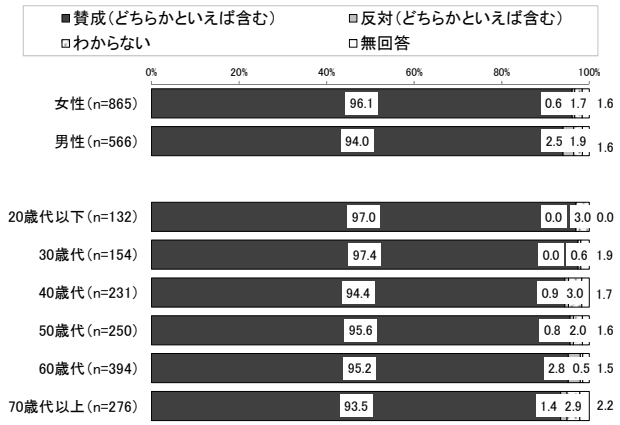
※前回までの調査では、「子どもはどのような人に育ってほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれの場合について、お答えください（○はいくつでも）」とたずねています。また、平成 20 年度については、3 つまでの回答となっています。

【性別、年齢別　子どもの育て方について】

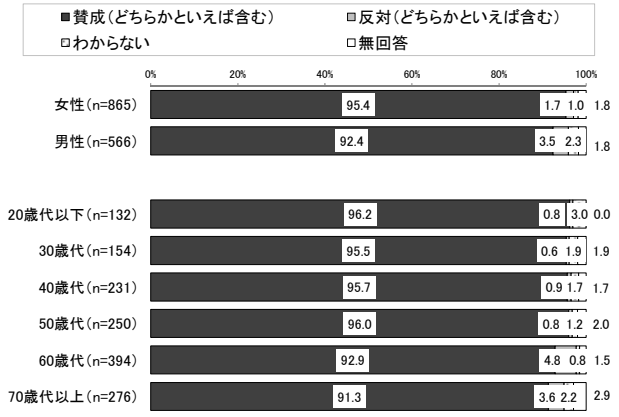
■女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる



■女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である



■男女の区別なく、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる



子どもの育て方についてたずねたところ、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」については、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）が 69.1%となっています。「女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である」、「男女の区別なく、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる」については、『賛成』がそれぞれ 94.7%、93.7%と、9 割を超えています。

性別にみると、「女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である」、「男女の区別なく、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる」については男女で大きな差はみられませんが、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」については、男性は女性と比べて『賛成』が多くなっています。

年齢別にみると、「女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である」、「男女の区別なく、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる」については年齢で大きな差はみられませんが、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」については、年齢が高いほど『賛成』が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

経済的な自立や家事の習得については男女の区別なく必要なことだと考えている人が多くなっています。

一方、性別による「らしさ」を意識して子どもを育てることについては賛成する人が約7割と多くなっており、固定的な性別役割分担意識につながりかねないことや、性別によって本人の希望する生き方を保護者などから否定されることにつながりかねないことが懸念されます。

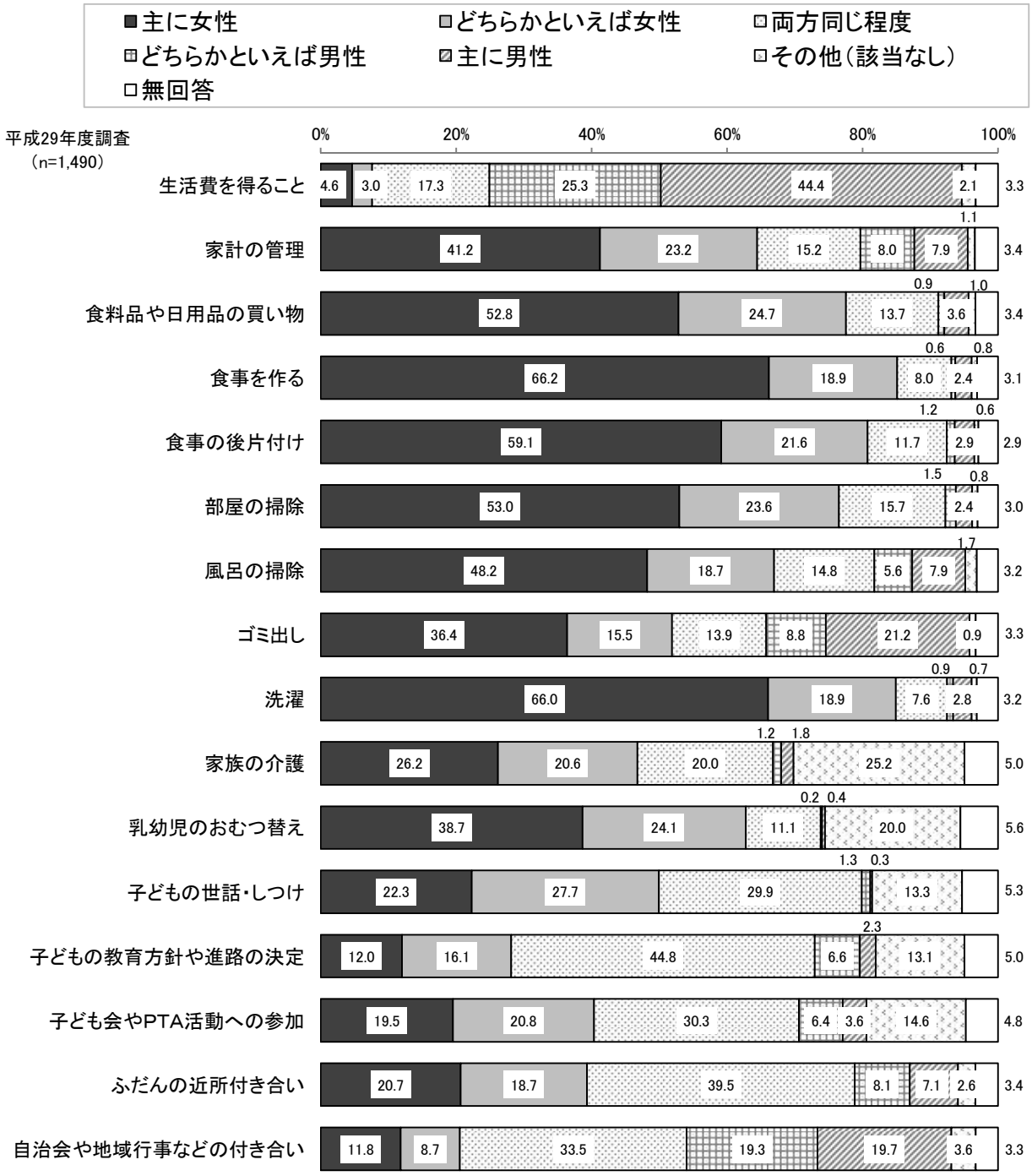
年齢が低いほど、子どもの性別を意識した子育てに賛成する人は少ないものの、30歳代以下の若い世代でも『賛成』は5割を超えていることから、全世代に対する啓発が必要であることがうかがえます。

平成25年度調査と平成29年度調査で質問の仕方や回答方法が異なるため単純には比較できませんが、経済力の有無については、平成25年度調査の女の子の場合の割合が2割以下と少なく、男の子の場合は約5割と、子どもの性別によって考え方に差がみられましたが、平成29年度調査では男女ともに自立できるような教育が必要との考え方に9割以上の人が賛成していることから、経済力に関する子どもの育て方については性別による育て方の違いが減少してきたと考えられます。

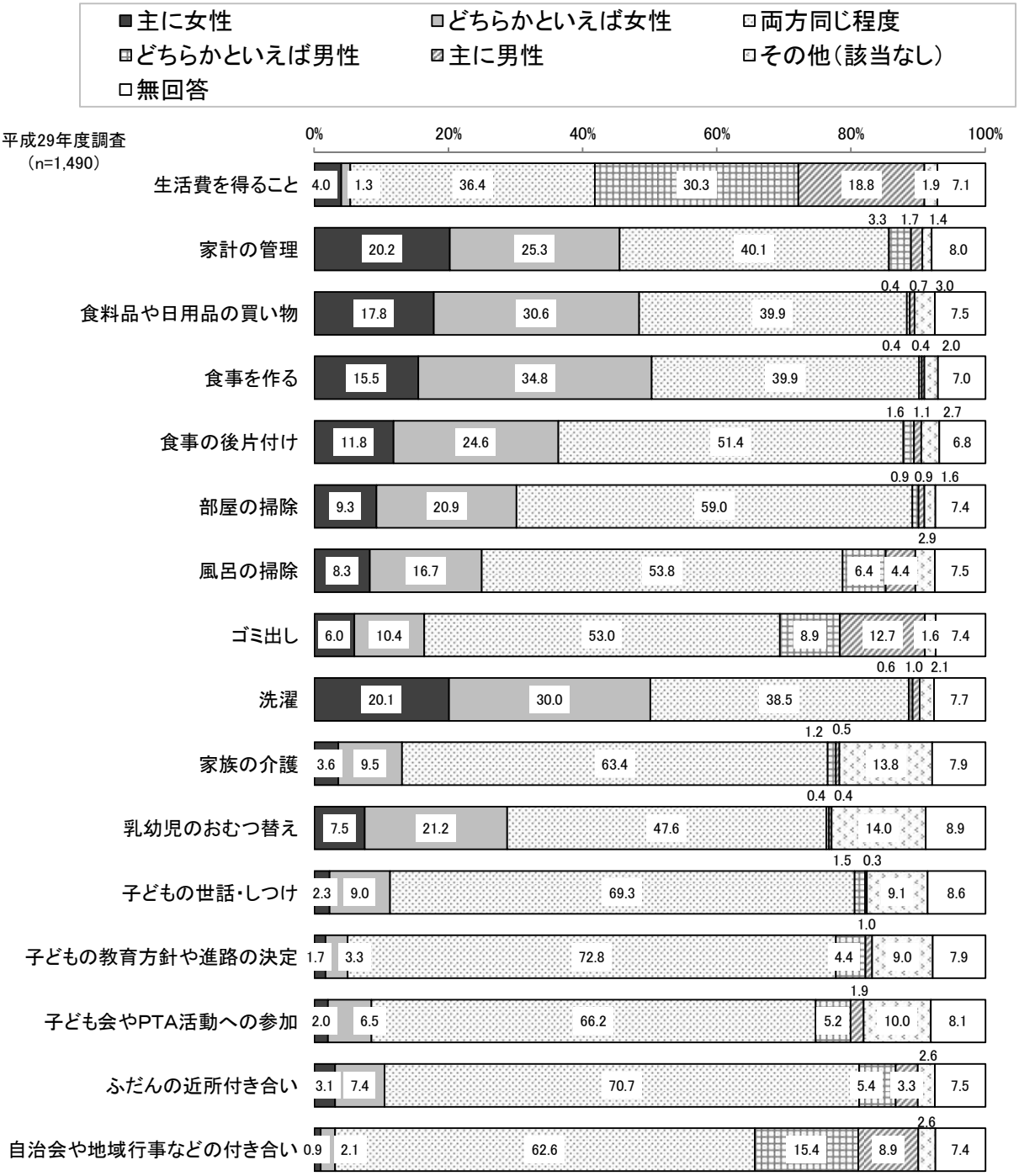
（４）家庭での役割分担について（「実際」と「希望」）

4　あなたのご家庭では、次にあげるようなことをどなたがされていますか。また、希望はどのようなものですか。（現状と希望のそれぞれについて○は１つ） 希望については、配偶者（パートナー）のいらっしゃらない方も「いる」と仮定しての考え方をお答えください。また、主にお子さん（中学生以下）がお手伝いされている場合は、「その他（該当なし）６」に○をつけてください。

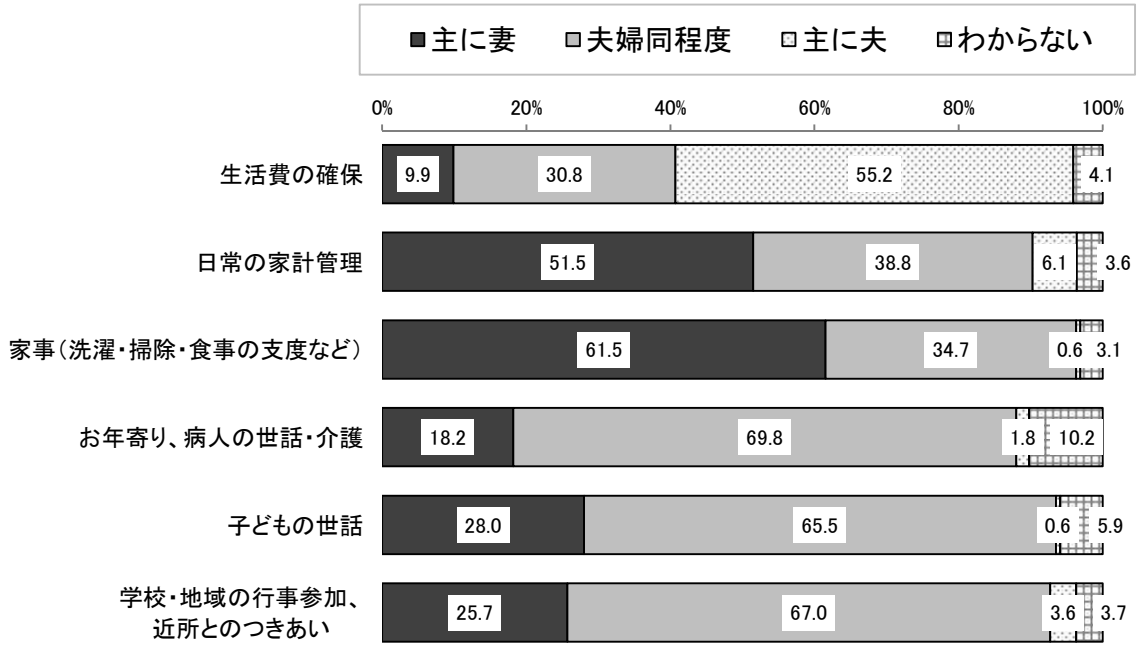
■実際



■希望


■主に女性
□どちらかといえば女性
□両方同じ程度
□どちらかといえば男性
□主に男性
□その他（該当なし）
□無回答
平成29年度調査
（n=1,490）
0%
20%
40%
60%
80%
100%
生活費を得ること 4.0 1.3 36.4 30.3 18.8 1.9 7.1
家計の管理 20.2 25.3 40.1 3.3 1.7 1.4 8.0
食料品や日用品の買い物 17.8 30.6 39.9 0.4 0.7 3.0 7.5
食事を作る 15.5 34.8 39.9 0.4 0.4 2.0 7.0
食事の後片付け 11.8 24.6 51.4 1.6 1.1 2.7 6.8
部屋の掃除 9.3 20.9 59.0 0.9 0.9 1.6 7.4
風呂の掃除 8.3 16.7 53.8 6.4 4.4 2.9 7.5
ゴミ出し 6.0 10.4 53.0 8.9 12.7 1.6 7.4
洗濯 20.1 30.0 38.5 0.6 1.0 2.1 7.7
家族の介護 3.6 9.5 63.4 1.2 0.5 13.8 7.9
乳幼児のおむつ替え 7.5 21.2 47.6 0.4 0.4 14.0 8.9
子どもの世話・しつけ 2.3 9.0 69.3 1.5 0.3 9.1 8.6
子どもの教育方針や進路の決定 1.7 3.3 72.8 4.4 1.0 9.0 7.9
子ども会やPTA活動への参加 2.0 6.5 66.2 5.2 1.9 10.0 8.1
ふだんの近所付き合い 3.1 7.4 70.7 5.4 3.3 2.6 7.5
自治会や地域行事などの付き合い 0.9 2.1 62.6 15.4 8.9 2.6 7.4

≪県の調査結果≫



県	
県民モニター「第３回アンケート調査」（平成 26 年度）	
問	家庭での役割分担についてお尋ねします。それぞれについて、一般に、夫婦はどのように役割を分担するのがよいと思いますか。当てはまるものを、一つ選んでください。

家庭での現在の役割分担の状況についてたずねたところ、「両方同じ程度」が最も多くなっている役割は、「子どもの教育方針や進路の決定」（44.8%）と「ふだんの近所付き合い」（39.5%）の２項目のみとなっています。

『男性』（「どちらかといえば男性」と「主に男性」を合わせた割合）」が最も多くなっている役割は、「生活費を得ること」(69.7%)と「自治会や地域行事などの付き合い」(39.1%)となっています。

それ以外の役割については『女性』（「主に女性」と「どちらかといえば女性」を合わせた割合）が最も多くなっており、特に「食事を作る」（85.1%）、「洗濯」（84.9%）、「食事の後片付け」(80.7%)、「食料品や日用品の買い物」(77.5%)、「部屋の掃除」(76.5%)については７割を超えています。

希望する家庭の役割分担については、「生活費を得ること」のみ『男性』（「どちらかといえば男性」と「主に男性」を合わせた割合）」が最も多く、49.1%となっています。

『女性』（「主に女性」と「どちらかといえば女性」を合わせた割合）が最も多くなっている役割は、「食事を作る」（50.3%）、「洗濯」（50.1%）、「食料品や日用品の買い物」（48.4%）、「家計の管理」（45.5%）となっています。

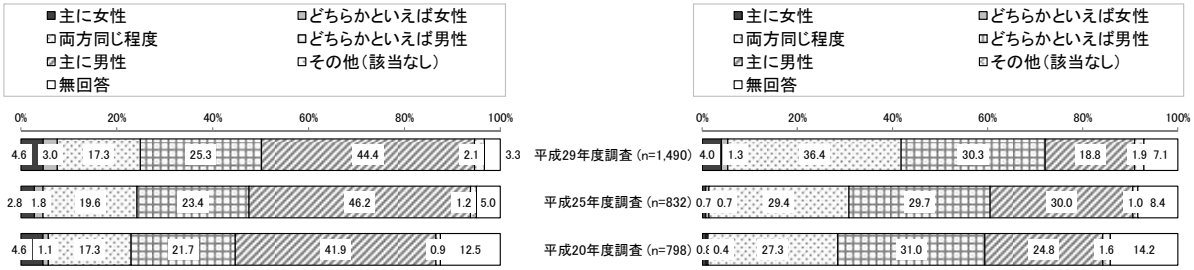
それ以外の役割については、「両方同じ程度」が最も多くなっています。

県の調査では、家庭での役割分担の希望については、「家事」、「日常の家計管理」については「主に妻」が、「生活費の確保」は「主に夫」が、「学校・地域の行事参加、近所とのつきあい」、「子どもの世話」、「お年寄り、病人の世話・介護」は「夫婦同程度」が、それぞれ最も多くなっています。

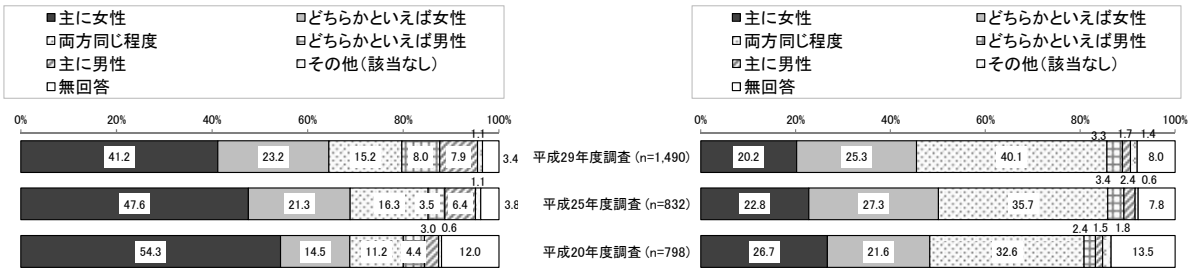
【調査年度別　家庭での役割分担について（「実際」と「希望」）】

実際　　希望

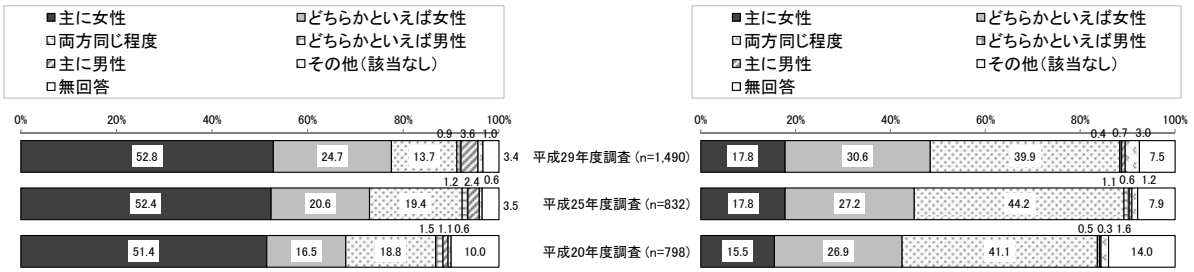
■生活費を得ること



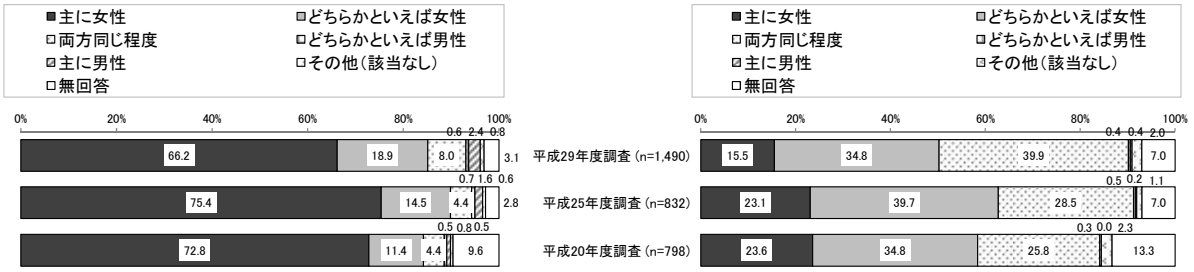
■家計の管理



■食料品や日用品の買い物



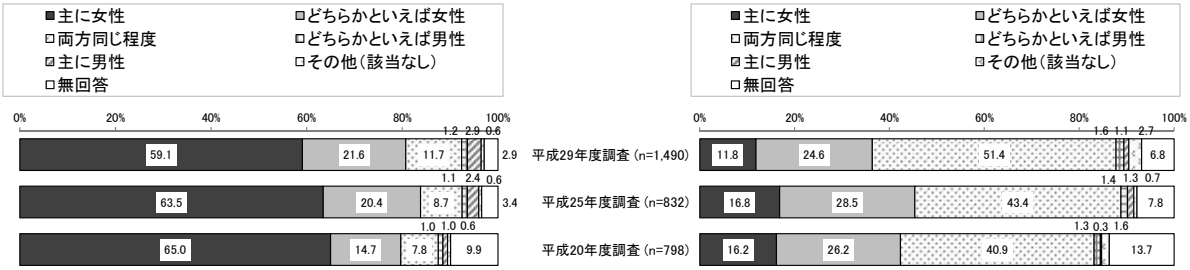
■食事を作る



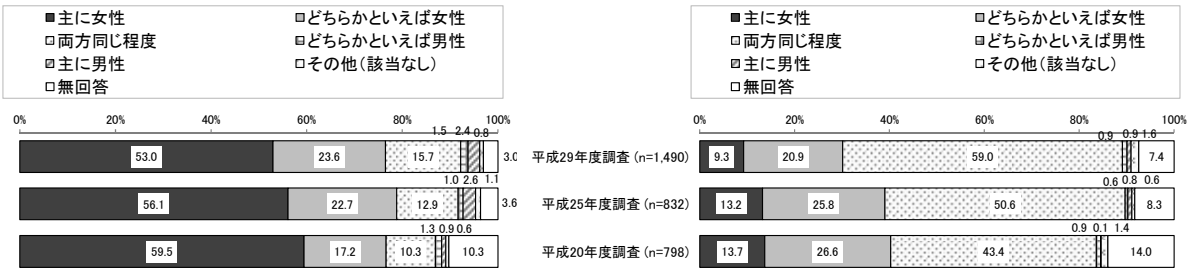
【調査年度別　家庭での役割分担について（「実際」と「希望」）】

実際　　希望

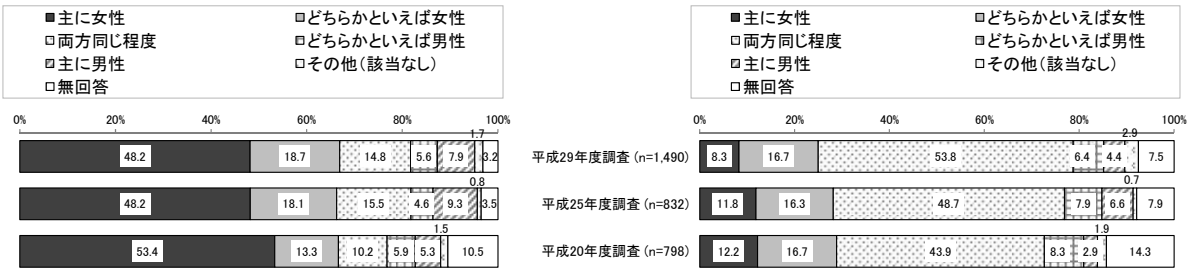
■食事の後片付け



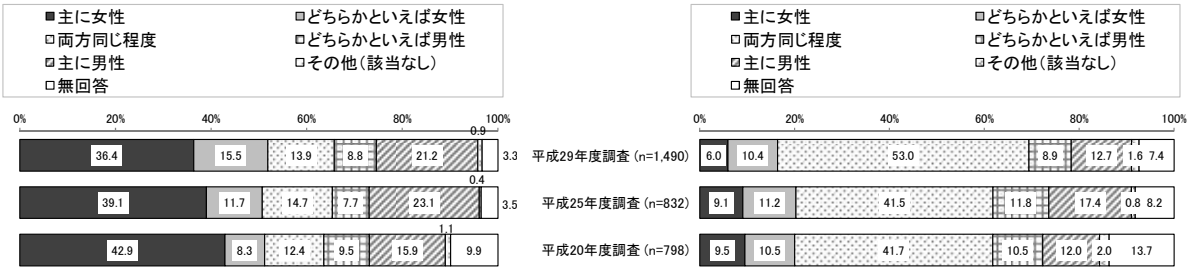
■部屋の掃除



■風呂の掃除



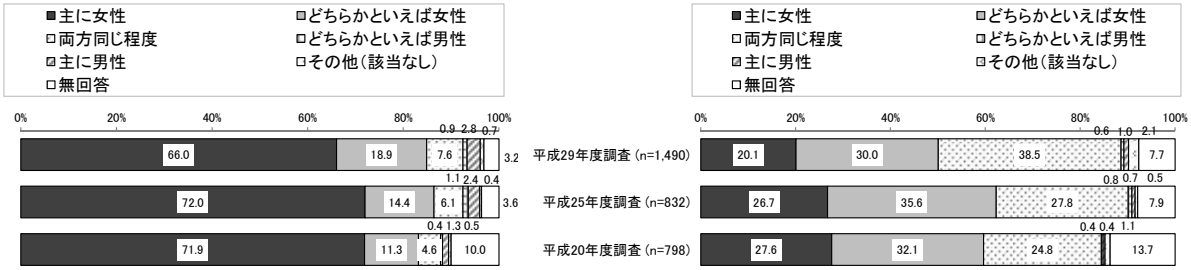
■ゴミ出し



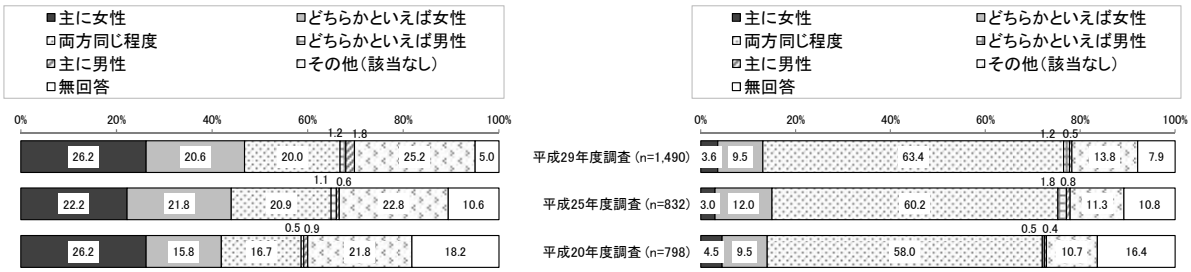
【調査年度別　家庭での役割分担について（「実際」と「希望」）】

実際　　希望

■洗濯

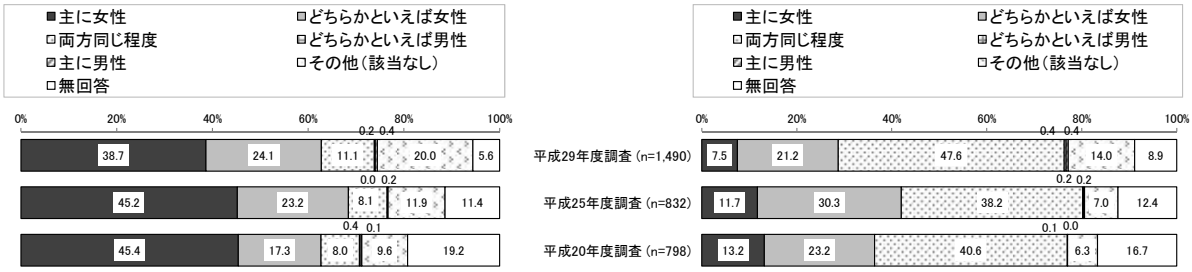


■家族の介護



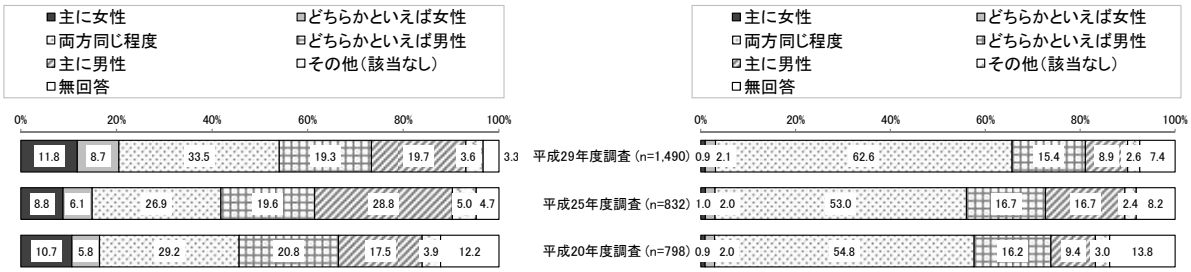
※「家族の介護」は、前回までの調査では「家族（高齢者）の介護」となっています。

■乳幼児のおむつ替え



※「乳幼児のおむつ替え」は、前回までの調査では「乳幼児の世話」となっています。

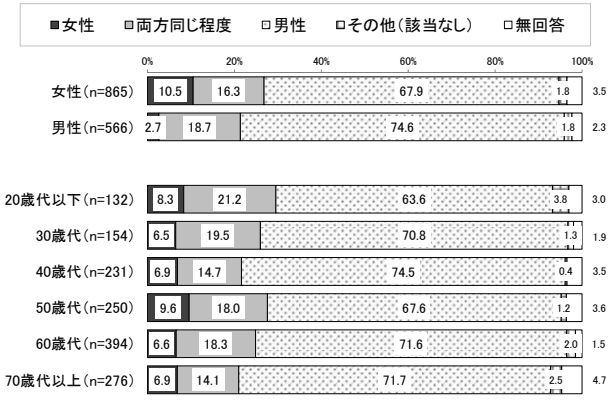
■自治会や地域行事などの付き合い



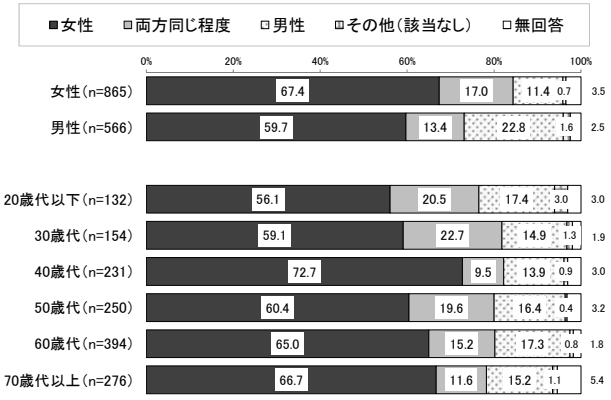
家庭での役割分担について平成 25 年度調査や平成 20 年度調査と比べると、実際の役割分担では「自治会や地域行事などの付き合い」は「両方同じ程度」が増加しています。希望の役割分担では「食料品や日用品の買い物」は『女性』が増加していますが、それ以外の場面では「両方同じ程度」が増加しています。

【性別、年齢別　家庭での役割分担について（「実際」）】

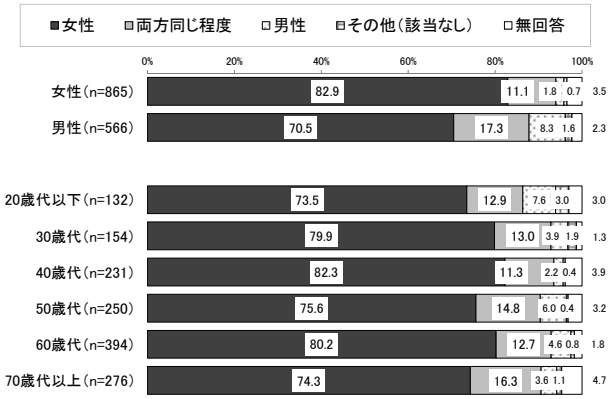
■生活費を得ること



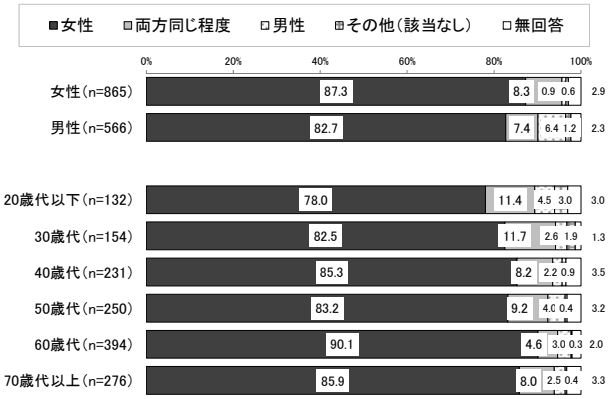
■家計の管理



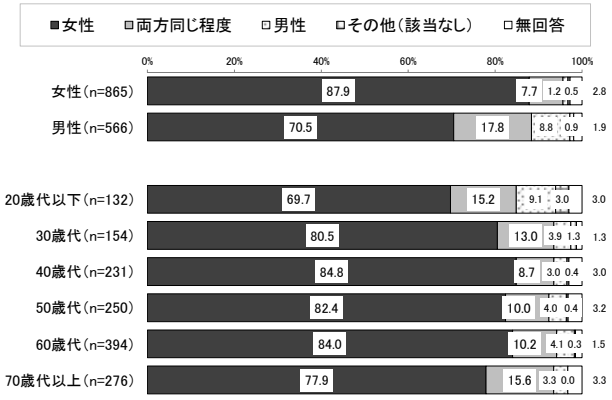
■食料品や日用品の買い物



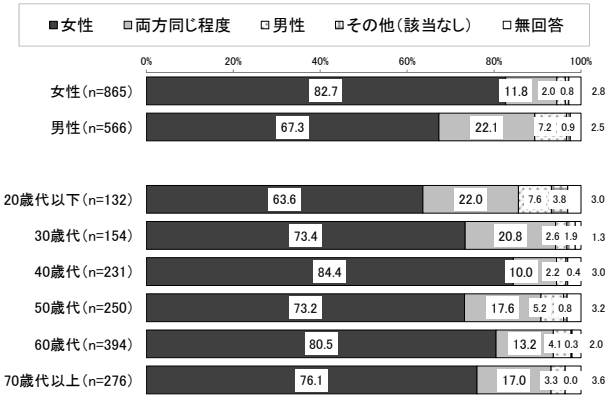
■食事を作る



■食事の後片付け

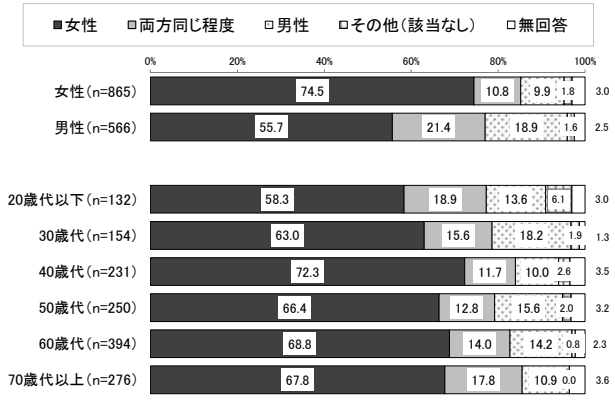


■部屋の掃除

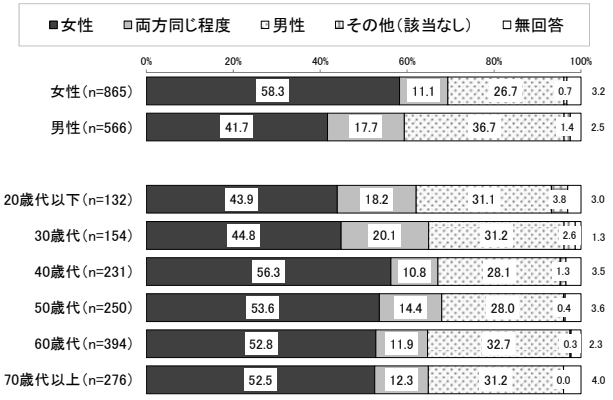


【性別、年齢別　家庭での役割分担について（「実際」）】

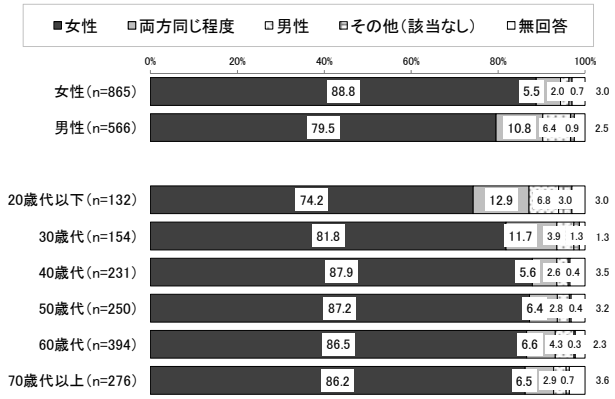
■風呂の掃除



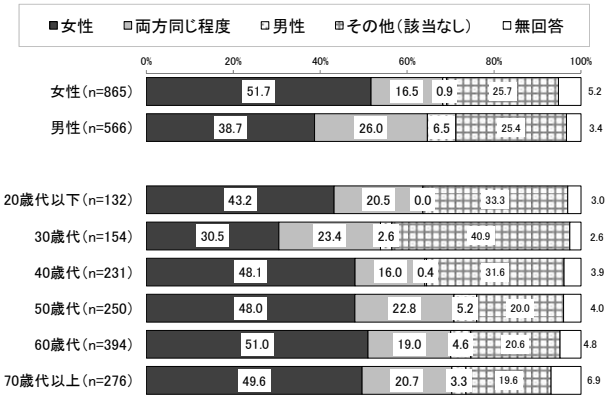
■ゴミ出し



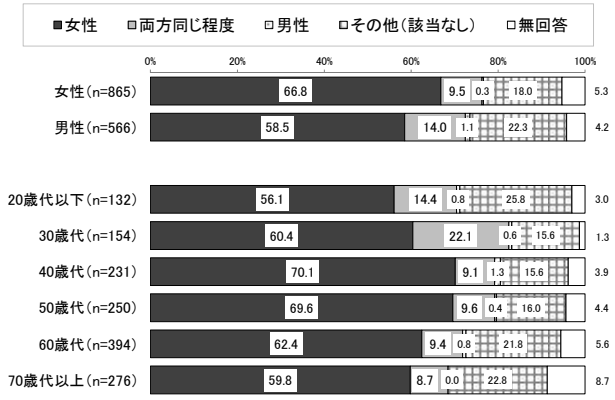
■洗濯



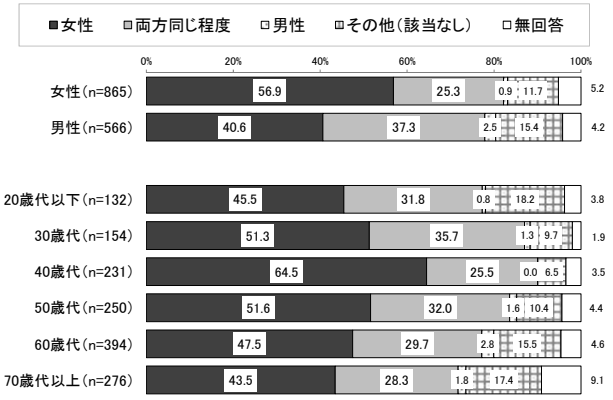
■家族の介護



■乳幼児のおむつ替え

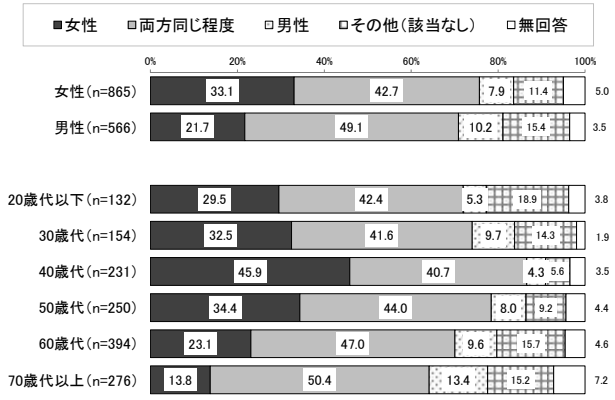


■子どもの世話・しつけ

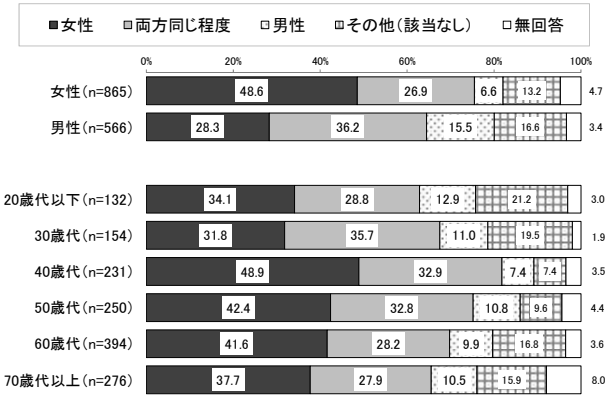


【性別、年齢別　家庭での役割分担について（「実際」）】

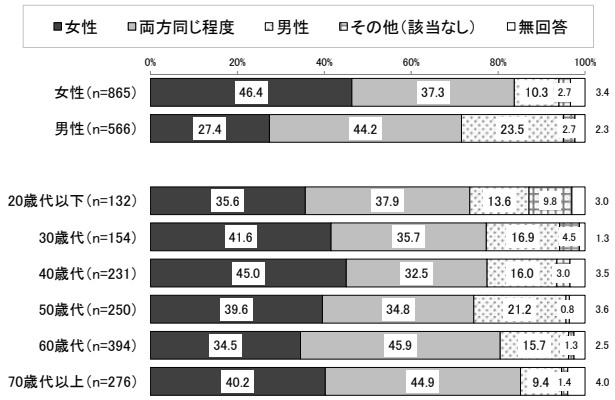
■子どもの教育方針や進路の決定



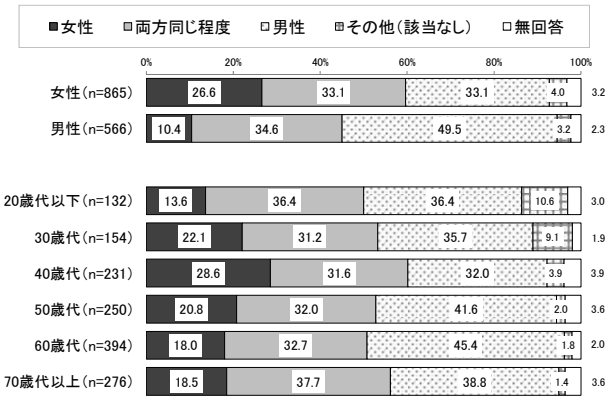
■子ども会やＰＴＡ活動への参加



■ふだんの近所付き合い



■自治会や地域行事などの付き合い



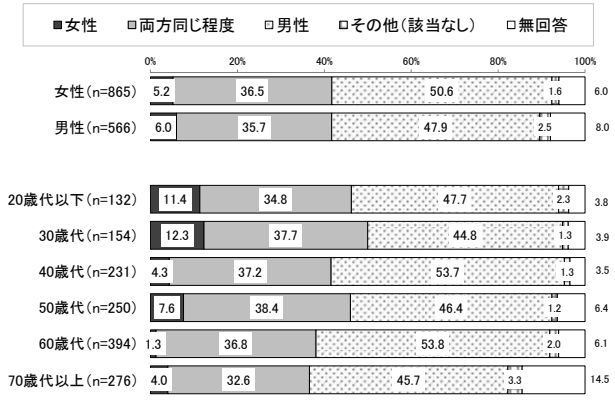
家庭での実際の役割分担の状況について性別にみると、いずれの場面においても女性は男性と比べて『女性』が多くなっています。

一方、男性は女性と比べて『男性』が多くなっています。また、「家計の管理」と「食事を作る」以外の場面では、男性は女性と比べて「両方同じ程度」が多くなっています。

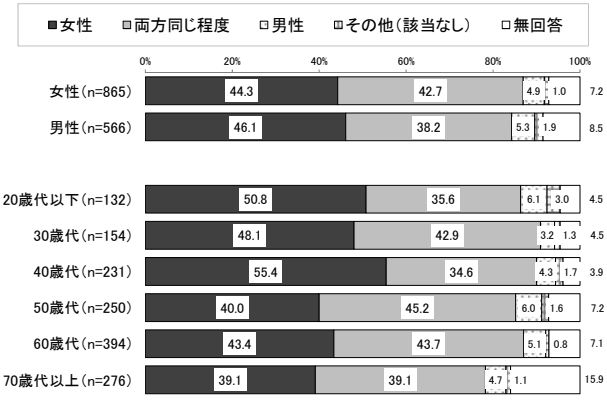
年齢別にみると、『女性』が最も多い年齢は、多くの場面で 40 歳代となっています。

【性別、年齢別　家庭での役割分担について（「希望」）】

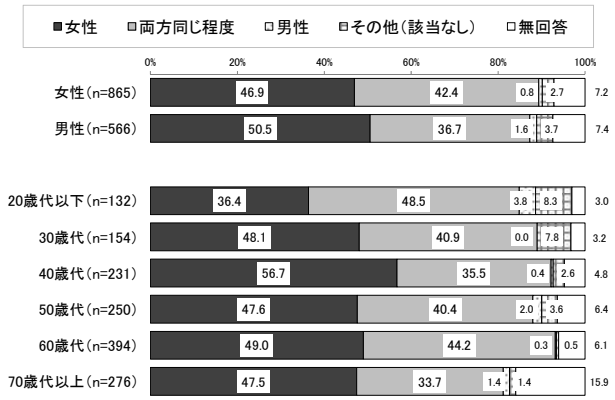
■生活費を得ること



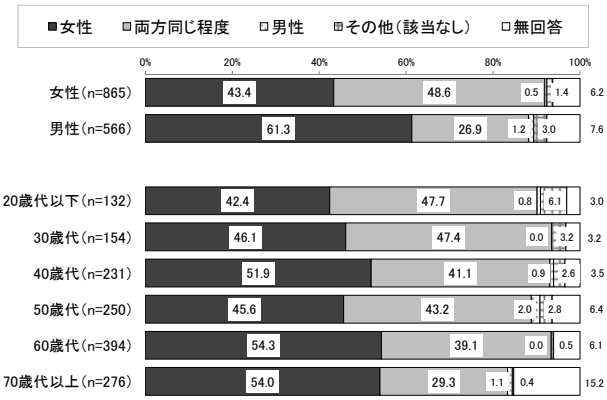
■家計の管理



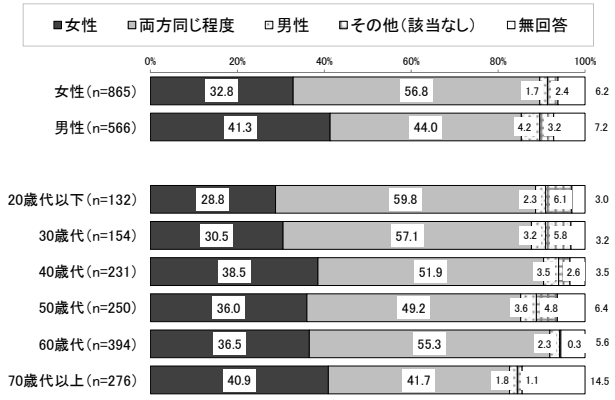
■食料品や日用品の買い物



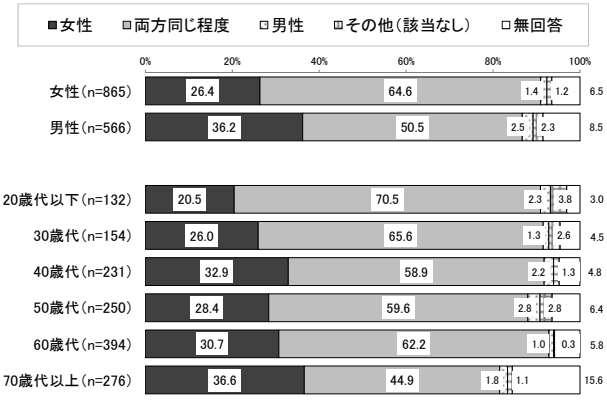
■食事を作る



■食事の後片付け

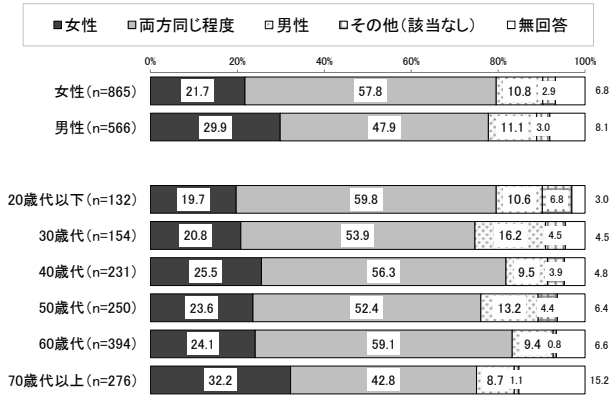


■部屋の掃除

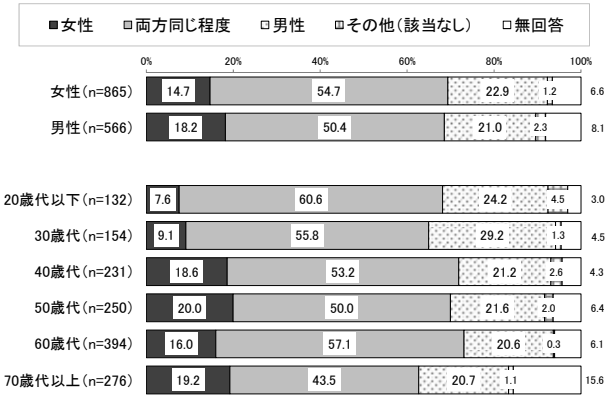


【性別、年齢別　家庭での役割分担について（「希望」）】

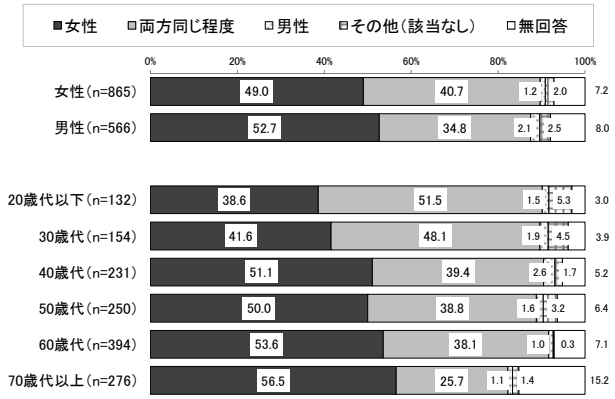
■風呂の掃除



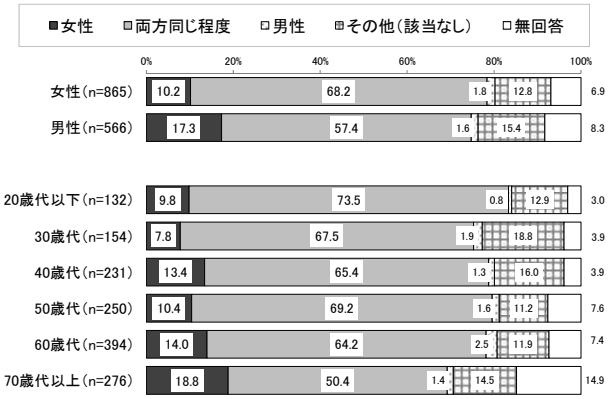
■ゴミ出し



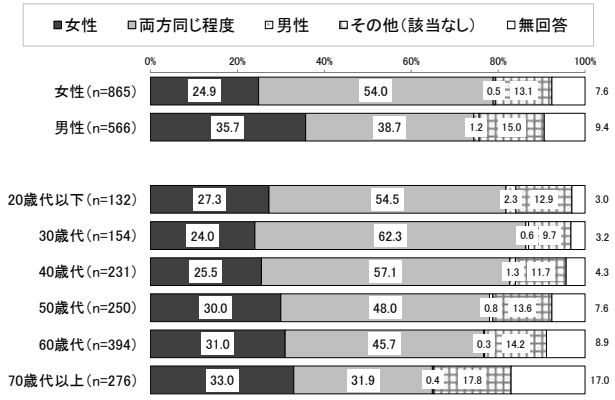
■洗濯



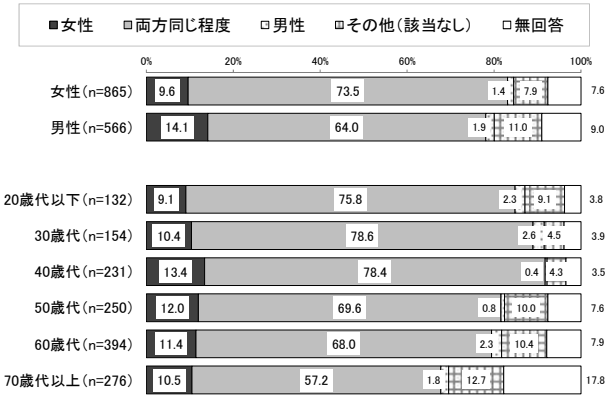
■家族の介護



■乳幼児のおむつ替え

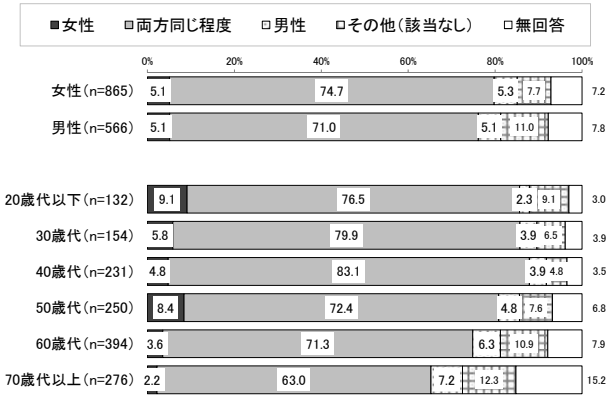


■子どもの世話・しつけ

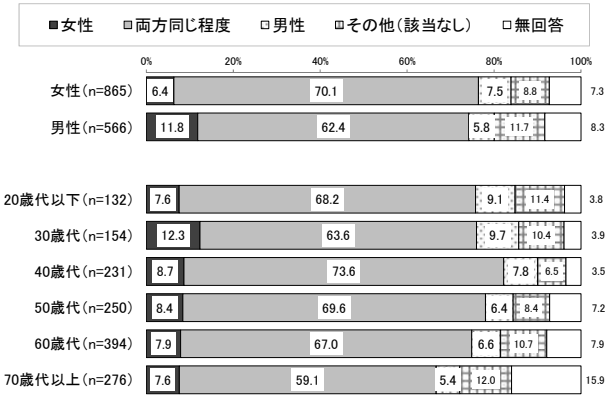


【性別、年齢別　家庭での役割分担について（「希望」）】

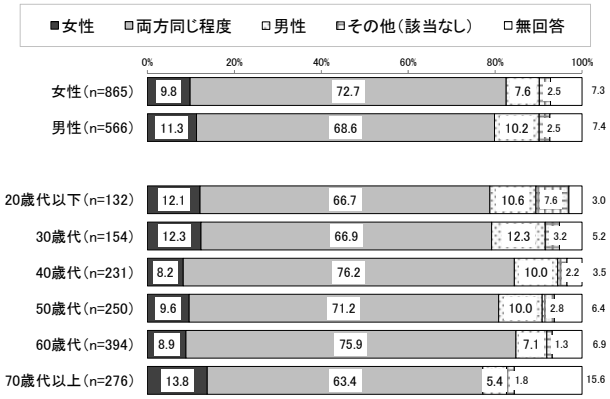
■子どもの教育方針や進路の決定



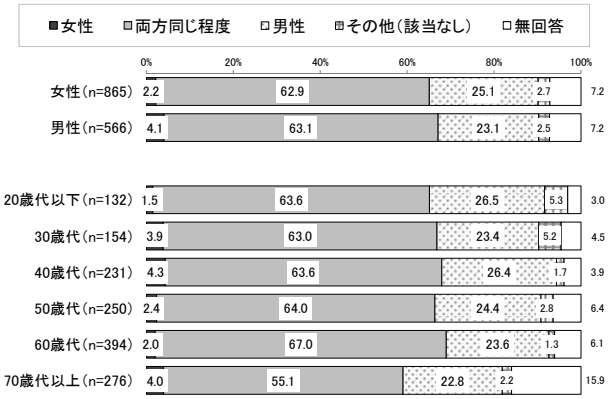
■子ども会やＰＴＡ活動への参加



■ふだんの近所付き合い



■自治会や地域行事などの付き合い



家庭での役割分担の希望について性別にみると、男女で違いの大きい場面は、「食事を作る」、「食事の後片付け」、「部屋の掃除」、「風呂の掃除」、「家族の介護」、「乳幼児のおむつ替え」となっており、これらの場面では特に、女性は男性と比べて「両方同じ程度」が多く、一方男性は女性と比べて『女性』が多くなっています。

年齢別にみると、主に家事や「家族の介護」、「乳幼児のおむつ替え」では、おおむね年齢が高いほど「両方同じ程度」が少なく、『女性』が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

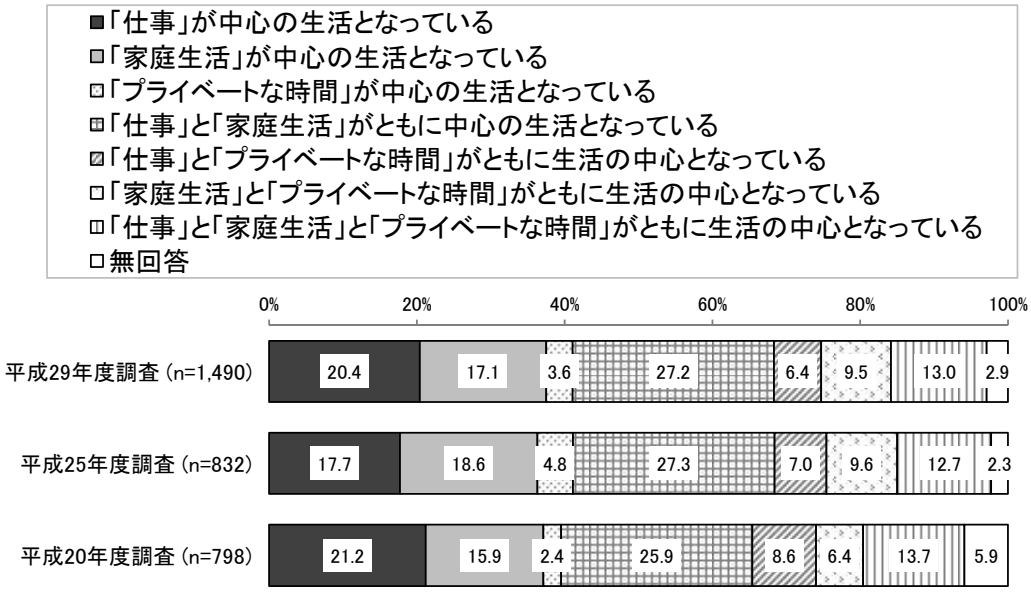
生活費を得ることは男性が担い、食事を作ったり片付けたりすることや掃除など家事については女性が担っていることが多く、固定的な性別役割分担がある状況がうかがえますが、希望としては、両方同じ程度の役割分担と考える人が多くなっています。特に「食事の後片付け」、「部屋の掃除」、「風呂の掃除」、「ゴミ出し」、「家族の介護」、「子どもの世話・しつけ」については、実際は女性が担っていることが多いが、希望は両方同じ程度の役割と考える人が多くなっています。また「両方同じ程度」を希望する人は過去 10 年間で多くなってきています。

実際の役割分担の状況を性別にみると、女性は『女性』が担っていると考えている人が多く、男性は『男性』や「両方同じ程度」と考えている人が多くなっており、自分が担っている役割の程度について、男女で認識の差があることがうかがえます。

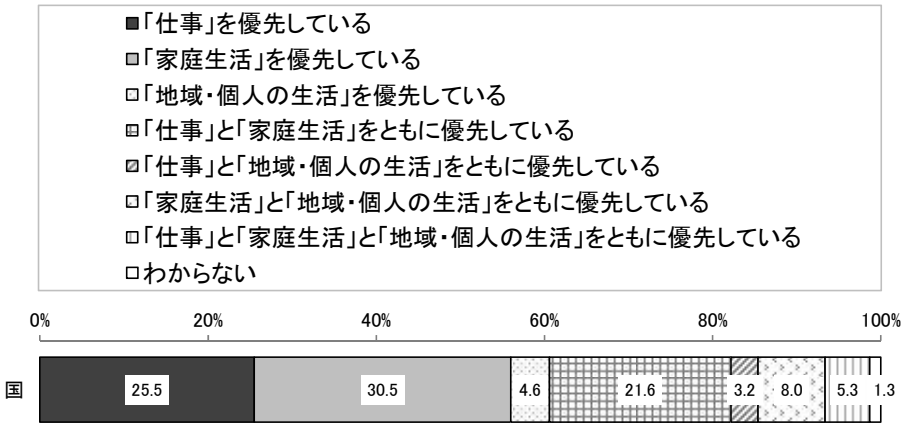
３．働き方・女性の活躍について

（１）ワーク・ライフ・バランスについて（現状の生活と希望の生活）

5　あなたの生活で、現状に近いものはどれですか。（○は１つ）



≪国の調査結果≫



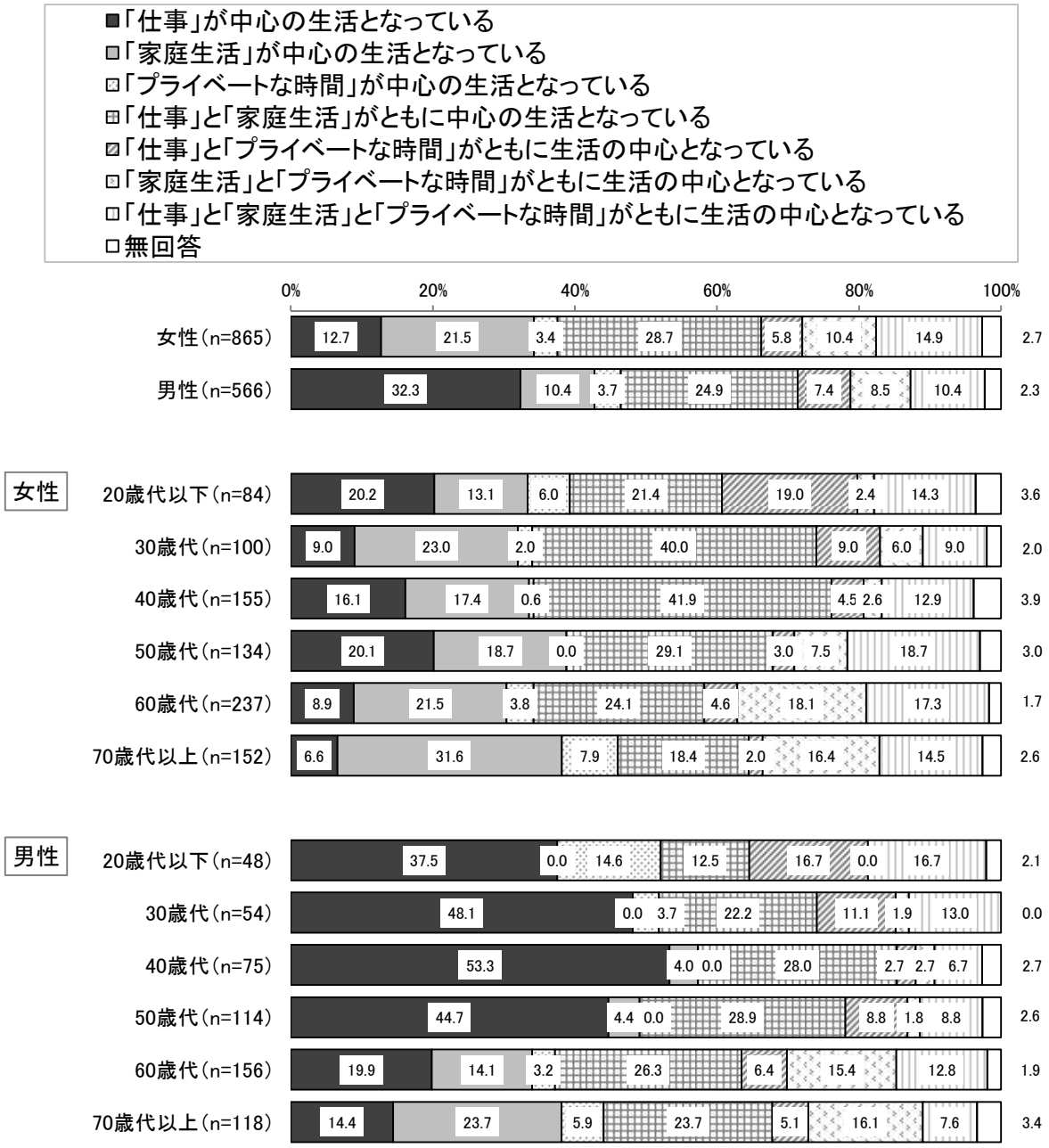
国（内閣府）	
男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年度）	
問	生活の中での，「仕事」，「家庭生活」，地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。あなたの現実・現状に最も近いものをこの中から１つだけお答えください。

現状のワーク・ライフ・バランスについてたずねたところ、「「仕事」と「家庭生活」がともに中心の生活となっている」が 27.2%と最も多く、次いで「「仕事」が中心の生活となっている」が 20.4%、「「家庭生活」が中心の生活となっている」が 17.1%などとなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べて、大きな違いはみられません。

国の調査では、「「家庭生活」を優先している」が最も多く、次いで「「仕事」を優先している」などとなっています。

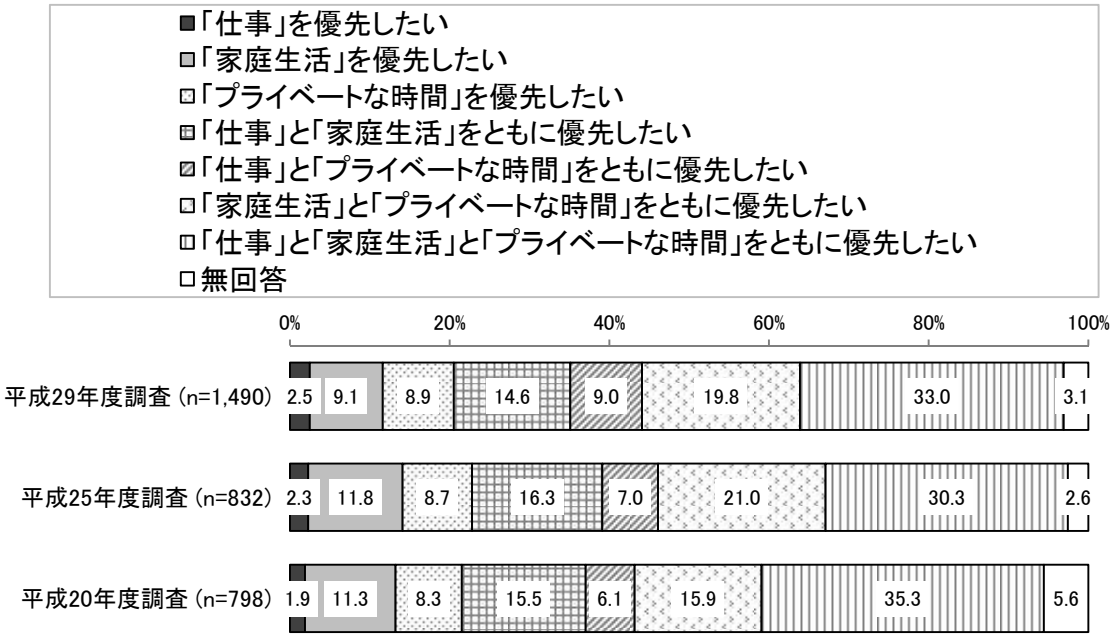
【性別、性・年齢別　ワーク・ライフ・バランスについて（現状の生活）】



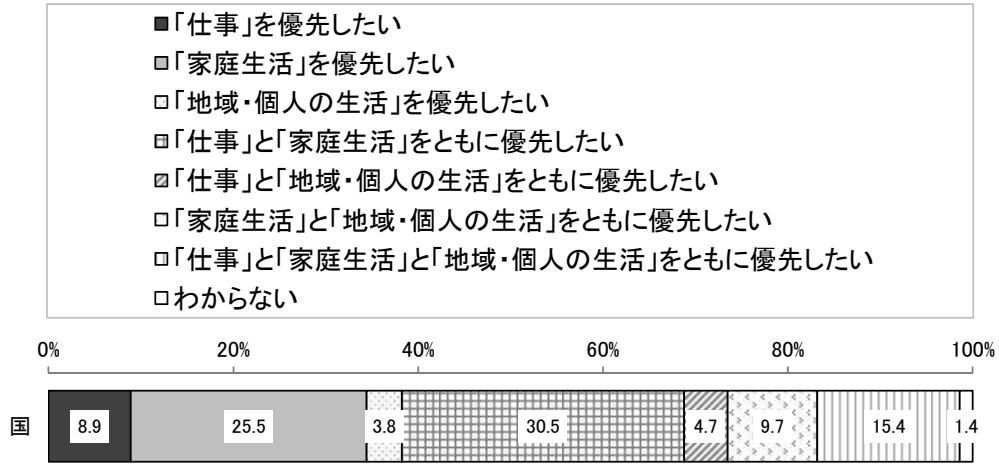
現状のワーク・ライフ・バランスについて性別にみると、女性は男性と比べて「「家庭生活」が中心の生活となっている」が多く、男性は女性と比べて「「仕事」が中心の生活となっている」が多くなっています。

性・年齢別にみると、30 歳代から 50 歳代の男性は「「仕事」が中心の生活となっている」が特に多く、4 割を超えています。

6　あなたの生活で、希望に近いものはどれですか。（○は１つ）



≪国の調査結果≫



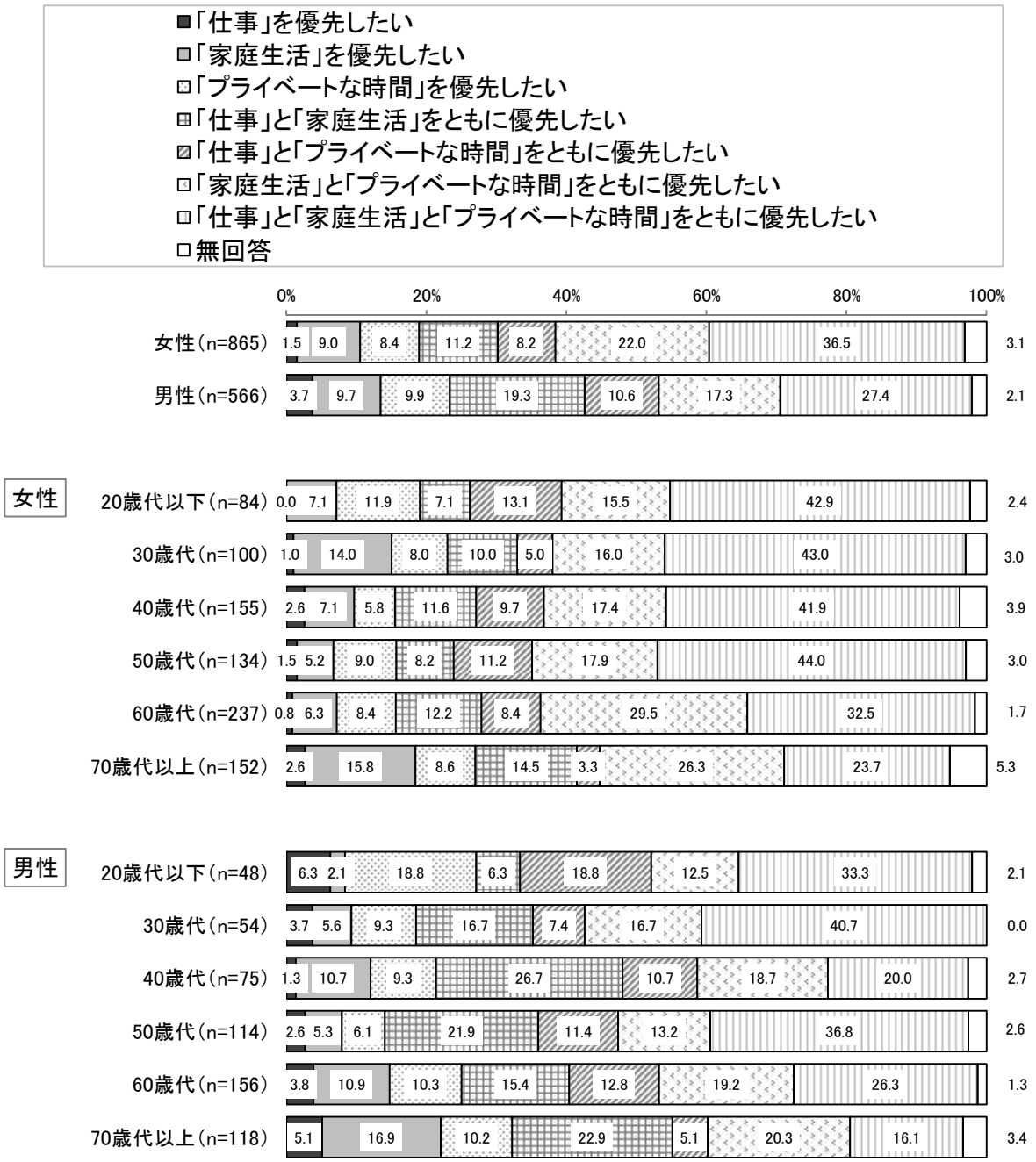
国（内閣府）	
男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年度）	
問	生活の中での，「仕事」，「家庭生活」，地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。あなたの希望に最も近いものをこの中から１つだけお答えください。

希望のワーク・ライフ・バランスについてたずねたところ、「「仕事」と「家庭」と「プライベートな時間」をともに優先したい」が 33.0％と最も多く、次いで「「家庭生活」と「プライベートな時間」をともに優先したい」が 19.8％、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が 14.6％などとなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べて、大きな違いはみられません。

国の調査では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も多く、次いで「「家庭生活」を優先したい」などとなっています。

【性別、性・年齢別　ワーク・ライフ・バランスについて（希望の生活）】

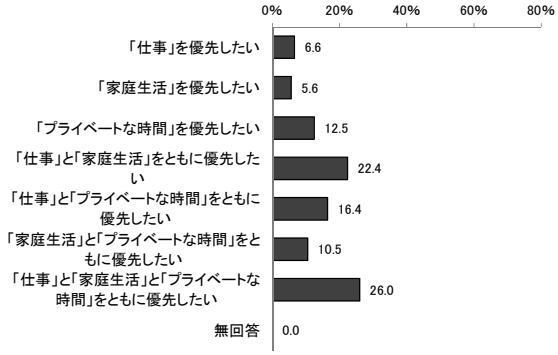


希望のワーク・ライフ・バランスについて性別にみると、女性は男性と比べて主に「「家庭生活」と「プライベートな時間」をともに優先したい」と「「仕事」と「家庭」と「プライベートな時間」をともに優先したい」が多く、男性は女性と比べて主に「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が多くなっています。

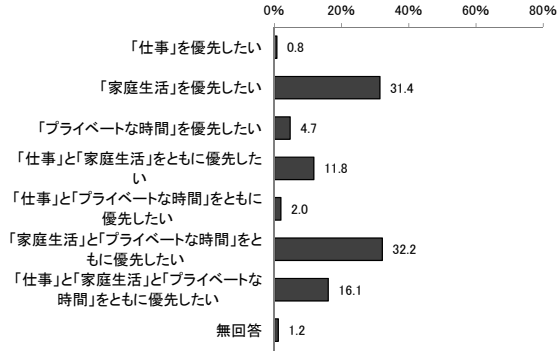
性・年齢別にみると、主に就労世代の 50 歳代以下のうち、男性の 40 歳代は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も多くなっていますが、それ以外の性・年齢では「「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」をともに優先したい」が最も多くなっています。

【ワーク・ライフ・バランスについて（現状の生活）別
ワーク・ライフ・バランスについて（希望の生活）】

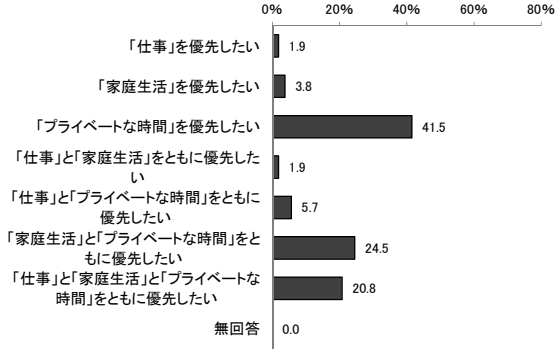
「仕事」が中心（n=304）



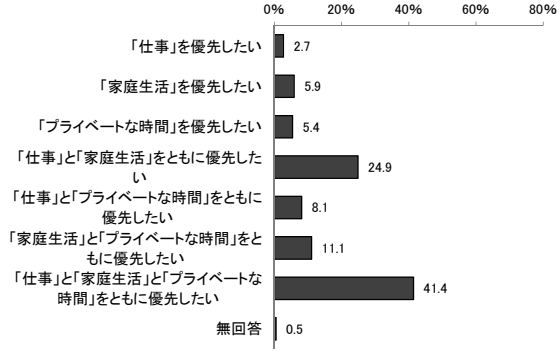
「家庭生活」が中心（n=255）



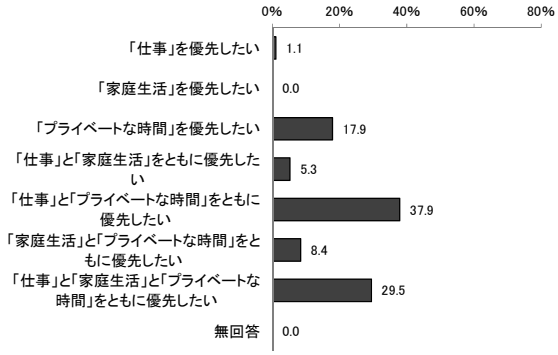
「プライベートな時間」が中心（n=53）



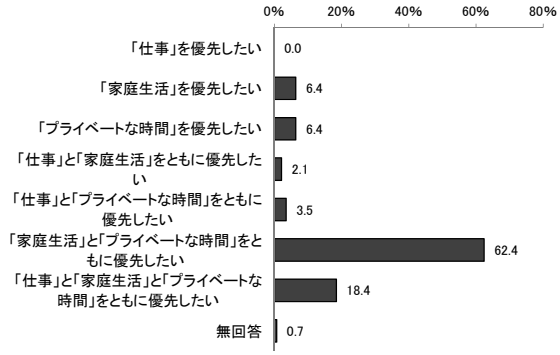
「仕事」と「家庭生活」がともに中心（n=406）



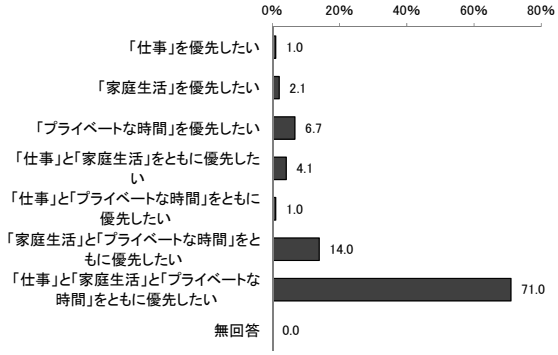
「仕事」と「プライベートな時間」がともに中心（n=95）



「家庭生活」と「プライベートな時間」がともに中心（n=141）



「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」がともに中心（n=193）



希望のワーク・ライフ・バランスについて、現在のワーク・ライフ・バランスの状況別にみると、プライベートな時間が生活の中心にある人では、現状の生活を希望する割合が最も多くなっています。プライベートな時間が生活の中心にない人では、現状の生活にプライベートな時間を加えた割合が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

現状では仕事や家庭生活が中心となっている人が多くなっていますが、希望としてはそれらの生活に加えてプライベートな時間も優先したいと考える人が多くなっています。

国の調査と比べると、仕事を優先している人は少なく、仕事と家庭生活や、仕事と家庭生活とプライベートな時間を優先している人が多くなっており、加東市では生活を送るそれぞれの場面を生活の中心に位置づける人が比較的多いと考えられます。

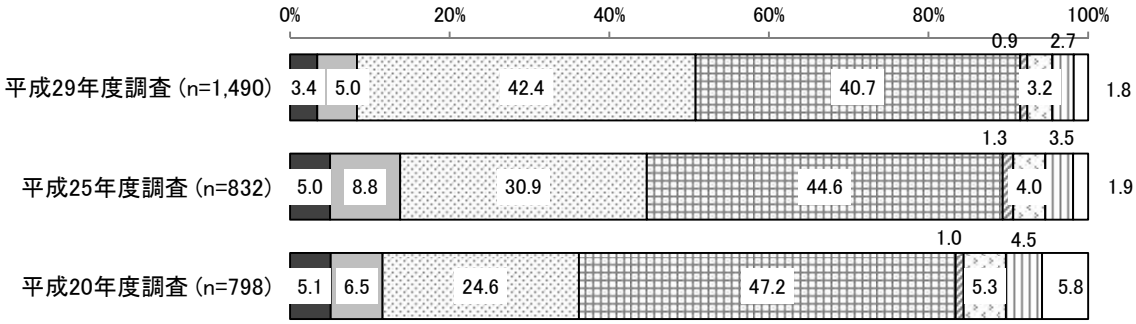
30 歳代から 50 歳代の男性では、ワーク・ライフ・バランスの理想と現実の差が大きくなっており、実際は仕事が中心の生活を送っている人が半数前後と多いものの、希望として仕事だけではなく、家庭生活やプライベートな時間も優先したいと考えている人が多くなっています。

（２）女性が職業をもつことについて

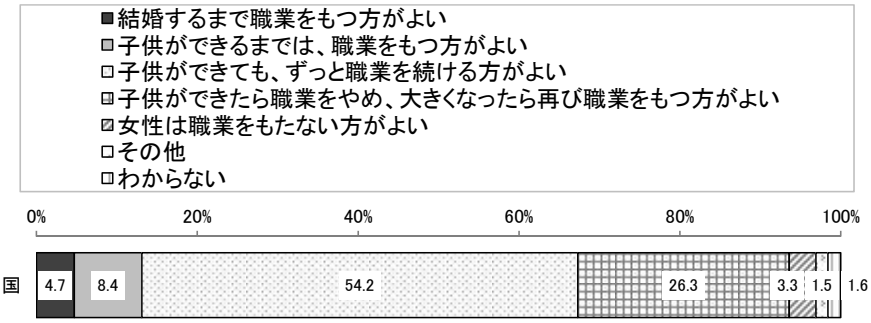
7　あなたは、女性が職業（会社勤めなどの収入のある職業に限る）をもつことについてどのようにお考えですか。（○は１つ）

※「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい」は、前回までの調査では「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほうがよい」となっています。

※「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」は、前回までの調査では「子どもができたら職業をやめるが、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっています。



≪国の調査結果≫



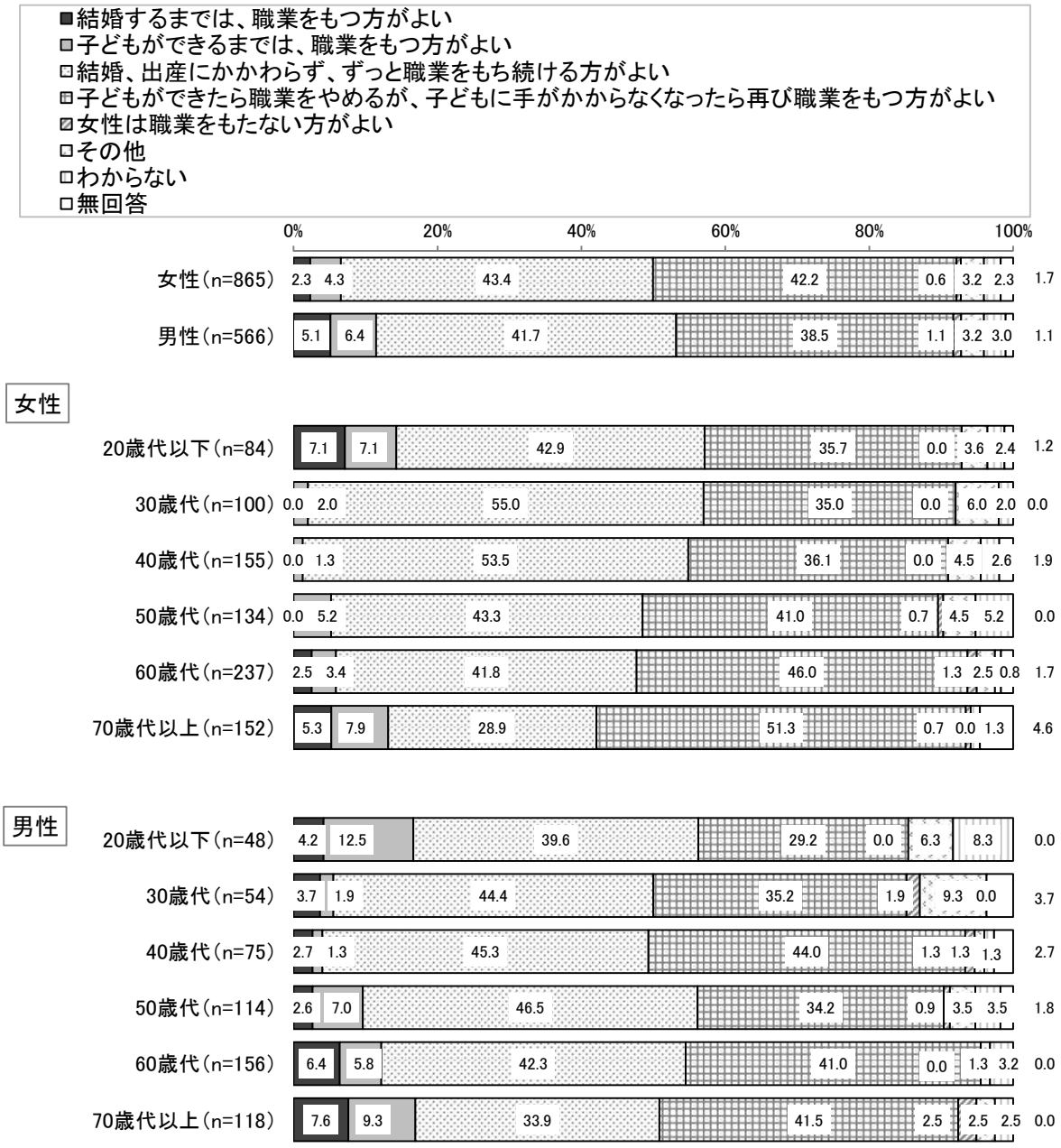
国（内閣府）	
男女共同参画社会に関する世論調査（平成 28 年度）	
問	一般的に女性が職業をもつことについて，あなたはどうお考えですか。この中から１つだけお答えください。

女性が職業をもつことについてたずねたところ、「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい」が 42.4％と最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」が 40.7％などとなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」が減少し、「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい」が増加しています。

国の調査では、「子供ができても、ずっと職業を続ける方がよい」が過半数を占めています。

【性別、性・年齢別　女性が職業をもつことについて】



女性が職業をもつことについて性別にみると、性別で大きな違いはみられません。

性・年齢別にみると、30 歳代以上の女性は年齢が高いほど「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい」が少なく、「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

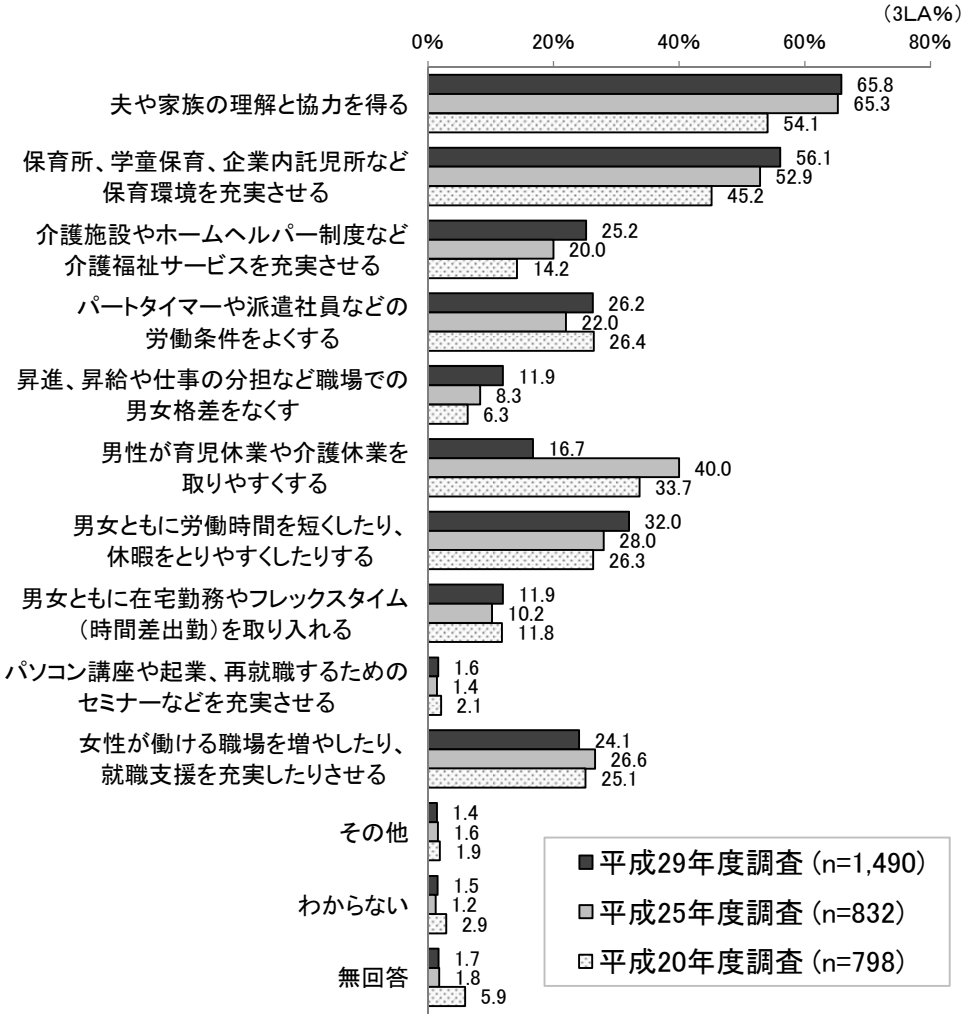
「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人が増加してきています。ただ、当事者となる女性では年齢によって考え方が異なり、おおむね年齢が高い人ほど「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」と考える人が多くなっています。

国の調査と比べると「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人は少なく、「子どもができたら職業をやめるが、再び職業をもつ方がよい」と考える人が多くなっています。

（３）女性が働きやすい環境をつくるために必要なこと

8　あなたは、女性が働きやすい環境をつくるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

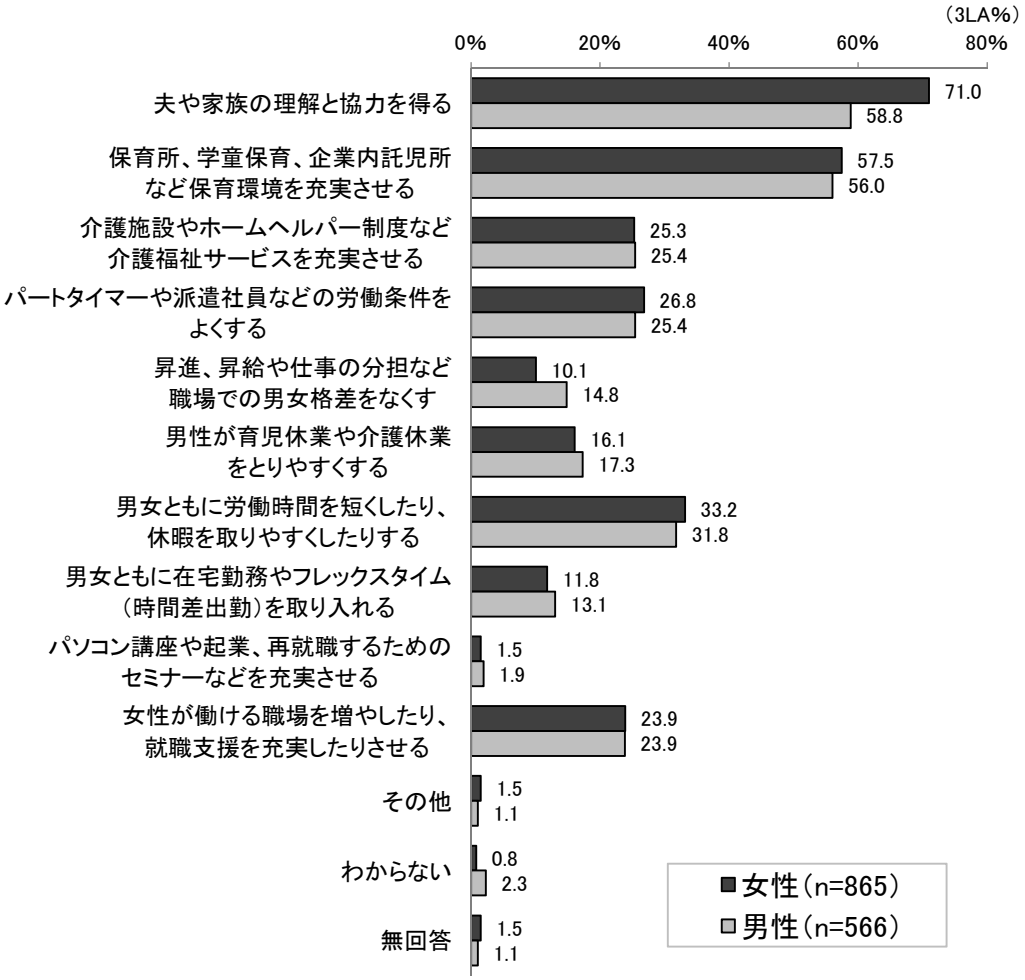
※「男性が育児休業や介護休業を取りやすくする」は、前回以前の調査では「育児休業や介護休業を取りやすくする」となっています。「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇を取りやすくする」と「男女ともに在宅勤務やフレックスを取り入れる」は、前回以前の調査では文頭に「男女ともに」がありませんでした。



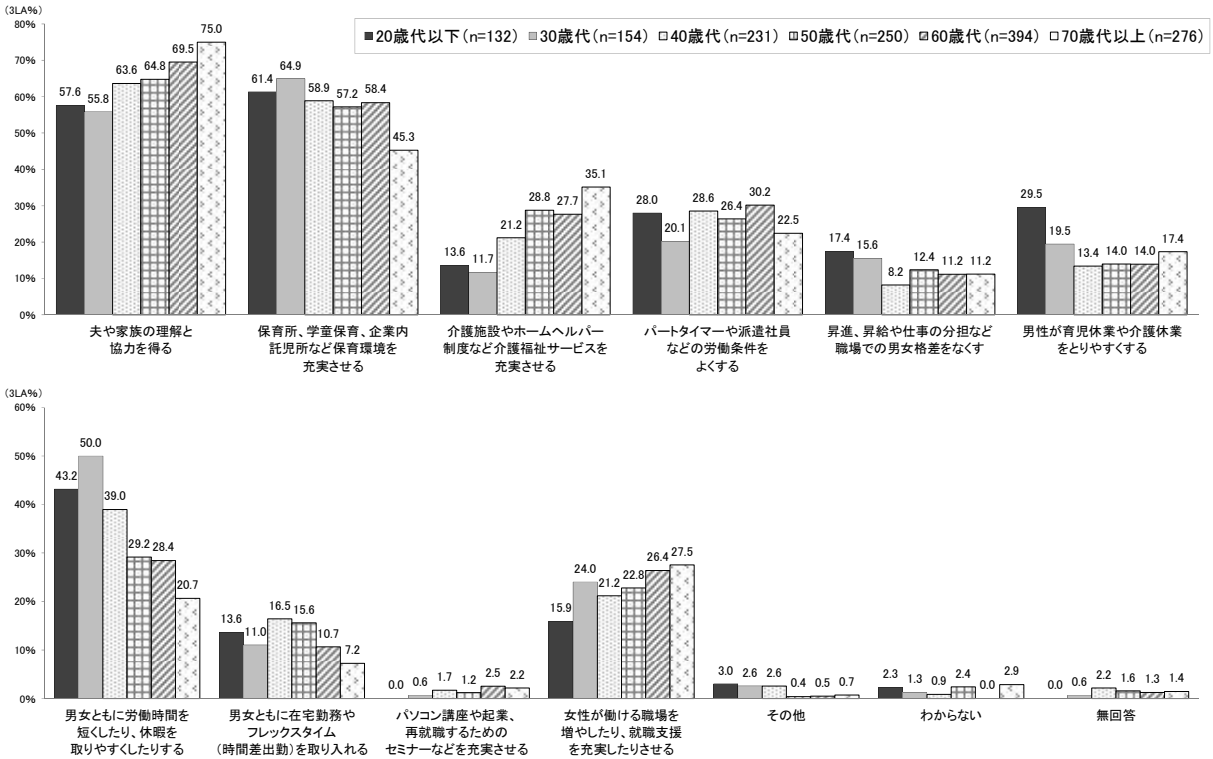
女性が働きやすい環境をつくるために必要なことをたずねたところ、「夫や家族の理解と協力を得る」が 65.8%と最も多く、次いで「保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる」が 56.1%、「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする」が 32.0%などとなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べて回答の傾向に大きな違いはみられませんが、「男性が育児休業や介護休業を取りやすくする」については、今回の調査から回答項目に「男性が」が追加されたことから、それまでの調査結果と異なった傾向となっていると考えられます。

【性別　女性が働きやすい環境をつくるために必要なこと】



【年齢別　女性が働きやすい環境をつくるために必要なこと】



女性が働きやすい環境をつくるために必要なことを性別にみると、「夫や家族の理解と協力を得る」については女性が男性を上回っていますが、それ以外の回答項目では男女で大きな違いはみられません。

年齢別にみると、「夫や家族の理解と協力を得る」と「介護施設やホームヘルパー制度など介護福祉サービスを充実させる」については年齢が高いほど割合が多くなっています。「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする」については年齢が低いほど割合が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

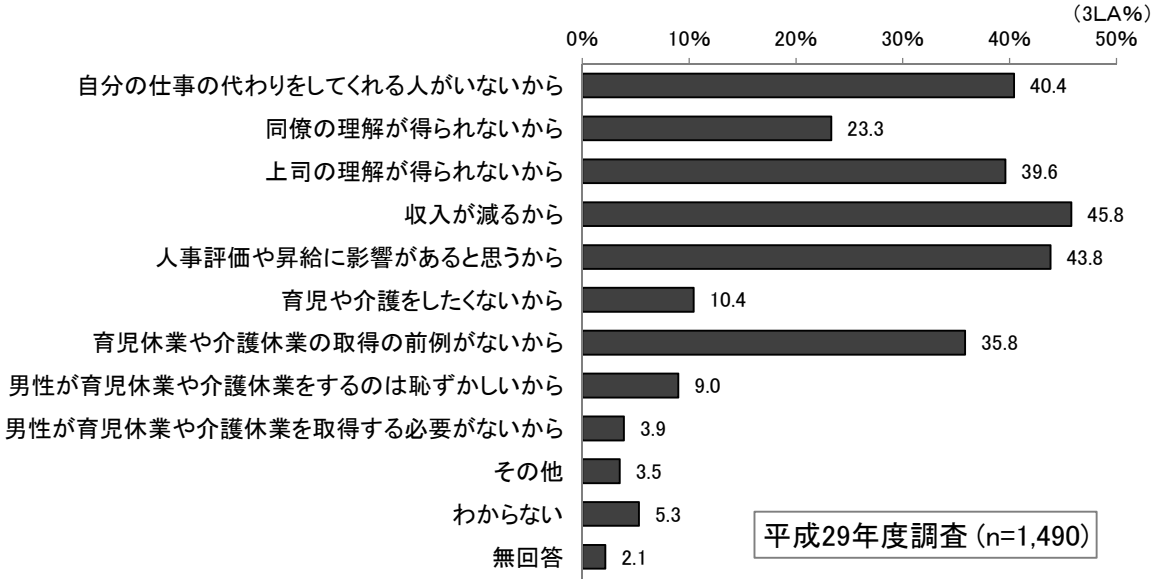
女性が働きやすい環境をつくるためには、「夫や家族の理解や協力を得ること」や、「保育環境の充実」が必要と考えている人が男女ともに多くなっています。

また、若い世代ほど、「労働時間を短くしたり、休暇を取りやすくしたりする」といった、勤務先の労働時間に対する柔軟性が必要と考えていることがうかがえます。

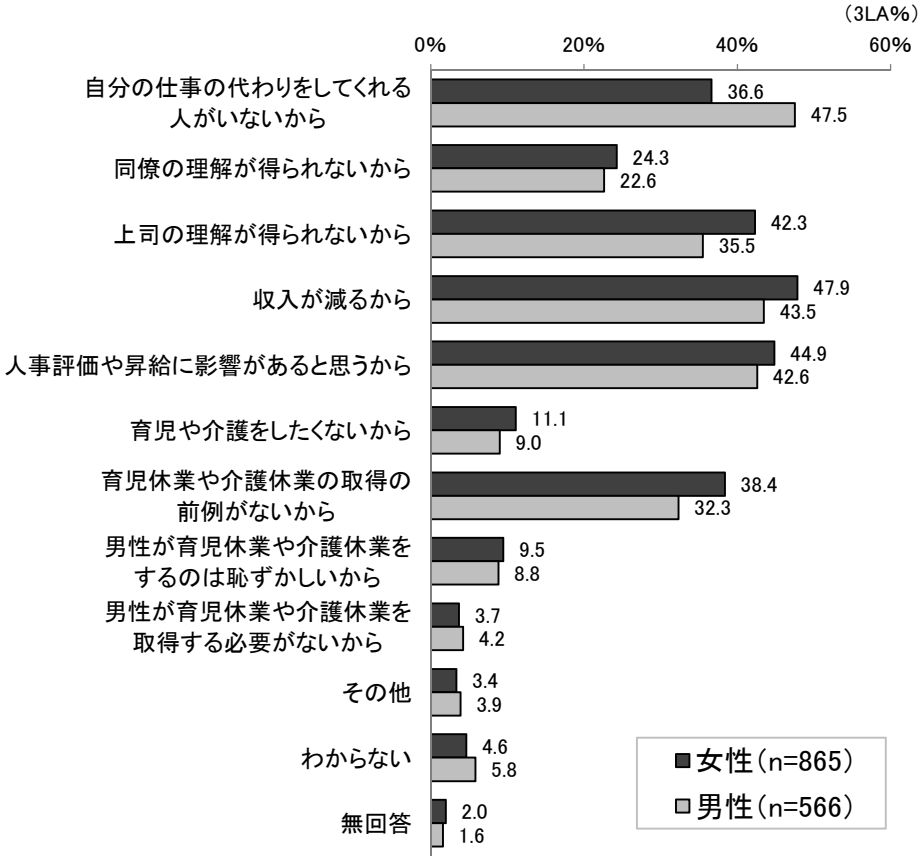
（４）男性の育児休業や介護休業の取得が進まない理由について

9　男性の育児休業や介護休業等の取得が進まない状況ですが、それはどのような理由からだと思いますか。（○は３つまで）

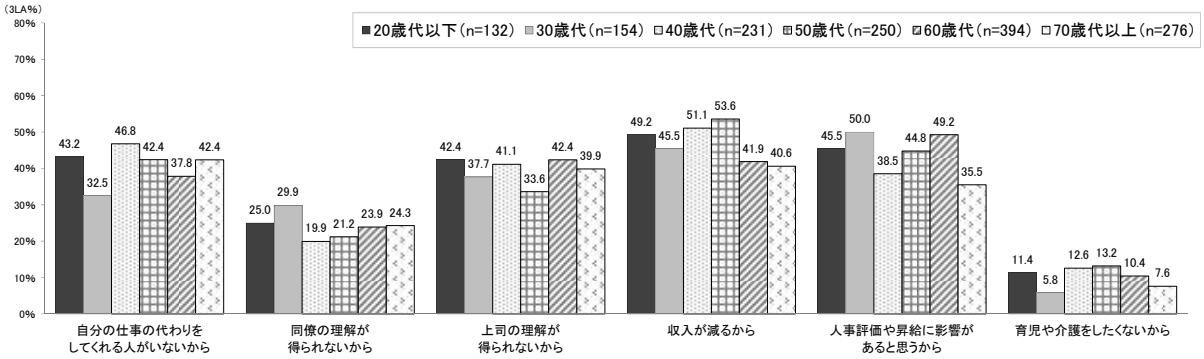
※前回までの調査になかった質問です。

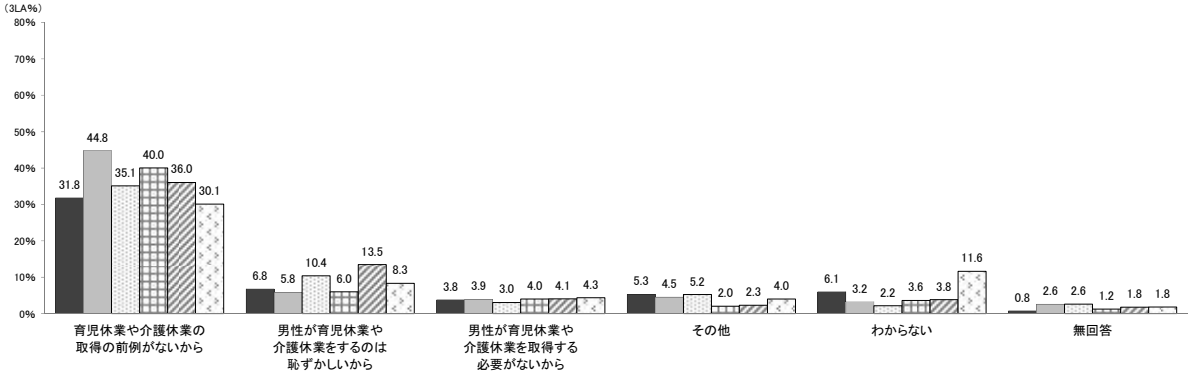


【性別　男性の育児休業や介護休業の取得が進まない理由について】



【年齢別　男性の育児休業や介護休業の取得が進まない理由について】





男性の育児休業や介護休業の取得が進まない理由についてたずねたところ、「収入が減るから」が 45.8%と最も多く、次いで「人事評価や昇給に影響があると思うから」が 43.8%、「自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから」が 40.4%などとなっています。

性別にみると、女性は「収入が減るから」が、男性は「自分の仕事を代わりにしてくれる人がいないから」が、それぞれ最も多くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢でも、「収入が減るから」、「人事評価や昇給に影響があると思うから」、「自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから」が多い傾向となっています。

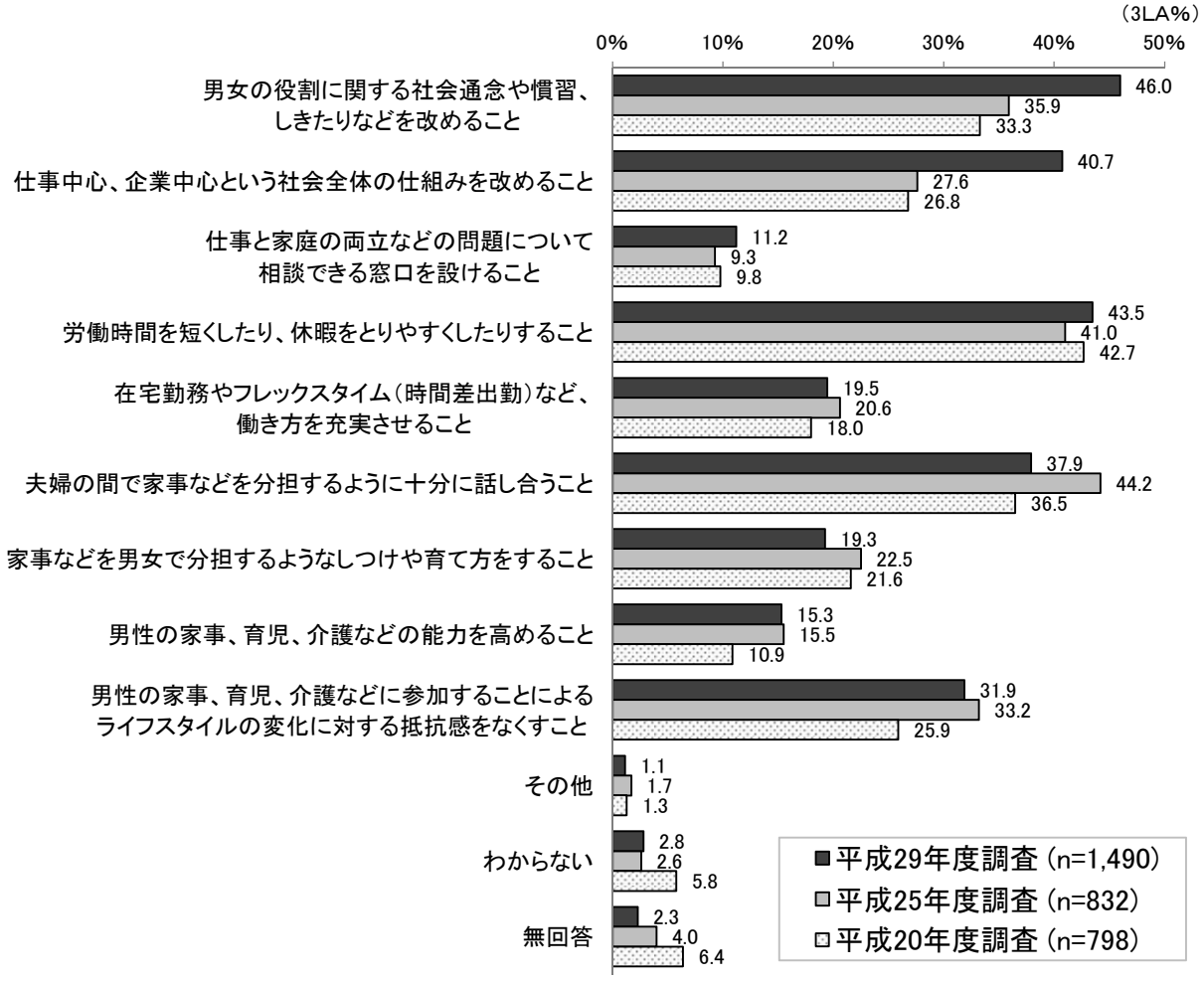
〈考察・まとめ〉

男性の育児休業や介護休業の取得が進まないのは、収入の減少が理由と考える人が多くなっていますが、「上司の理解が得られないから」、「人事評価や昇給に影響があると思うから」、「自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから」、「前例がない」といった、勤務先の理解不足や協力不足も育児休業等の取得を阻む要因となっていることがうかがえます。

４．社会参加活動について

（１）ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと

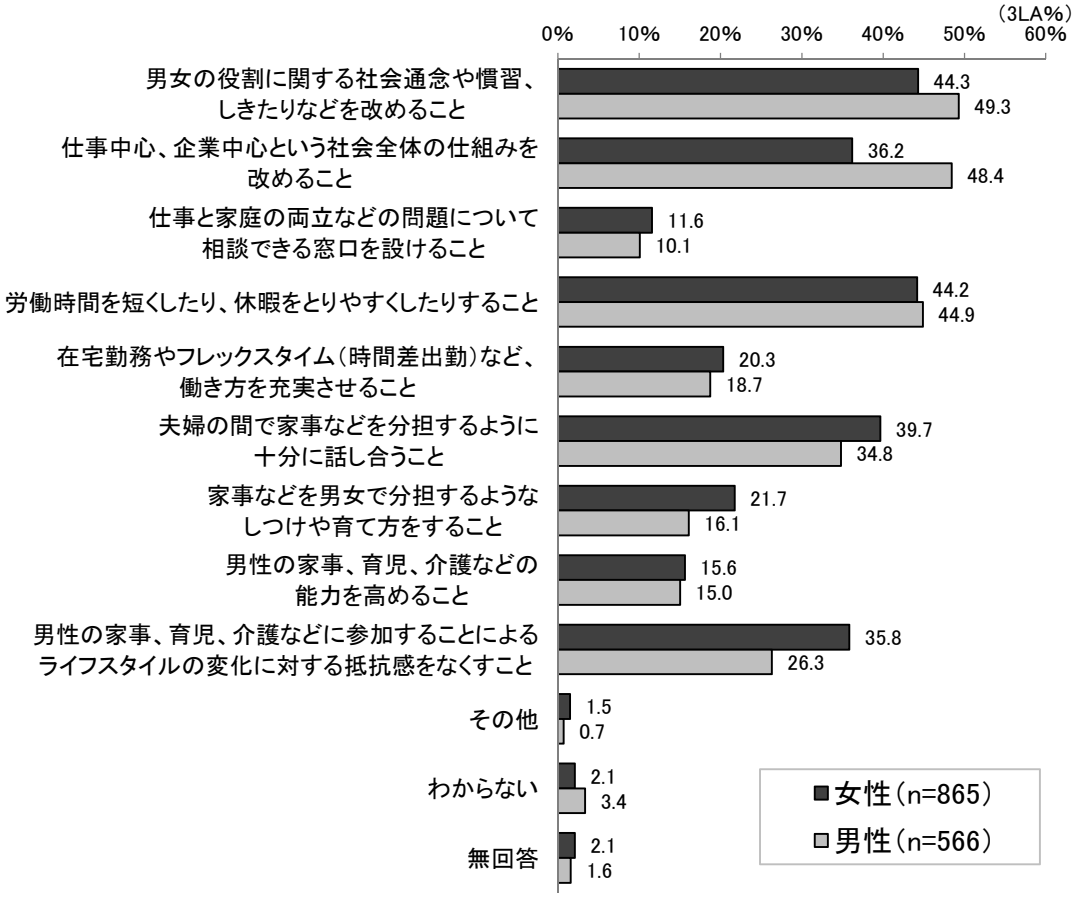
10　あなたは、女性と男性がともに働きながら家事、育児や教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）



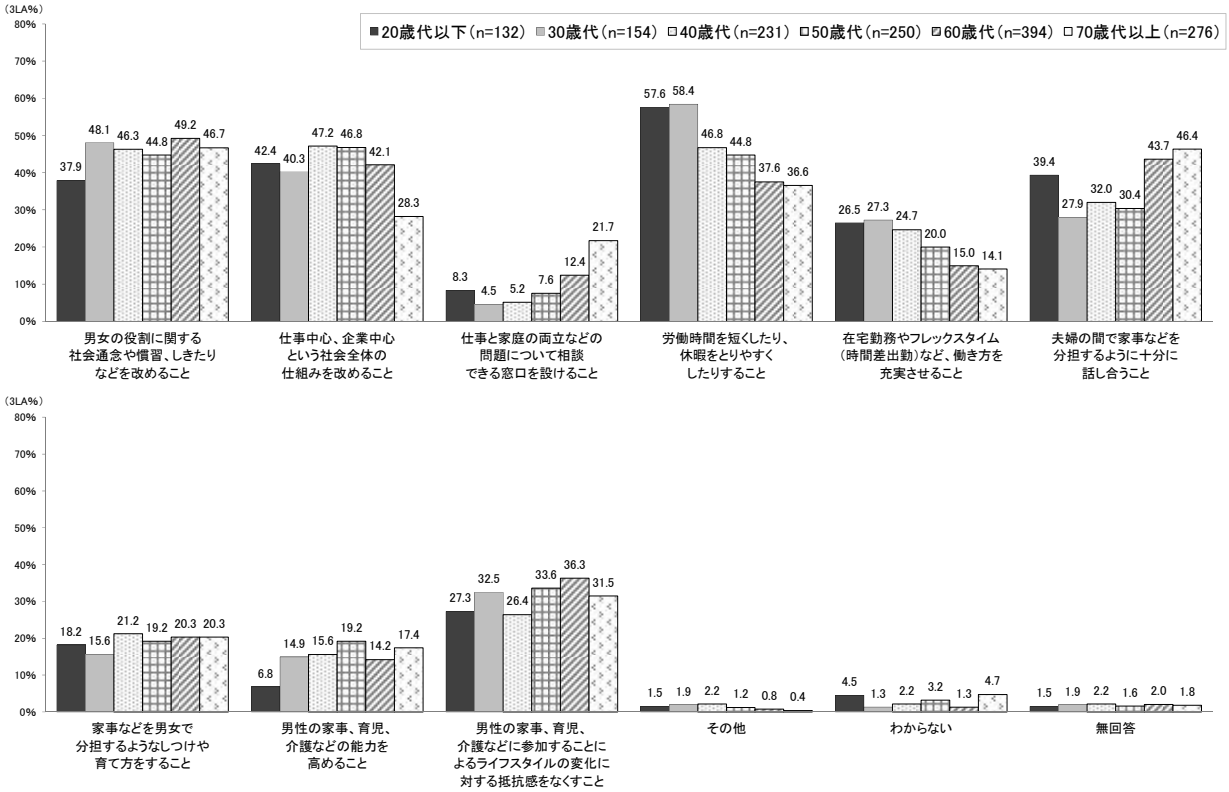
ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことをたずねたところ、「男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどを改めること」が 46.0％と最も多く、次いで「労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりすること」が 43.5％、「仕事中心、企業中心という社会全体の仕組みを改めること」が 40.7％などとなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、主に「男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどを改めること」と「仕事中心、企業中心という社会全体の仕組みを改めること」が増加しています。

【性別　ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと】



【年齢別　ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと】



ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことを性別にみると、女性は男性と比べて主に「仕事中心、企業中心という社会全体の仕組みを改めること」が多く、男性は女性と比べて「男性の家事、育児、介護などに参加することによるライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくすこと」が多くなっています。

年齢別にみると、「労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりすること」については年齢が低いほど割合が多くなっています。

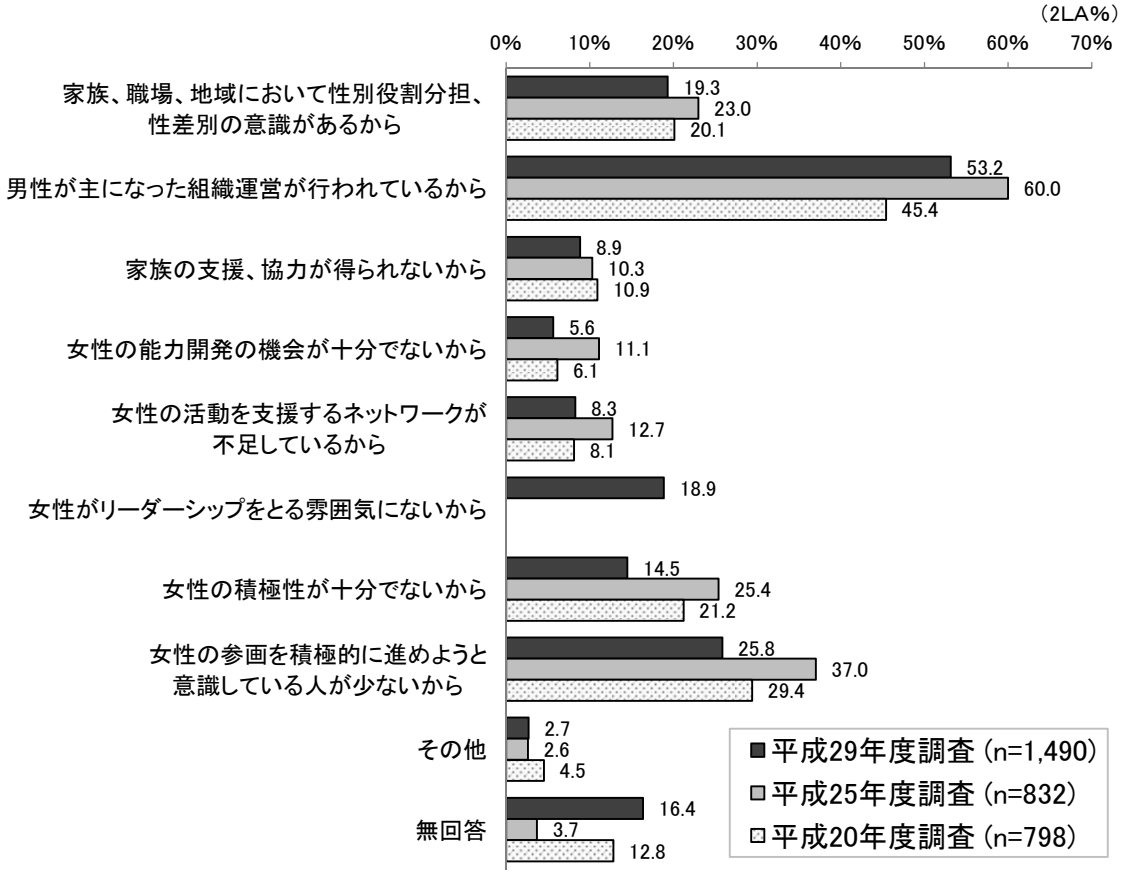
〈考察・まとめ〉

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、「夫婦間での話し合い」といった本人による解決よりも、「社会慣習や社会の仕組みを改めること」といった社会環境の変化が必要と考える人が増加していることがうかがえます。

（２）自治会や議会に女性の参画が進まない理由

11　自治会や議会に女性が参画していないと言われています。加東市でも、自治会や議会などへの女性の参画が進んでいません。その理由はどのようなものだと思いますか。（○は２つまで）

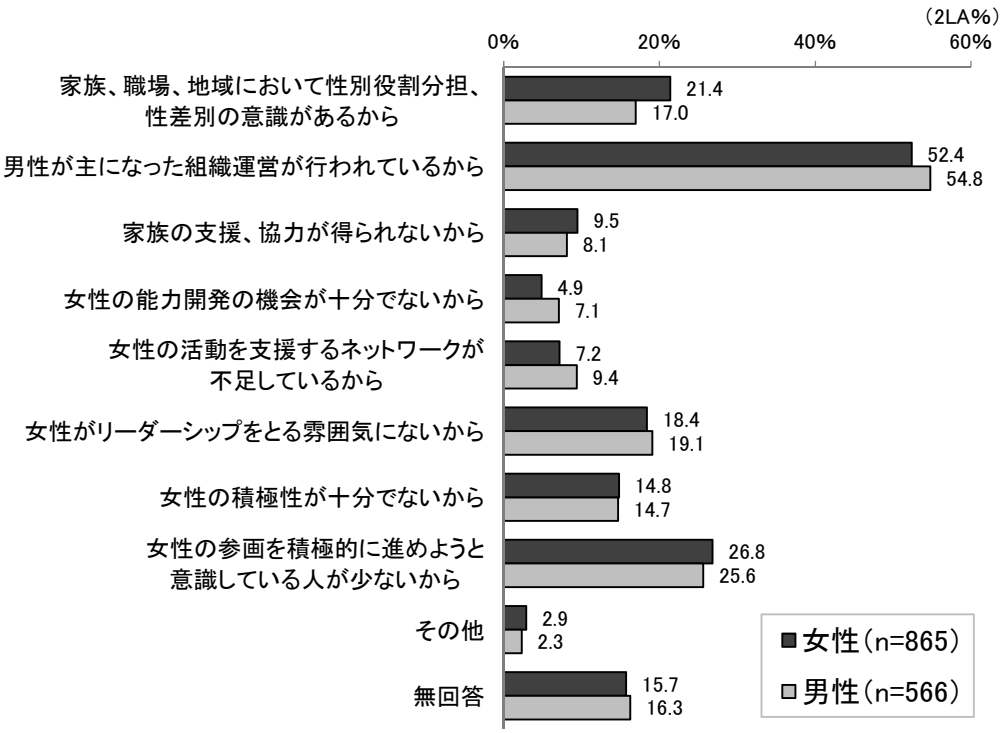
※「女性がリーダーシップをとる雰囲気にないから」は、今回の調査から追加しています。



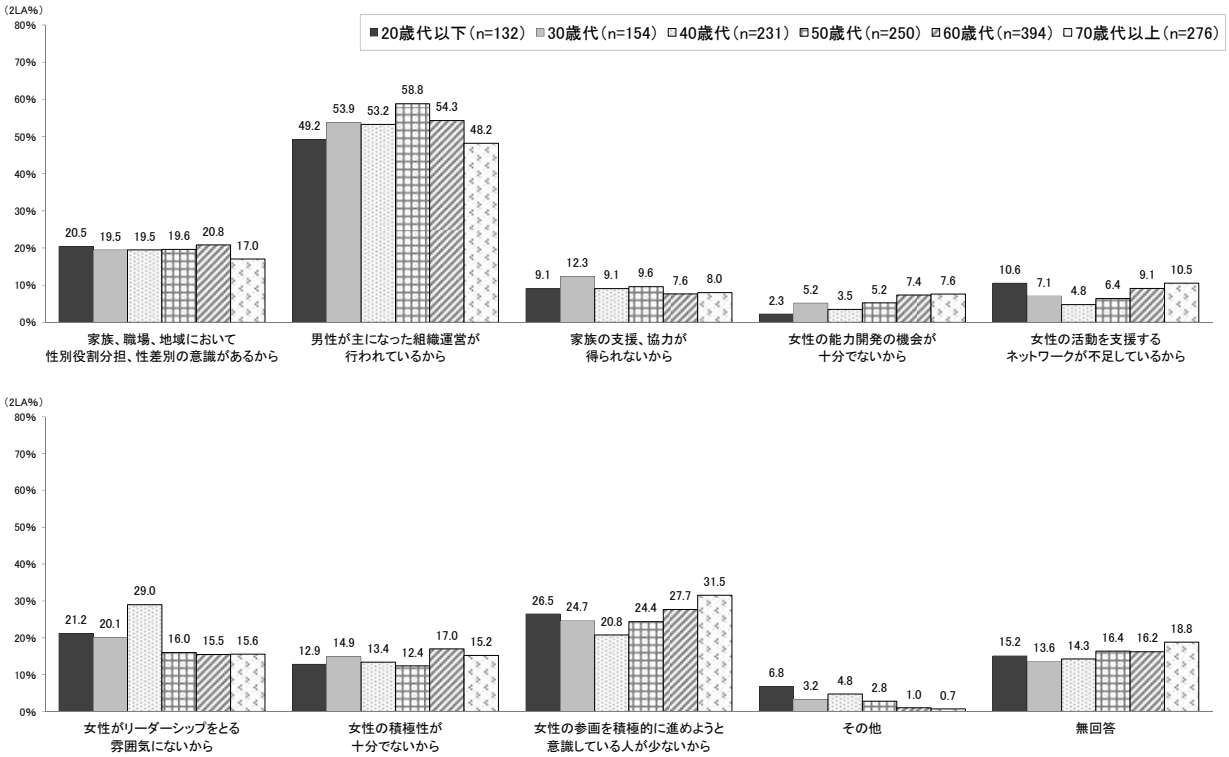
自治会や議会に女性の参画が進まない理由をたずねたところ、「男性が主になった組織運営が行われているから」が他の回答項目を大きく上回り、53.2%と最も多くなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、回答の傾向に大きな違いはみられませんが、主に「女性の積極性が十分でないから」と「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」が減少しています。

【性別　自治会や議会に女性の参画が進まない理由】



【年齢別　自治会や議会に女性の参画が進まない理由】



自治会や議会に女性の参画が進まない理由を性別にみると、男女で大きな違いはみられません。

年齢別にみても、いずれの年齢でも「男性が主になった組織運営が行われているから」が最も多くなっています。

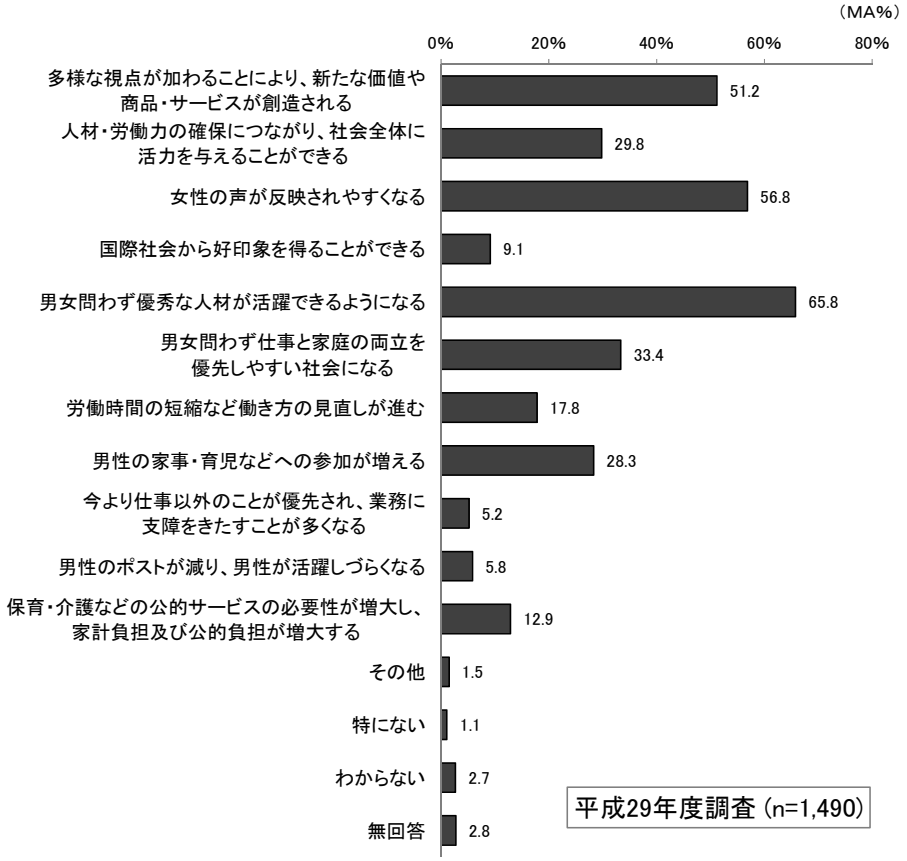
〈考察・まとめ〉

自治会や議会に女性の参画が進まない理由として、「女性の積極性」や「家族の支援」といった個人の側の理由ではなく、「男性が主となった組織運営が行われているから」といった社会の側に理由があると考える人が多いことがうかがえます。

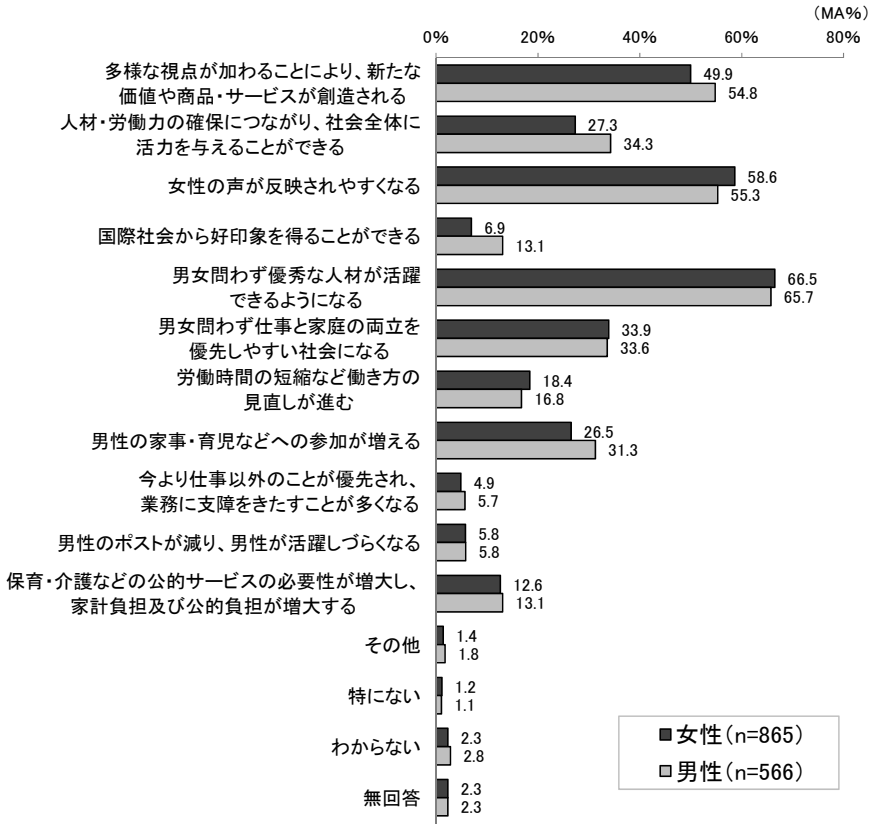
（３）女性のリーダーの増加による影響

12　政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（○はいくつでも）

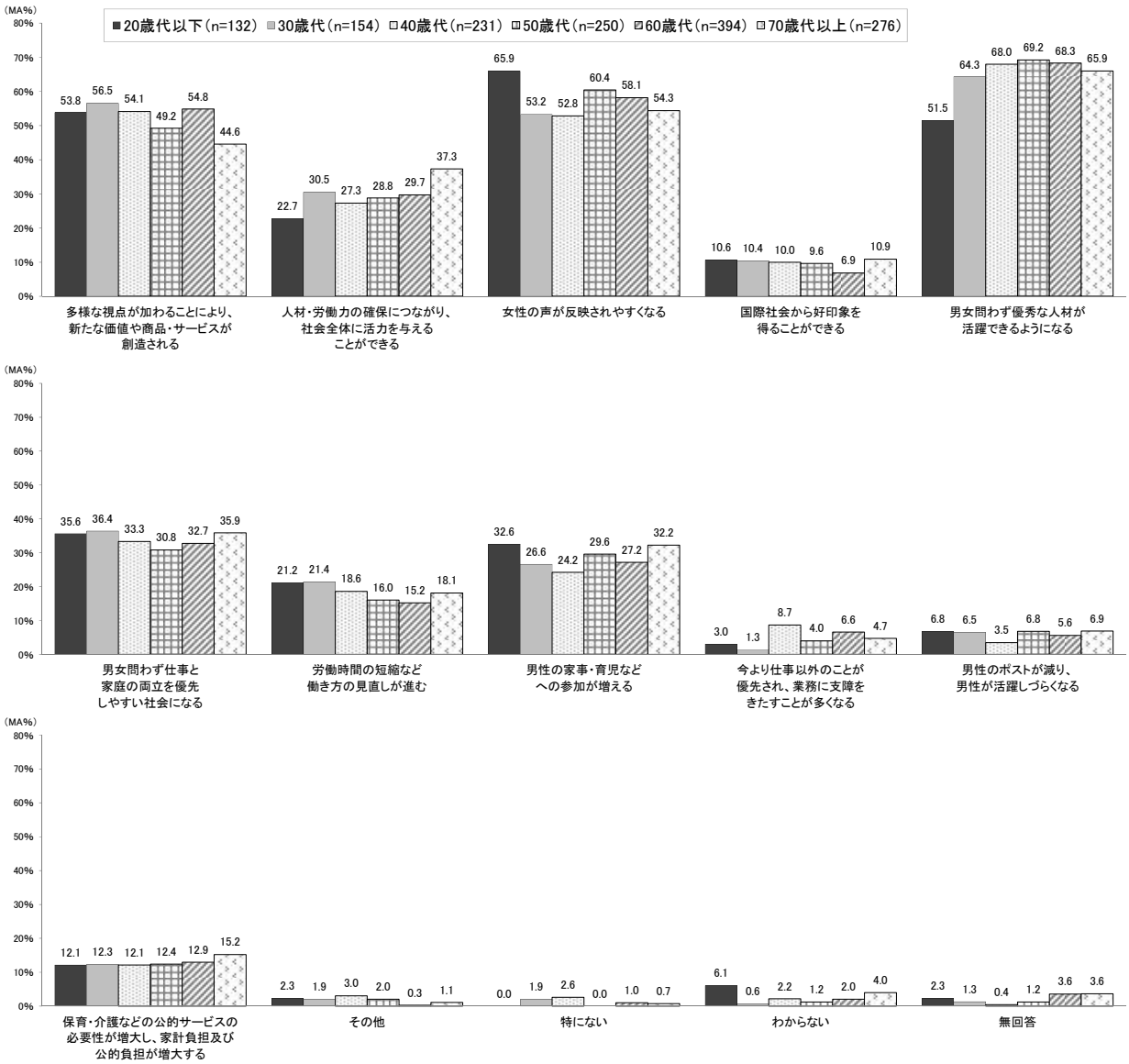
※前回までの調査になかった質問です。



【性別　女性のリーダーの増加による影響】



【年齢別　女性のリーダーの増加による影響】



女性のリーダーの増加による影響についてたずねたところ、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 65.8%と最も多く、次いで「女性の声が反映されやすくなる」が 56.8%、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が 51.2%などとなっています。

性別にみると、男女ともに「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最も多くなっています。

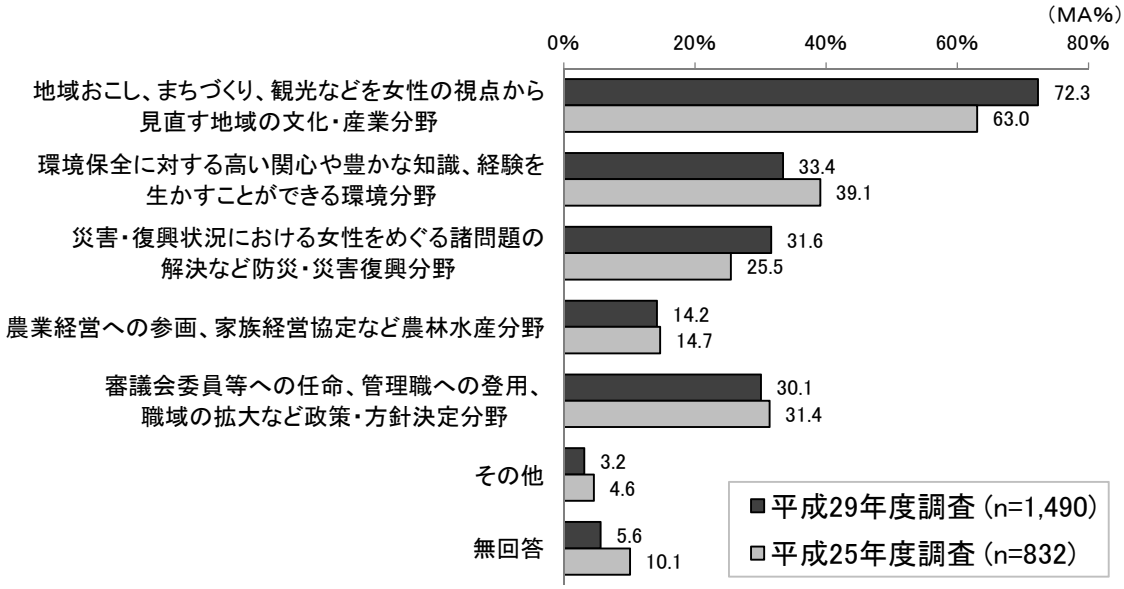
年齢別にみると、おおむねいずれの年齢でも同様の回答の傾向となっています。

〈考察・まとめ〉

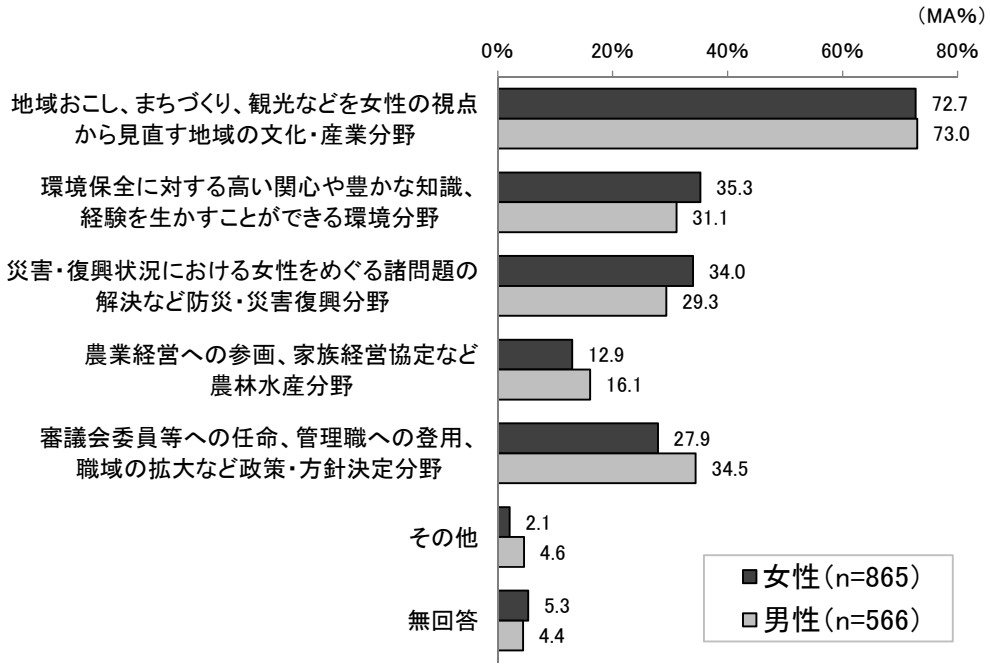
女性のリーダーの増加によって、「性別に関わらず個人の能力を評価する社会」や、「多様性のある社会づくり」に良い影響があると考える人が多くなっています。

（４）女性の参画が必要になると思う分野、領域

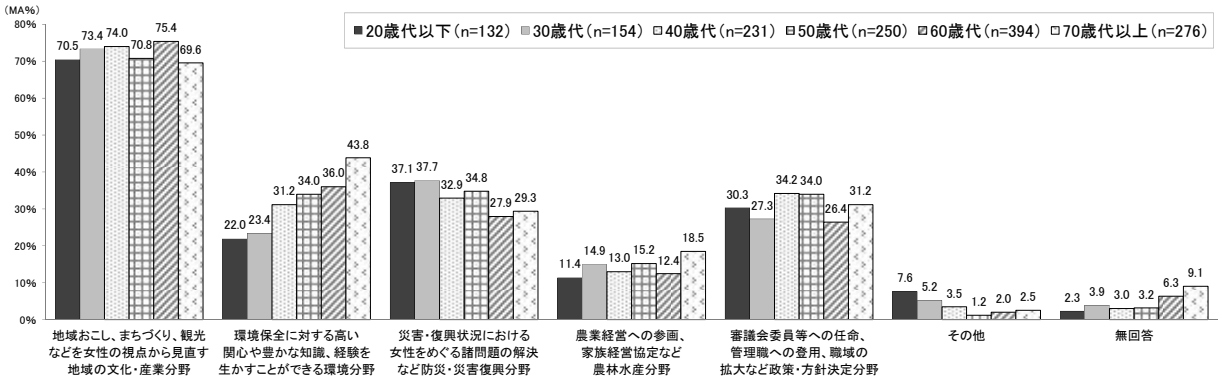
13　あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になると思いますか。（○はいくつでも）



【性別　女性の参画が必要になると思う分野、領域】



【年齢別　女性の参画が必要になると思う分野、領域】



女性の参画が必要になると思う分野、領域をたずねたところ、「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」が他の回答項目を大きく上回り、72.3%と最も多くなっています。

性別にみると、男女ともに「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」が他の回答項目を大きく上回り、最も多くなっています。

年齢別にみても、「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」が他の回答項目を大きく上回り、最も多くなっています。「環境保全に対する高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」については、年齢が高いほど割合が多くなっています。

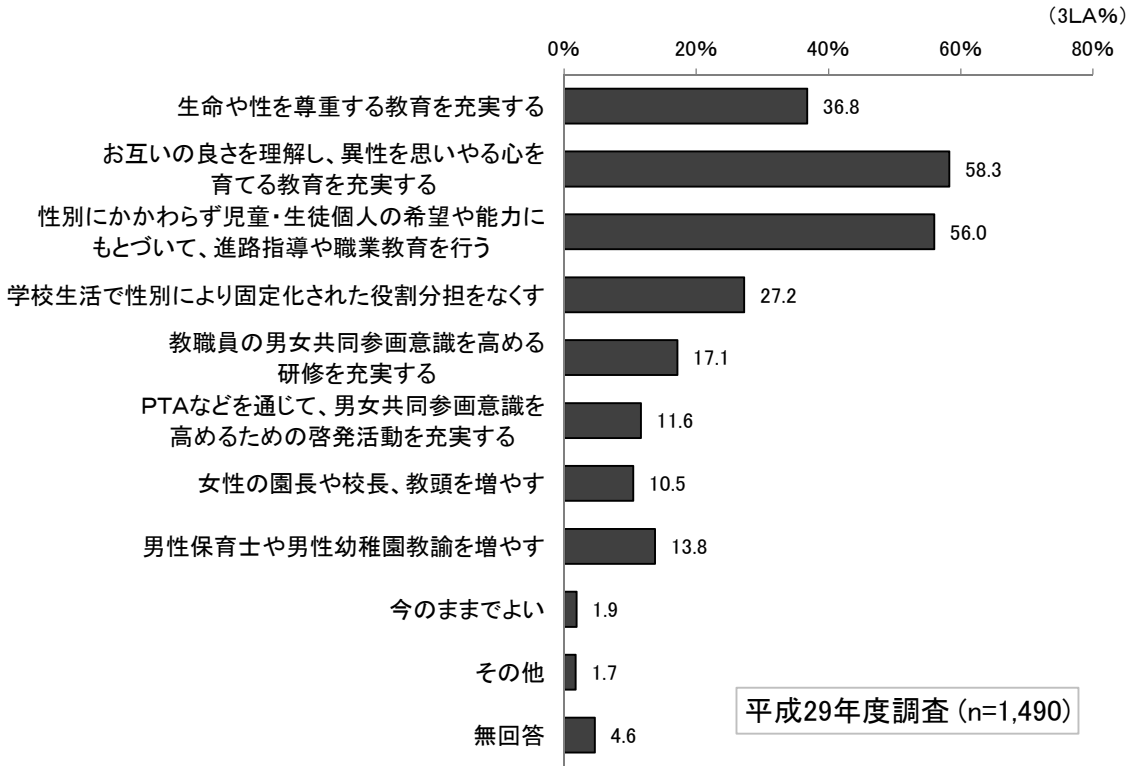
〈考察・まとめ〉

地域おこし、まちづくり、観光など地域の活性化につながる分野で女性の参画が必要と考える人が、性別や年齢問わず、多くなっていることがうかがえます。

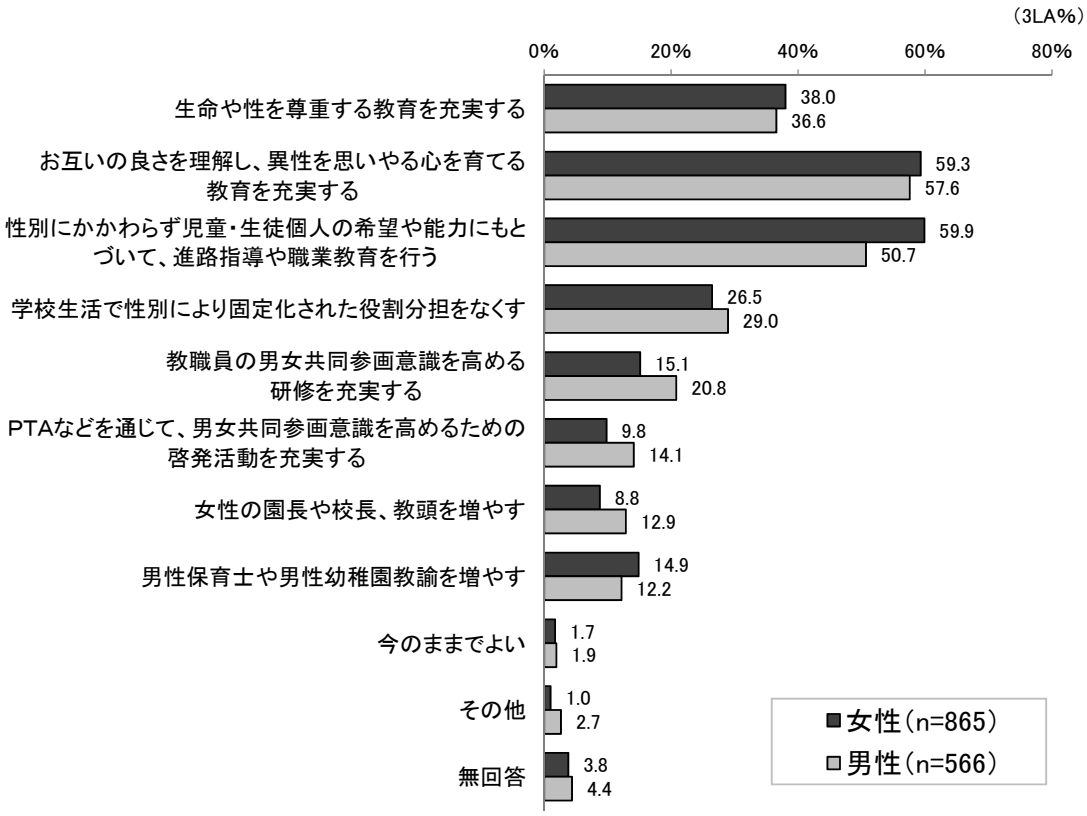
（５）男女共同参画社会の実現のために学校教育の場で大切になること

14　男女共同参画社会を実現するために、就学前の保育・教育や学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。（○は３つまで）

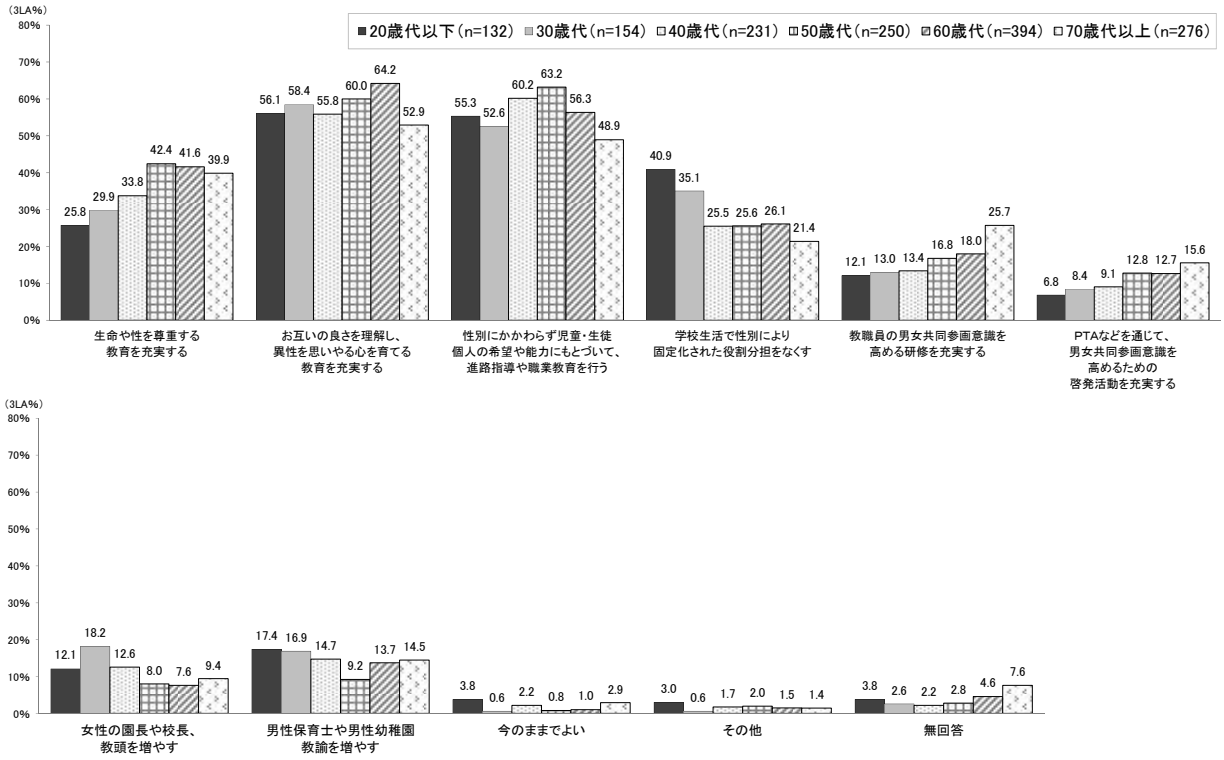
※前回までの調査になかった質問です。



【性別　男女共同参画社会の実現のために学校教育の場で大切になること】



【年齢別　男女共同参画社会の実現のために学校教育の場で大切になること】



男女共同参画社会の実現のために学校教育の場で大切になることをたずねたところ、「お互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」が 58.3%と最も多く、次いで「性別にかかわらず児童・生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」が 56.0%、「生命や性を尊重する教育を充実する」が 36.8%などとなっています。

性別にみると、男女でおおむね同様の回答の傾向となっています。

年齢別にみても、いずれの年齢でも「お互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」と「性別にかかわらず児童・生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」が多くなっています。「生命や性を尊重する教育を充実する」はおおむね年齢が高いほど割合が多く、「学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす」はおおむね年齢が低いほど割合が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

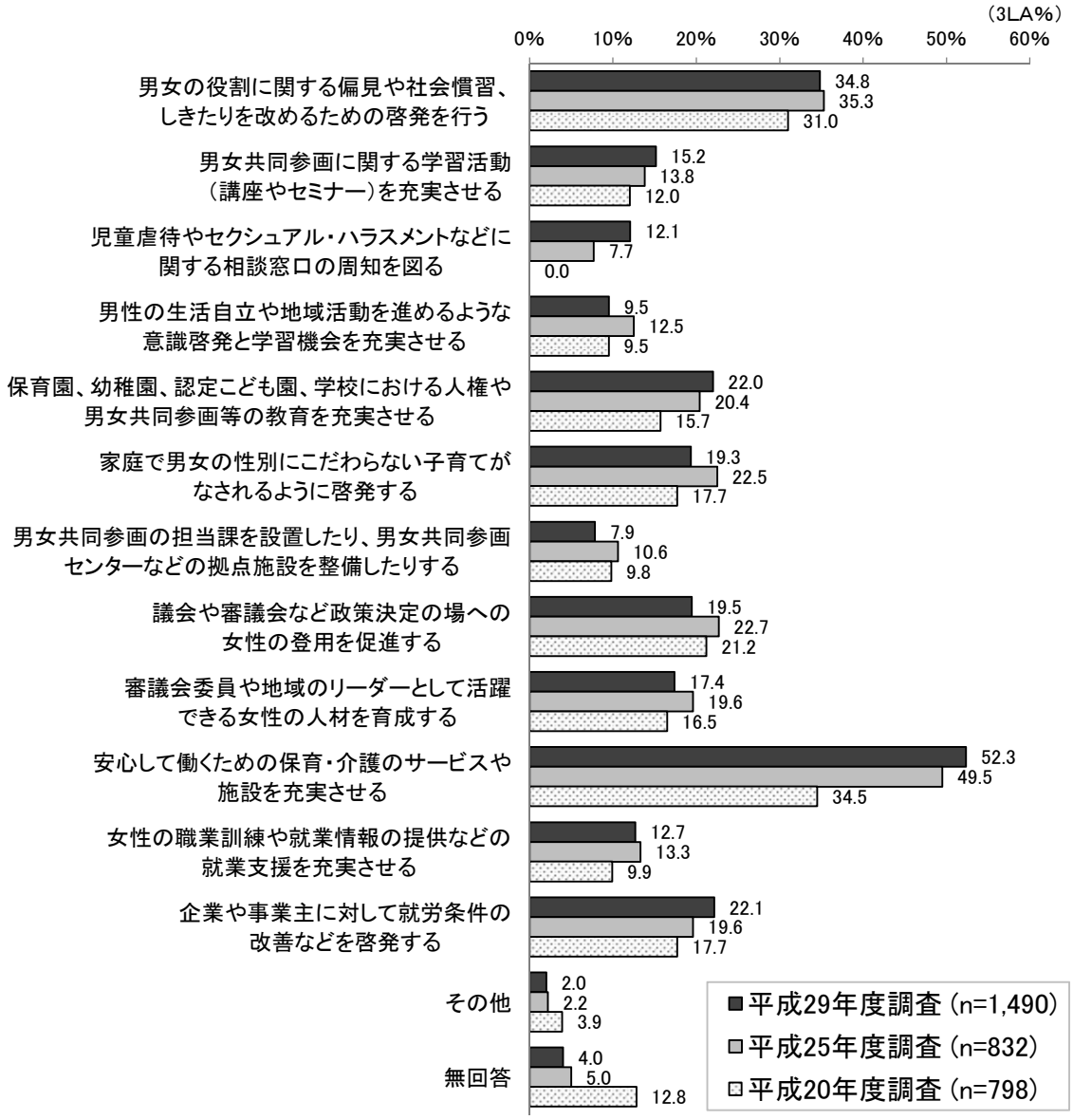
教育現場では、「性別によらず一人ひとりに応じた進路指導」や、「男女の相互理解に向けた教育」が大切であると考える人が多くなっています。

一方、そういった指導や教育を行える人材育成や教育現場の意識の向上を挙げる回答は、回答の選択が３つまでであることから少なくなっていると考えられますが、11 ページの「現在の日本社会の男女の地位について」で、学校教育の場で男性が優遇されているという回答が 23.8%あることを踏まえ、教育現場での現状を確認することも必要と考えられます。

（６）男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと

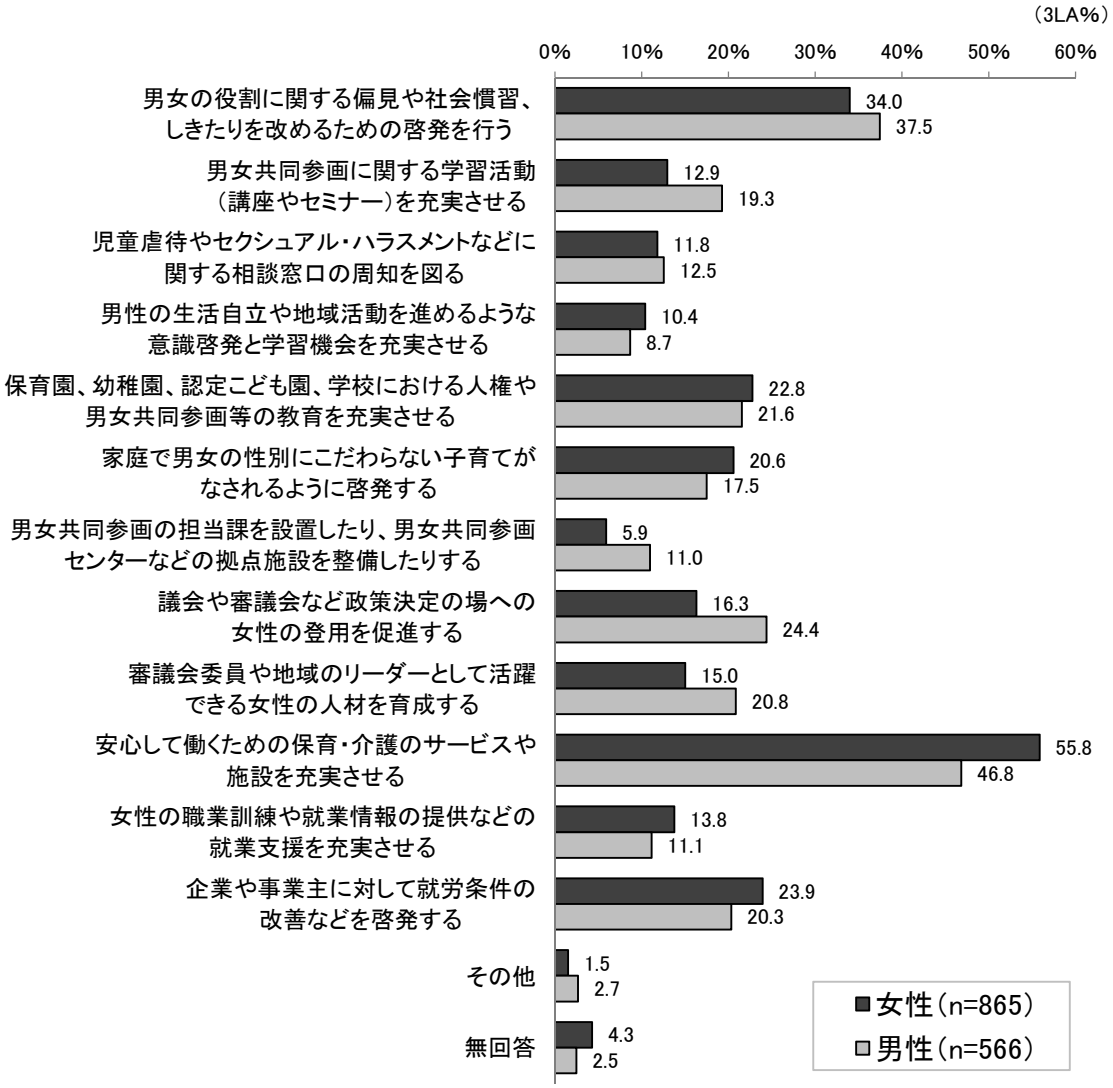
15　あなたは、男女共同参画社会を実現するためには、今後、加東市では特にどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。（○は３つまで）

※「児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する相談窓口の周知を図る」は、前回までの調査では「児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する女性の相談窓口を充実させる」となっています。



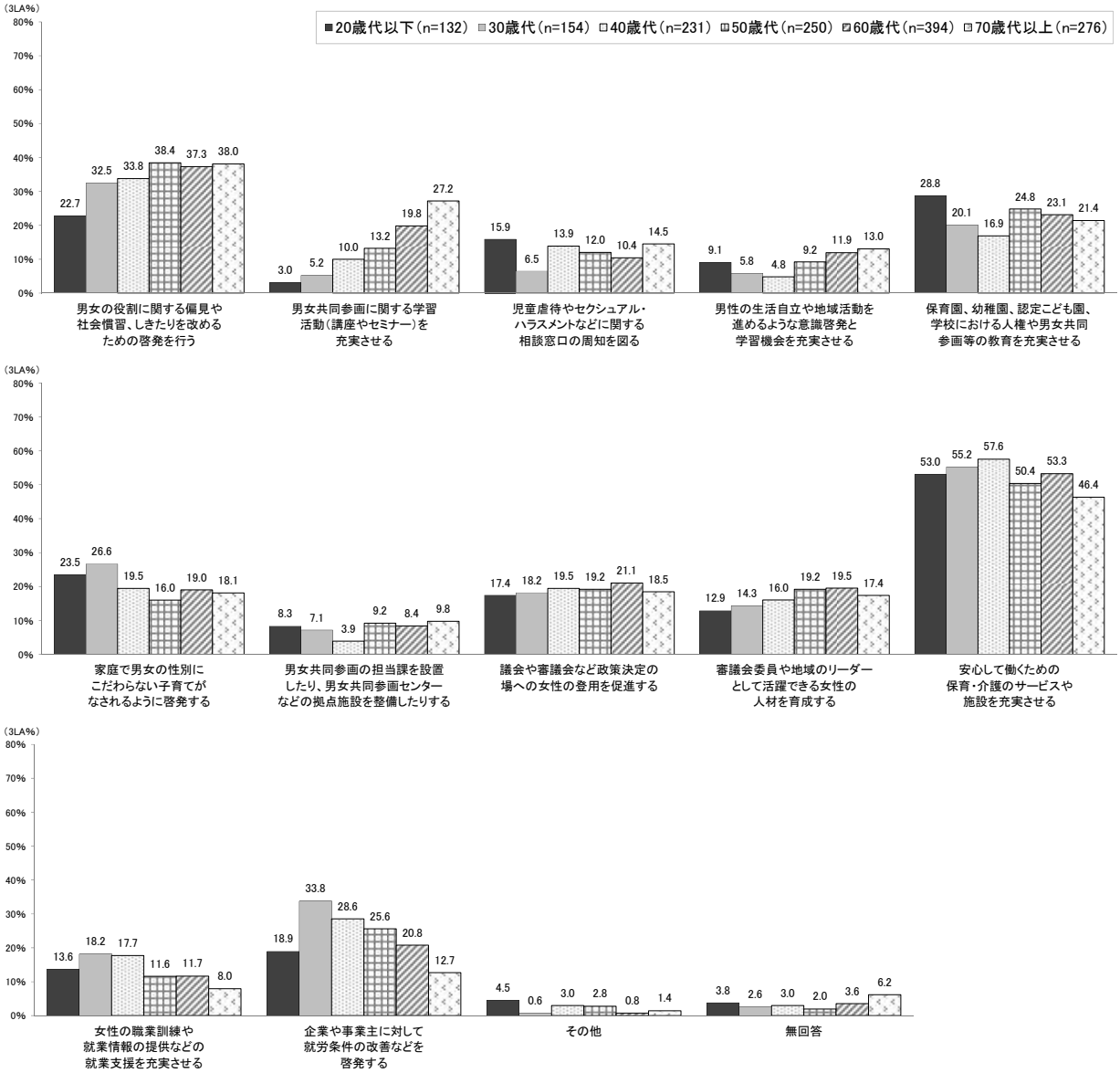
男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきことをたずねたところ、「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」が 52.3%と最も多く、次いで「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」が 34.8%、「企業や事業主に対して就労条件の改善などを啓発する」が 22.1%などとなっています。

【性別　男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと】



男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきことを性別にみると、男女でおおむね同様の回答の傾向となっており、「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」が最も多く、次いで「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」となっています。

【年齢別　男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと】



男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきことを年齢別にみても、いずれの年齢でも「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」が最も多くなっています。

〈考察・まとめ〉

男女共同参画社会の実現には、子育てや介護を、社会全体で支える仕組みを充実させることが重要と考える人が最も多くなっています。

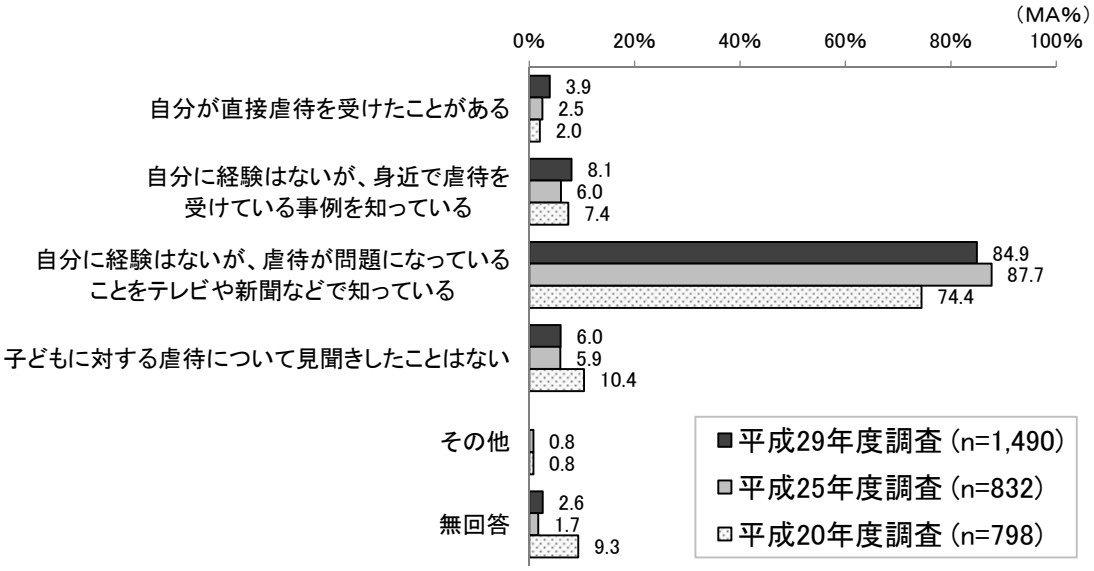
一方、社会慣習等の変化が重要と考える人も多いことから、社会や市民への啓発などの取り組みを、長期的な視点で継続して行うことが重要であると考えられます。

5．虐待、セクシュアル・ハラスメントについて

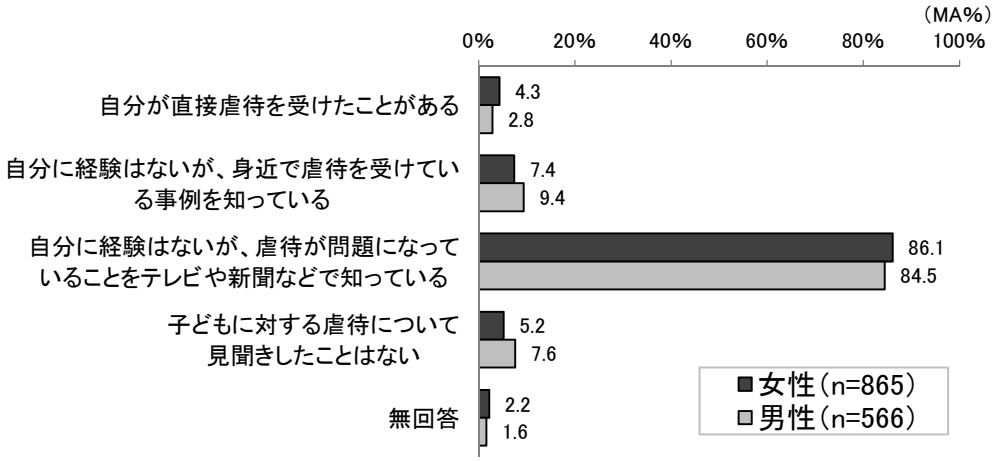
（1）子どもに対する虐待の経験等

16　子どもに対する虐待について、あなたが直接被害を受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

※今回の調査には「その他」はありません。



【性別　子どもに対する虐待の経験等】

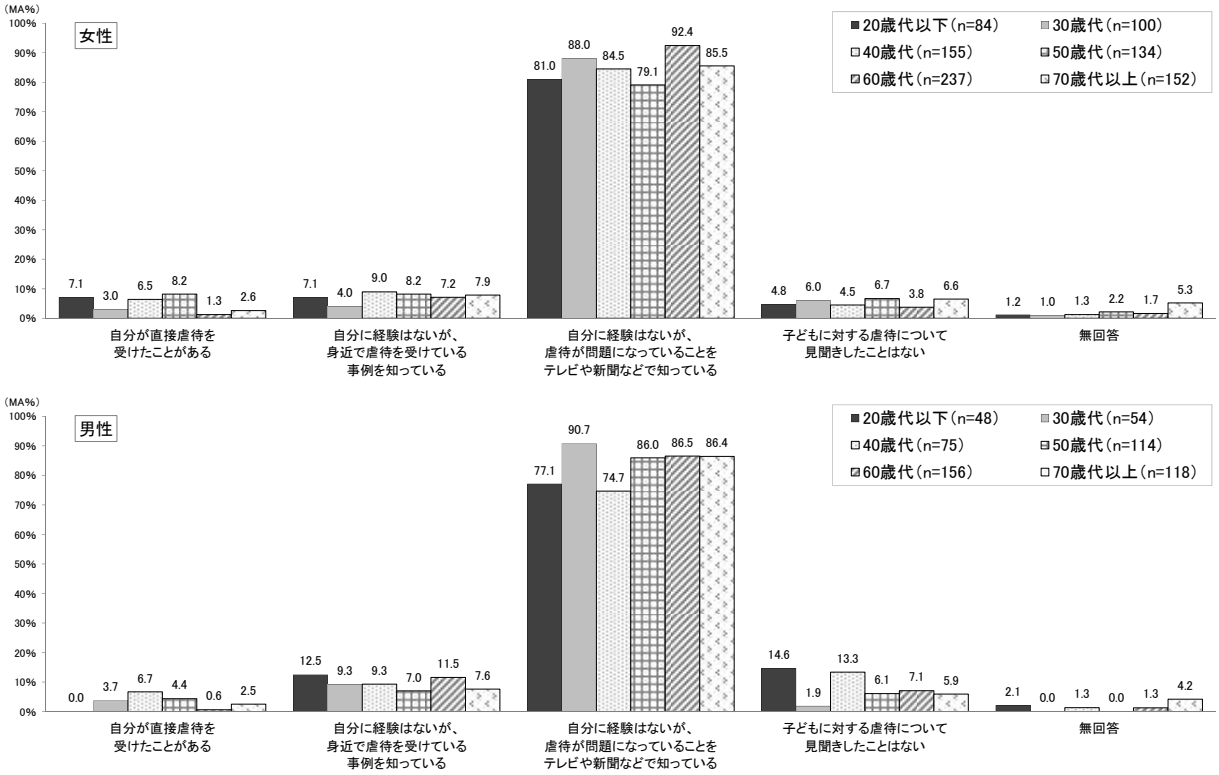


子どもに対する虐待の経験等をたずねたところ、「自分が直接虐待を受けたことがある」が 3.9%となっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、「自分が直接虐待を受けたことがある」と「自分に経験はないが、身近で虐待を受けている事例を知っている」がやや増加しています。

性別にみると、女性は男性と比べて「自分が直接虐待を受けたことがある」が多くなっています。

【性・年齢別　子どもに対する虐待の経験等】



子どもに対する虐待の経験等を性・年齢別にみると、「自分が直接虐待を受けたことがある」は女性の 40 歳代が最も多く 8.2%となっています。

〈考察・まとめ〉

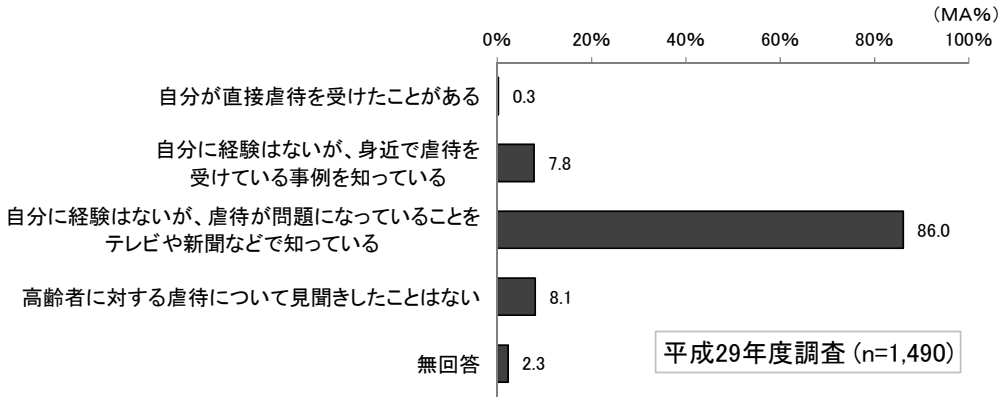
「自分が虐待を受けた経験のある」人や、「身近で虐待事例を知っている」人が増加しています。

「自分が虐待を受けた経験のある」人は男性より女性のほうがやや多くなっています。

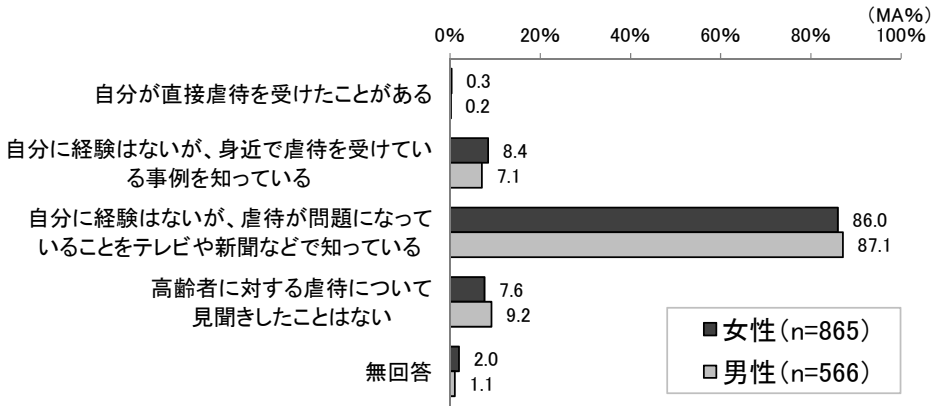
（２）高齢者に対する虐待の経験等

17　高齢者に対する虐待について、あなたが直接被害をうけたり、見聞きしたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

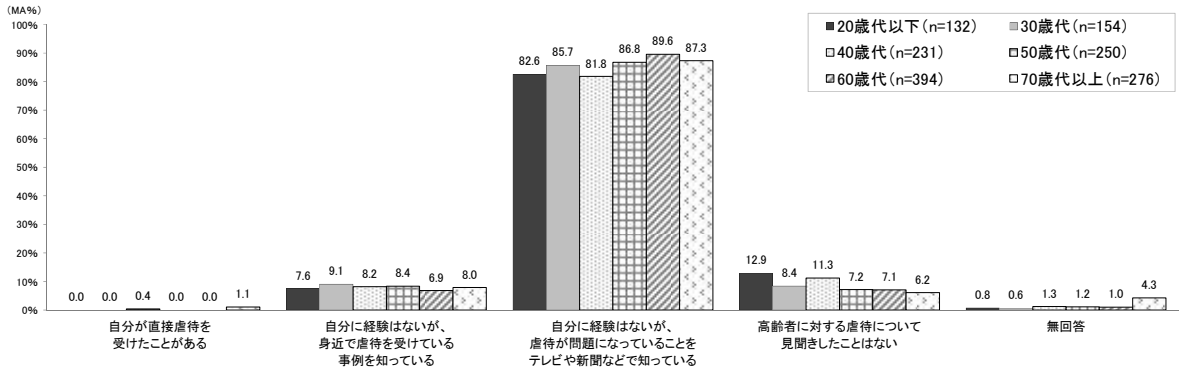
※前回までの調査になかった質問です。



【性別　高齢者に対する虐待の経験等】



【年齢別　高齢者に対する虐待の経験等】



高齢者に対する虐待の経験等についてたずねたところ、「自分が直接虐待を受けたことがある」は0.3%となっています。

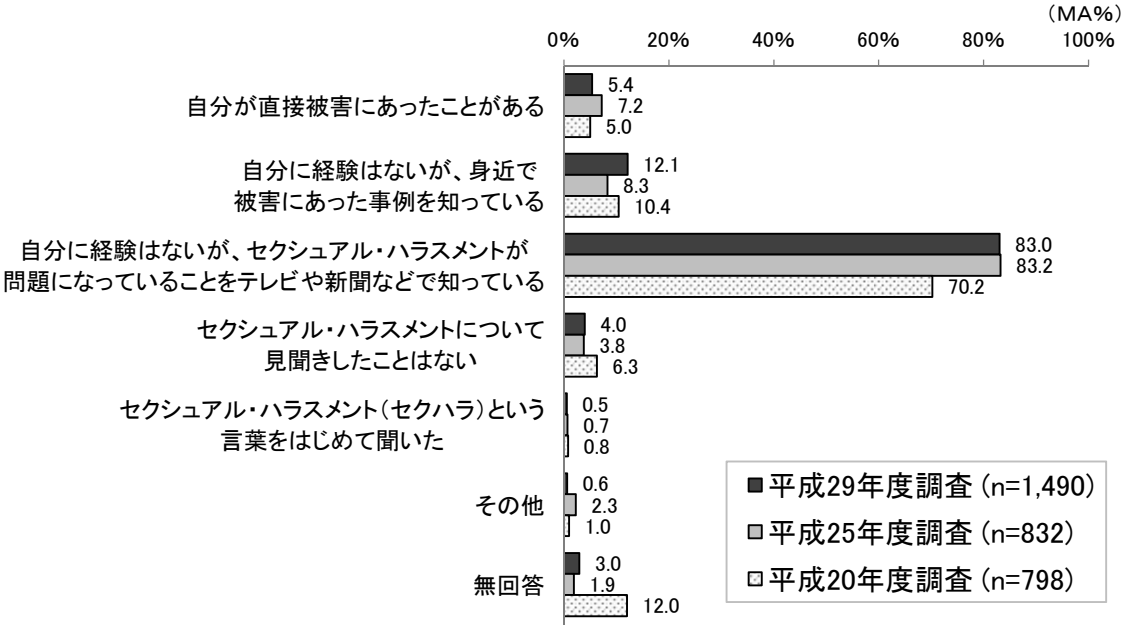
性別にみると、男女で大きな違いはみられません。年齢別にみると、「自分が直接虐待を受けたことがある」は60歳代では0%ですが、70歳代以上では1.1%となっています。

〈考察・まとめ〉

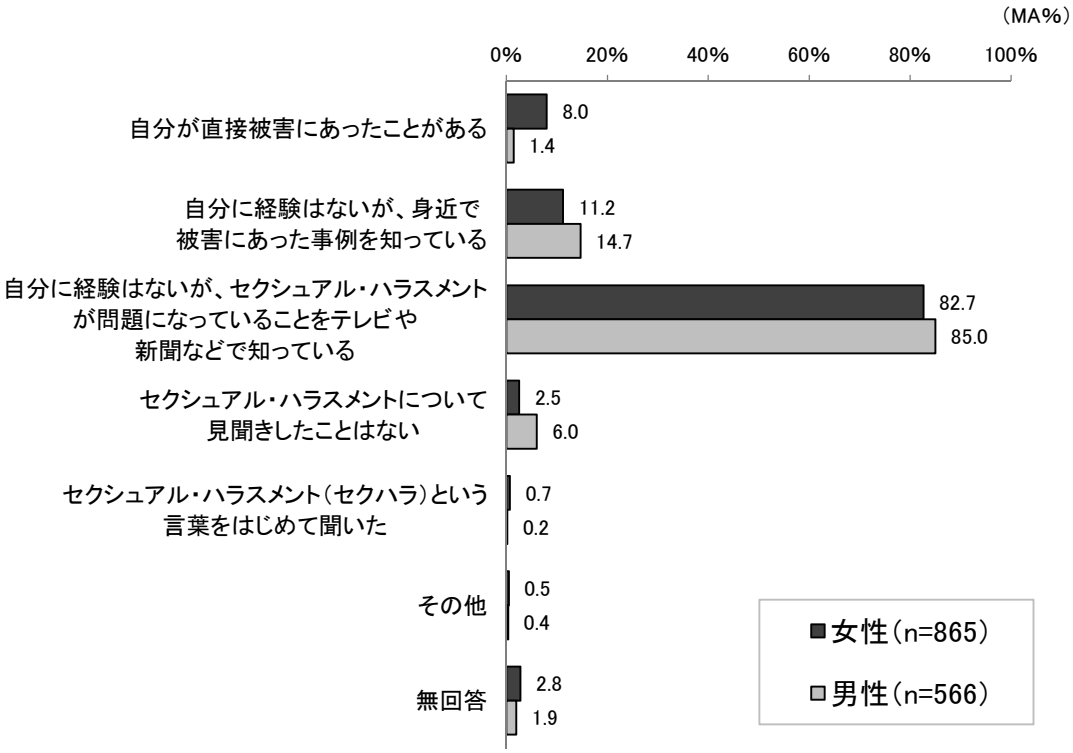
高齢者に対する虐待が発生していますが、60歳代にはおらず、要介護状態になりやすい70歳代以上の人が虐待を受けていることがうかがえます。

（３）セクシュアル・ハラスメントの経験等

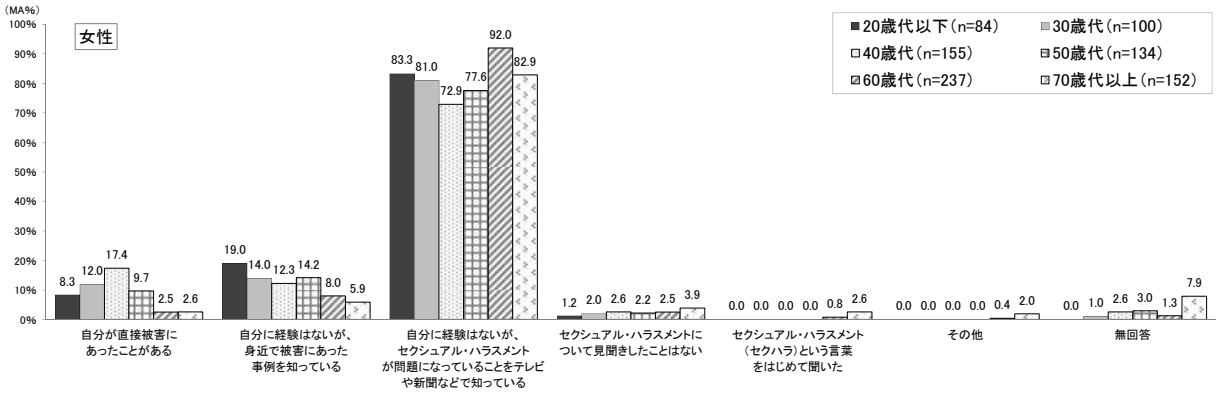
18　あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて、経験をしたり、見聞きしたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

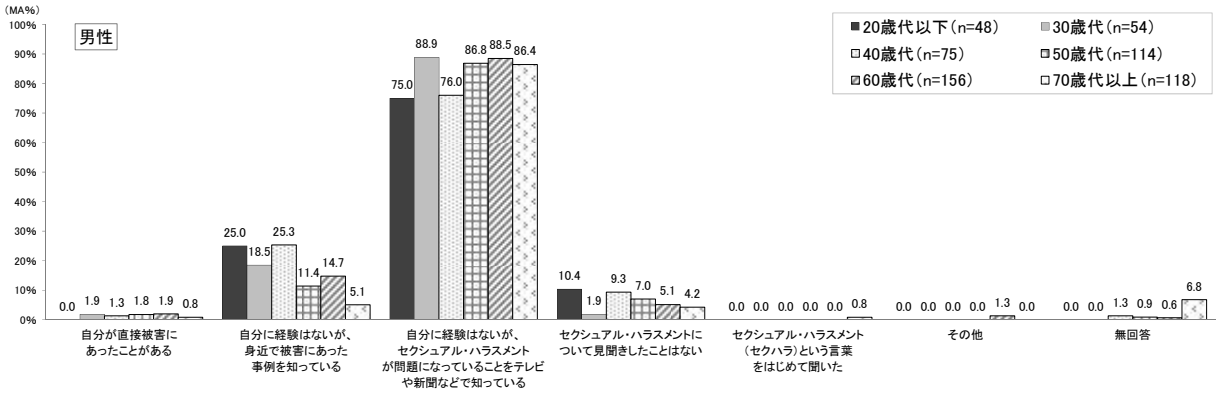


【性別　セクシュアル・ハラスメントの経験等】



【性・年齢別　セクシュアル・ハラスメントの経験等】





セクシュアル・ハラスメントの経験等をたずねたところ、「自分が直接被害を受けたことがある」は5.4%となっています。

平成25年度調査と比べると、「自分が直接被害を受けたことがある」はやや減少しています。

性別にみると、「自分が直接被害を受けたことがある」男性は1.4%ですが、女性は8.0%と男性を大きく上回っています。一方、男性は女性と比べて「自分に経験はないが、身近で被害にあった事例を知っている」がやや多くなっています。

年齢別にみると、「自分が直接被害を受けたことがある」は40歳代の女性に最も多く17.4%となっています。

〈考察・まとめ〉

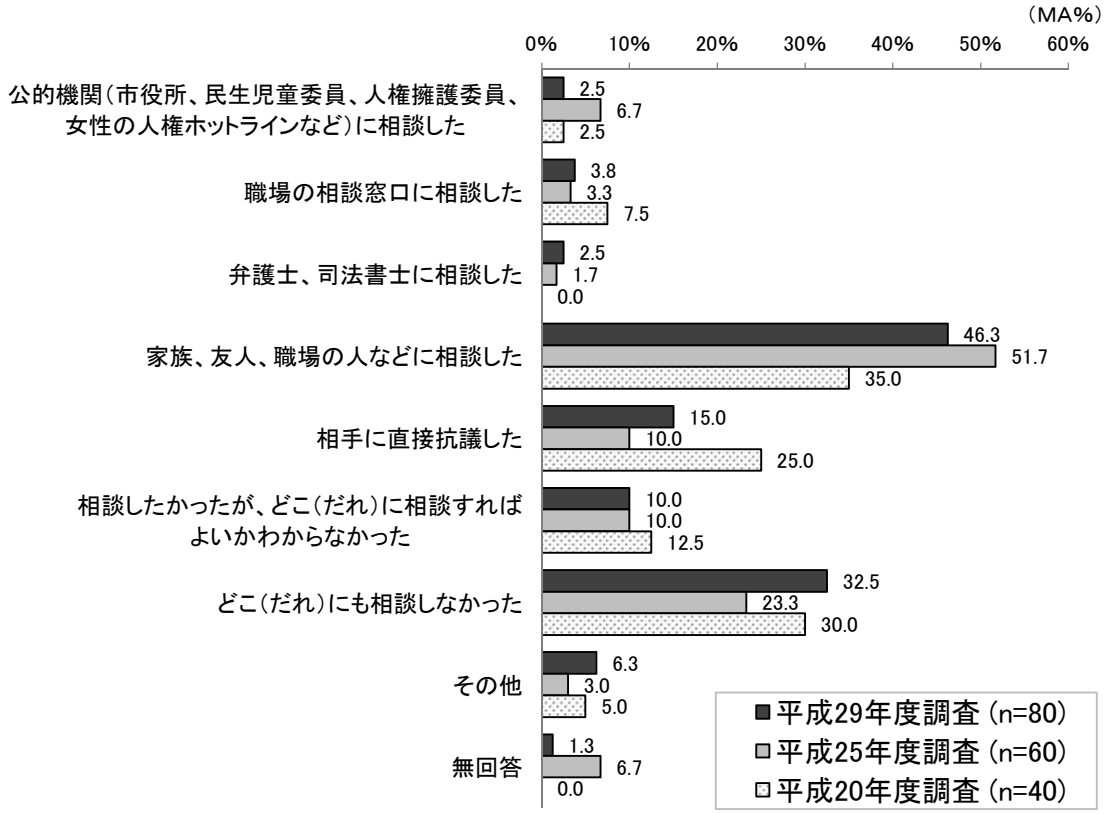
男性でもセクシュアル・ハラスメントの経験がありますが、女性のほうが多く約1割の人が「セクシュアル・ハラスメントの経験がある」と回答しています。

「セクシュアル・ハラスメントの経験がある」人は女性の40歳代に最も多く、また男性の40歳代は「事例を知っている」人が多くなっています。

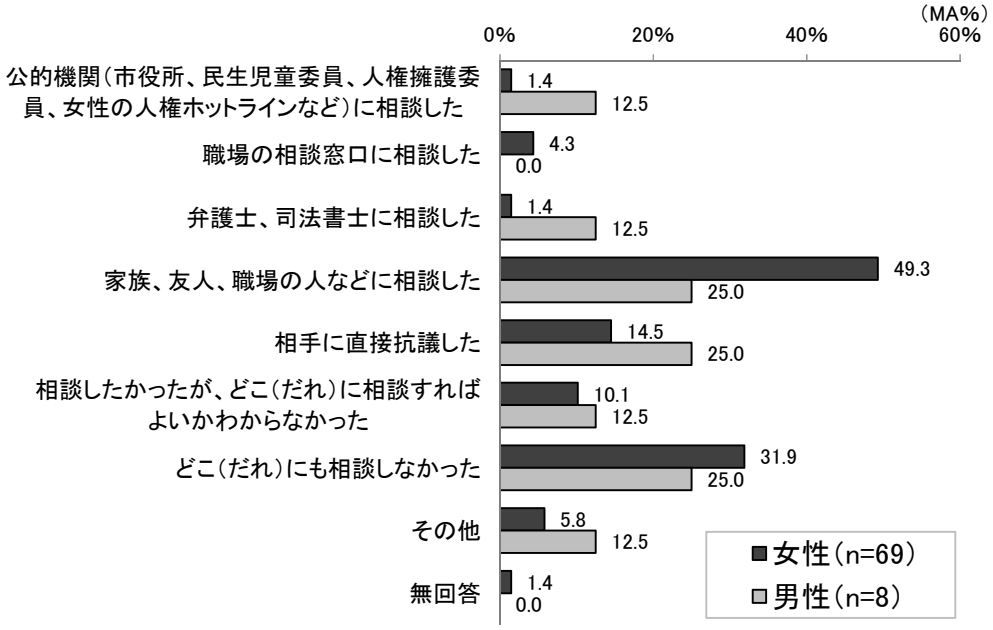
（４）セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたときの対応

≪ 18 で 「自分が直接被害にあったことがある」 に○をつけた方におたずねします≫

19 セクシュアル・ハラスメントの被害にあった時、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）



【性別　セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたときの対応】



セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたことがある人に、そのときの対応をたずねたところ、「家族、友人、職場の人などに相談した」が 46.3%と最も多く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 32.5%、「相手に直接抗議した」が 15.0%などとなっています。

平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」がやや増加しています。

性別にみると、女性は男性と比べて「家族、友人、職場の人などに相談した」、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が多く、男性は女性と比べて主に「相手に直接抗議した」、「公的機関に相談した」、「弁護士、司法書士に相談した」が多くなっています。

〈考察・まとめ〉

セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたとき、「どこ（だれ）にも相談しなかった」人が男女ともに少なくありません。

また女性は、「直接相手に抗議」したり、「公的機関や弁護士などといった外部の相談窓口を利用した」人は少なくなっています。一方男性は、回答者が少ないので比較しにくいものの、「直接相手に抗議」したり、「外部の相談窓口を利用する」人が多くなっています。

Ⅲ　自由意見（抜粋）

１．男女の地位等について

（１）男性が優遇（優位）

性別	年齢	内容
男性	60 歳代	男女共同参画、昔からの男女の在り方に根がはっていると思う。とくに田舎の人は、頭がかたい。最近は、冠婚葬祭とかも、昔と変わってきているがまだまだ、頭がかたい人が多い。
女性	60 歳代	亭主関白、男がえらい、まちがっていてもまちがってないという時代だったから、女性は耐えしのぶのがあたりまえという昔の考え方が根強く、男社会だった時代。今から思うとＤＶと言うことになるのかと思う。
女性	40 歳代	女性が家庭の事をするのが当たり前になっている社会で、さらに仕事や介護をしても、当たり前になってきているように感じます。窓口に相談するよりも、家族の協力や、一言「ありがとう」と言われるだけで救われる事もたくさんあります。男女共に。 ＤＶにあっている友人がいましたが、家庭内の事を他人に相談できず、悩んでいました。離婚後の経済的な事で心配していましたが、理解ある、会社（男女共同参画）で働き始めて、自信をつけ、脱出する事ができました。 女性のいい所、男性のいい所を認め合える社会になるといいなと思います。
女性	60 歳代	まだまだ古い慣習が残っている様に感じる場面に出会う事が多々有る。もっともっと女性が前面に出て持ち得ている、知識を活用すべきで有ると思う。女性議員又公的機関での女性の役職付が少ない為、決定事項は、全て男性目線である。男性議員等、全て戦後生れの若い方へ、バトンタッチして、改革して欲しい。
男性	30 歳代	自治会や、会社等で、男女の差を強く感じています。個人の能力として、女性の方が高い場合も、「女性だから」という理由で見送られたりします。
男性	60 歳代	まだまだ加東において男女共同参画への意識が高まっていないように思う。性の役割の固定化意識が高年齢化のためたいへん強いように思う。意識の変革はたいへんむずかしい。そのためにも意識変革のため啓発をねばり強くおこなっていってほしい。
女性	50 歳代	男女共同参画など言われているが、この地域（加東市）には、女性は短大を卒業して２～３年働き結婚するといった考えをもっている人が多いことにびっくりした。加東市からあまり出ないのでびっくりした。教育支援などをもっと充実させること、地元の人間だけで、まとまるのはやめてほしい。
女性	40 歳代	女性は外で働き、家計を助け、家事も一人で行っているのが現状。パート・アルバイトであろうが、仕事への責任があるということを男性はどのくらい理解しているのか？軽視しているように思える。女性の全てが仕事と家庭、育児で悩んでいることを男性はもっと知るべきだと思う。

（２）女性が優遇（優位）

性別	年齢	内容
男性	20 歳代以下	セクハラ等の性におけるあれこれが女性優位になりすぎているように思います。

（３）その他

性別	年齢	内容
男性	30 歳代	地域活動、自治会、議会について。若い世代や女性の参加が乏しいといわれますが、そういった会に出席すると、決まって自分たちの親世代の人たちが幅を利かせています。上の世代の方々の意見は大変大事だとは思いますがやはり若い世代、女性は意見しにくい雰囲気になっています。よって参加する気持ちもなくなります。若い世代となると仕事もあるので、そういった場に参加しやすいよう社会や会社の理解も必要ですが、もっと様々な場で世代交代が必要ではないかと思います。
女性	30 歳代	男女共同参画だが、そもそも男性・女性で生物学的に性差というものがあるため何でもかんでも平等にすれば良いものでもないと思う。「適材適所」という言葉があるように、男性が適すること、女性が適することをそれぞれが行ったら良いと思う。 ＤＶについては、そもそも本人が「ＤＶを受けている」自覚がないということが１番大きな問題だと思う。人により「ＤＶ」だと受けとめるかどうかには違いがあるし、夫婦間やカップル間の、２人にしかわからない雰囲気ややりとりもあるため、線引きが難しく、何よりも「自分の気持ち」を大切にする。「自分を大切にしよう」という啓発や教育が必要であると感じた。
女性	60 歳代	男女共同参画と、男女の性差を認めないことは一致しないと思う。男性女性それぞれの良さがあり、立場があることをふまえ、男性として美しい、女性として美しい生き方を認識した上で共同参画を目指すべきだと思う。中高年女性でもズボン類しかはかず男性と同じように外股で肩をいからせて歩く姿を目にすると不快です。男女が全く同じになることはありえない、あってはならないと思います。
女性	60 歳代	男女が同等に生活できるようになればとは思いますが、私の年代からすれば、やはり女の子は女らしく、男は男らしく育ってほしいと思います。何でもかんでも男女同等にとは思いません。
男性	60 歳代	二世代家族で生活していると、子供との会話の中で親の考え方は古くさいと言った会話をよくする。時代の流れと共に今の若者の考え方が我々世代の頃とずいぶん変化している事を実感する今日である。
女性	40 歳代	男と女という２つの性に分けて役割だの立場だの論じるところが社会の流れに乗っていない、センスがないと思ってしまいます。ＬＧＢＴという言葉や概念もとり入れて、人を丸ごと受け入れる人間作りを考えることが、ＤＶや虐待、セクハラ等の問題になんらかのテコ入れになるのでは？と思っています。
男性	30 歳代	男女共同参画を推し進めて女性の力が強くなり過ぎても恐ろしいと少し思う。男女のパワーバランスが取れた社会を期待している。

性別	年齢	内容
女性	20 歳代以下	男女共同参画とか男女の差別をなくそうとかを考えている時点でダメだと思う。これを決めて強制したところで、何か変わるとは思わないし、自分がその状況に置かれた時に、どう動くかが問題。若者に男だからとか、女だからという意識はあまりない。だから、大人たちが若者に合わせてくれたらいいと思う。

２．社会環境等の改善について

性別	年齢	内容
男性	40 歳代	育児休暇取得者の昇進遅延を、生じさせないこと。
女性	30 歳代	子育て世代の社会進出は難しいと思う。進出を促すのであれば保育所等の充実、勤労時間の短縮等、もっと社会が変わっていかなければ、女性は会社と家庭の板ばさみになり、途方にくれてしまします。もっと病児保育が増えたら良いなと思っています。保育の充実がむずかしいのであれば子育て中は働かなくても子どもを育てていけるような制度、補助があれば良いのにとも思います。働きたい人はたくさんいるので時間をこまかく区切る等して、多くの女性が輝いて暮らせる加東市であってほしいです。
女性	40 歳代	現在の日本では、ワンオペ育児・ワンオペ介護に対して、保育施設・介護施設の不足、社会の理解不足が大変多いと思います。働いても収入が少ない事により、仕事時間・仕事内容を増やす必要があるのに、家庭生活の負担も大きくなる等、負が多くなり過ぎています。特にまだまだ男性社会のため女性の負担が大変多く、皆さん疲れています。そして若い世代（２０代・３０代）の人に元気がなく、まだまだ親に頼っている人がとても多いのがどうにかならないものかと日々思っています。また６０代以上の方の身勝手さなど、人全体が自己中心的になっているのでは？と感じます。皆さんがもっともっと広い視野で周りの人に理解できる社会を望みます。
男性	20 歳代以下	働き方改革といった男の人が育児に参加しやすい環境を創出することが女性の社会進出につながると思います。そのためにも上司が有休・育休を取ることで部下も取りやすくなると思いますので管理職の方の意識改革がもっと進めばいいと思います。
女性	30 歳代	男女共に、仕事も家事も育児も平等にできるような社会支援が必要だと思います。特に女性の社会進出は多くの母親が希望されていることですが、まず子供がいるから面接すら行けない、保育園、アフタースクールが入れなかったから仕事に行けないなど、まずはその根底にある原因を解決する必要があると思う。だから、いくら女性が仕事へ行けと言われてもムリだと思う。さらに、仕事に就いたからといって、男女差別による給料や、仕事内容の差は未だにあるが、平等にしたいが、会社や企業が変える意志がそもそもないからムリだと思う。結果的に、本当に平等な社会を作るのは、市や国が、もっと細かい市民、国民の生活まで、見る目がなければ、分からないし、変えなければならない所が見えてこないと思う。

性別	年齢	内容
女性	40 歳代	子どもがまだ小さい為、仕事を探すのがむずかしいのが現実。急に熱を出したりは仕方のない事なのに、働き先に理解がすくない。休みやすく短い時間でも仕事をしやすい環境があれば、もっと多くの人が気持ちよく仕事をでき、家計も助かり、家での仕事も充実できると思う。以前の職場は、子供の急な発熱や学校行事の為、休むことにすごく気をつかい、少しでもセキや熱がでても無理して学校や園に行かせたり、早目に薬をのませたりしてしまう。それが気持ち的に負担に感じる事が多かった。
女性	20 歳代以下	昔よりは女性の活躍が目に見えるようになってきていると思いますが、まだまだ女性が暮らしやすく、働きやすくなる社会は作れると思います。
女性	30 歳代	男女平等を目指す中で感じるのは、仕事の中で結局の所、女性が多目に見られて、負担はできる男性（もしくはできる一部の女性）にかかってしまう事。能力の差はどうしてもある物ですが、そこを見ながらやみくもに男女平等の仕組作りをすすめるのも違和感を感じます。女性が活躍できる場所、職場が増える事は望んでいます。適切な人選で、年齢に関係なく、（女性男性）がピックアップされるといいなと思いました。
男性	30 歳代	女性の社会進出はもっと必要です。是非、市をあげて取り組んで頂きたい課題だと思っています。特に市議会の女性議員は少なすぎると思います。
男性	70 歳代以上	加東市に女性の市会議員３名は出てほしいです。
女性	40 歳代	現在　働いている人の性別がかたよっている職業（保育士さんとか）について、単純にもう一方の性別の人を増やそうという考えは、数字でしか物事を見られていないと思う。人数がどうのこうのではなく、男性でも女性でも区別なく求人して同等の条件で採用すれば良いだけの話ではないか。一方の性だけを積極採用しようとすれば、それは新たな格差を生むことになる。 ＤＶについては、手をあげることが悪いのはもちろんだが、相手が激昂して手がつけられない場合などに、それ以外の手段が見つからずに手をあげる、といったこともあると思う。それでも　やられた側が「暴力だ」と訴えればＤＶになってしまうので難しい問題。
男性	60 歳代	小学校における教員の男女比率が異常である様に思います。男女の特性を生かせる様な比率が大切かと思います。戦後特にこの比率が徐々に変化し、特にここ数十年。これが今後の多方面に影響がある様に思います。

３．ＤＶ、セクシュアル・ハラスメント、児童虐待、高齢者虐待について

性別	年齢	内容
女性	30 歳代	ＤＶに関しては、本当に相談できる場がないと思う。“秘密厳守”とされていてもなかなか勇気を出して声を挙げられない。もっと声を挙げやすい“場”“環境”作りが必要。
女性	60 歳代	ＤＶ等が表面化するのは、氷山の一角だと思います。泣き寝入りするのは、弱者です。 みんなが安心してのびのび生活できるような社会づくりが必要だと思います。私は現在ＤＶに関わる仕事をさせて頂いております。その中である弁護士さんの言葉ですが、もっと社会全体がＤＶに関する教育が必要だと云っておられました。古い慣習から抜けだすのは大変かと思いますが、少しずつ変っていけたら良いなと思います。 敷居の高くない窓口が作れたら良いと思います。
女性	50 歳代	ＤＶやセクシャルハラスメントは身近な方からの行為である場合が多いと思いますのでなかなか相談に結びつきにくいようだと思います。 もし私がその場面に遭ったら、相談窓口や、友人等に相談しようと思います。
女性	20 歳代以下	夫からＤＶを受け、別居したのに児童手当が夫に入り続けるので、子どものために使えず、何のための手当てなのかわからない。ＤＶを受けた後の生活立て直しをもう少ししやすくして欲しい。
女性	50 歳代	ＤＶは深刻な問題である為、守秘義務が必ず守られることを強くアピールし、法的な制度にも精通していることをアピールする必要があると思う。専門的な知識や言葉、態度で接することのできる人が対応し、専門機関とのネットワーク、又長期的な関わりや転居によるフォローも必要と思う。マニュアルや相談窓口の人材育成も大切だと思う。地域では恥ずかしいという方もいらっしゃると思うので他市とも協力し、相談しやすい（例えば、少し離れた市町の人だと自分を知らないので話しやすい等）環境も必要かもしれない。
女性	30 歳代	ＤＶに関してはなかなか相談窓口に行く勇気が持てないと思います。 私がその立場だったら恐いし恥ずかしいと思ってしまうんじゃないかなと思います。 男女共同参画に関しては女の人の意見があれば自分のこととして考えて検討してほしいと思います。低収入でも生活が安心しておくれるような社会になったらいいなと思います。
女性	60 歳代	若い時は夫の無視（気ゲンが悪い時）に耐える事、平気でしたが（子供、仕事があったから）、年がいってからのは辛いものです。友達、娘、犬に癒されています。 自分以外の家庭を壊すような行動はしないように自身も気を付け、子供・孫達にも子供に教育するような家庭環境に努力し生活してまいりました。でも他人さんからされ、被害を受け、夫婦間にトラブルを受け仲が悪くなり年を取りこんな生活をするとは夢にも思っていませんでした。相談に気をつかわなくても行けるよ！！というのが知りたいです。

性別	年齢	内容
女性	40 歳代	２４時間いつでも逃げ込める場所（施設等）が必要、そういう確固たるものがない限り守るなんて無理だと思う。
女性	30 歳代	経済的ＤＶを受け、年金等の支払いがとどこおったので相談したが（市役所・年金事務所）、「ご主人に収入がある」の一点張りで相手にされなかった。生活ができなく苦しかった。
女性	40 歳代	ＤＶを受けている友達がいました。傷などを写メでとり、本当にやばい！と思った時の切り札に使う為に用意しました。日付けや暴言なども、ノートに書き友達の協力をしました。でも、やっぱり家を出て話し合い、両親にも相談し、お互いの気持ちを第三者にも分かってもらうことで和解したようです。切り札など、使うことなく終わって、良かったと思います。子供がいるので簡単に別れることができないのが現実です。恐くても立ち向かう勇気が、必要だと思います。
女性	20 歳代以下	男女共同参画：お互いに偏見を持たず、良い所悪い所認め合って支え合っていく意識を皆が持たない限りあまり変わらないのではないか？ＤＶ：ＤＶ＝悪ではないと思う。その人の昔の背景に何かがあったから、そういう行動を無意識に取ってしまっているだけのような気もします。良い、悪いの判断が付かないまま大人になってしまったか、その過程で心が傷付いてしまったからなのではないか。そう思うと、ＤＶをする人だけではなく、周囲の環境にも左右される所が大きいので、ＤＶをしてしまった本人へのカウンセラーも必要なのではないかな、と思う。
女性	60 歳代	相談支援センターに悩み事を相談される追い詰められた状況や話せる勇気に対して「秘密保持」個人情報の秘守義務を厳重にお願いします。問２７の１２の誰にも相談できず・・・が苦しみ抜き命を終らせる様な事態にならないようにと思います。
女性	40 歳代	女性が片親で子供を育てることが、経済的にのみ大変なので、離婚に至らない女性（ＤＶ体験者）が多いのだと思います。女性に経済的余裕さえあれば、すぐ離婚出来ることでしょう。そして、ＤＶも離れることで解決するというのが本当のところだと思います。
女性	60 歳代	ＤＶについては、テレビやドラマで見聞きしたことは、有りますが・・・私の回りでは聞いたことはありません。時代はいくら進んでも男女は平等だと言っても働く能力は、変わらないと思いますが、けれども社会においても家庭の内においても男の役割、女性の役割があると思う。その役割を踏まえた上での男女共同参画であってほしいです。
女性	50 歳代	公的機関に相談窓口があったとしても人目が気になり相談には行きにくいと思います。たとえば市役所にも知っている人がたくさんいる、市役所で知っている人に出会う等です。
男性	60 歳代	形、見た目ではわからない言葉の暴力の方がどれだけ心をきずつけ体も弱らせ生きていく希望、を失わせるか…悲しいことだと思います。
女性	40 歳代	市役所の相談窓口では、知り合いばかりで行くことは出来ません。電話も代金が払えないので出来ません。仕返しがこわくて出来ません。安心して生活出来ません。精神的、金銭的なストレスが毎日あります。子どもたちのために、日々明るくがんばっています。

性別	年齢	内容
女性	60 歳代	高齢者虐待はよく耳にします。あってはならない事と理解しています。しかしその反面、元気な高齢者が、同居世代に圧迫をかけるケースも多々あります。我々は長男夫婦でそれがあたりまえの様に今日まで同居してきました。お年寄が日々、行動も言動も傍若無人になり、ケアマネージャーさんも過去には紹介して頂いた事もありますが、おいだされるとの本人の思いが強く、デイサービスも受けていません。一応、自分で自分の事はされますが、昼間は、トイレに行かれますが、夜はポータブルトイレで部屋で、お風呂は、ここ十数年は、入れられていません。ので、家は何とも言いがたい、悪臭です。孫も家には、帰らせたくない状態です。高齢者は手厚く保護されている様に思えてなりません。高齢者になるのは、皆同じですが、我々の様な想いをしている長男夫婦も大勢おられると思います。日々しんどいです。
女性	40 歳代	「相談した」ことの早期解決を目指そうとしすぎるように思われる。緊急事態は別として長期にわたり，DV 等を受けてきたのであれば，相手との関係性そのものを見直す期間が必要であり，その意味で，早期解決をすることの心理的負担は多いように思う。カフェやラウンジ的な「話をしやすい場」を設定し，何気なく情報に触れ，相談者の心理的葛藤に寄り添いながら解決策を模索できる／してもいいという雰囲気を作ることが大切のように思う。通報件数や解決の数で行政としての成果を示している現状では，目に見える成果がすぐに得ることが期待できない対策は取り組みにくいかもしれないが，長期的な観点からいえば，そういった対策が一番，効果が期待されるのではないかと思う。

４．教育、意識について

性別	年齢	内容
女性	60 歳代	人間の基本は家庭教育環境そして学校教育にあると思います。私達の時代には、道徳の時間が、あったような気がします。今は幼い時から、おけいこ事をかけもちしたり色々気ぜわしい時代で、女性も仕事をもち、子育て、仕事、家事と、がんばっているなあという思いでみています。どうしても女性の負担が多くなってきますので、やはり家庭においての家族の協力を得られれば、楽になるかなあと思いつつ、これに公の助けがあれば、と感じています。 ＤＶは許されないことです。やはり小さい時から人を大切にする教えが大切だと思っています。いろいろな分野に通じることと思います。 世の中複雑になりこわい事件がありすぎます。特に子供を虐待したり殺したり、大切な子供を、このようなことをしようと思う親は、どんな生い立ちなんでしょうか？ 学校の勉強において、絶対おちこぼれのない教えをお願いしたいです。補習をしたり、居残りをしたり、塾に行ける子供さんばかりではありませんので。

性別	年齢	内容
男性	70 歳代以上	ＤＶ、夫婦間、子供と共に意思疎通を良くしておく。共同参画に関しては企業の受入れ体制の意志改革、女性の意思改革、と共に男性の従来の考え方を変えていく。
男性	50 歳代	皆が「豊かな心」を持って生きて行ける社会である事が重要と考える。これらの問題には対処療法だけでなく、貧困や格差等、根本的な社会構造を同時に解決して行く必要があるだろう。日本の社会がいつからこんな風になって来たのか良く分からないが、目指していた「豊かさ」が違っていたのかもしれない。物があふれ心が貧しくなってしまったのか？子供達の教育が最も大切と考える！
女性	70 歳代以上	何事でもですが、子供の頃からの教育が重要であると考えます。そして、ＤＶに関しては、加害者、被害者両方に対してのケアが必要かも知れません。
男性	70 歳代以上	人の立場を認める。自分１人では生きていけないこと。自分の命も、他人の命も大事にする。男だからどう、女だからどうではなく人として認めあうこと。
男性	60 歳代	男女共同参画について学習活動を、もっと前に進めることが重要だと思います。又、男女との、役割について思いやる事を学習の機会を早くもつべきである。
女性	50 歳代	男女共働くのは良いことかもしれないが、誰が子育てをするのか？本当に男女にとって良い生活は、働かず子育てできる人間を確保できる社会が必要だと思う。子どもの心を育てないで、男女共同参画の社会を作っても、いずれ心に傷をもつ子どもがその社会を歪めると思う。それがぎゃく待を生むと思う。我子を殺し我親を殺す。そんな子どもを育てる社会だけは作ってほしくない。他人まかせの子育てでなく、親が責任もって育児ができ、尚かつ経済的に安定した家庭が必要だと思う。
男性	70 歳代以上	共に難しい問題だと考えている。幼少の頃から豊かな感性が育つ社会の形成が大切で、不道徳的な行動をする成人を一人でも少なくしていくことが急務だが、成人の教育は尚難しい。市民の間でこれから考えていこうとすることを提示することも大切だが、善良な行為をした成人を表面に出していく取り組みが必要と思う。例えば、ゴミを除いたり、駐車場に車を止める場合は、枠の中に正しく止めたりするなど社会的ルールや道徳的行為の正しい（美しい）例をいろいろな機会に市民に知らしめることも大切だと思う。「してはいけない。」ことよりも「皆やってみよう、しよう。」といった方向のものが今以上に必要に思う。
女性	60 歳代	色んな条件で社会に出たくても、出られない女性も多いと思います。男性も女性目線で物事が考えられる様、女性の気持ちに近づける様に、家庭でも職場でも、気を配るべきだと思います。男女問わず、相手の気持を思いやる事が大切な事と思います。
男性	60 歳代	振り込みサギとかオレオレサギは人をだましてお金を取って当り前という考え方、教育の段階、しつけの段階がしっかりしていないのでこの様な人が増えるのであろう。情緒豊かな人を育ててほしい。
女性	40 歳代	若い世代も、シニア世代も学生なども、いろんな年齢層の男女で考えていくのがよいと思います。

性別	年齢	内容
女性	50 歳代	主人は同い年ですが、中学生の時、授業は男子が技術、女子が家庭科、体育も男女別で出席番号も男子が先で女子が後。子供のときから全て男性が優位に教育され、今さらかわりようがありません。「男子、厨房に入るべからず」で育てられ、定年後粗大ゴミ扱いされるのも仕方ないことです。しかしながら子供達は、特に平成生まれの末っ子は兵教大付属小中とすごす限り、男女平等だなと親として感じました。何事も幼少期からの教育で一生の考え方、行ないも決まるのではと思います。特に子供は親をえらべません。家庭と教育現場が密に連携することが大事と思います。子供たちが加東市に残ってくれるような町づくりを望みます。
男性	40 歳代	男性は女性を、女性は男性を尊重することが大切で、男性も女性も基本的に考え方は一緒なので、女だから、男だからという考え方はせずにお互い助け合えればいいです。
男性	60 歳代	大人も子供も自分中心の人が多い。家族や他人に対してもっと思いやりの心をもってほしい。
女性	20 歳代以下	性差別はよくないことだし、昭和の時代から積み重ねられてきた慣習やしきたりを見直すことはすごく重要だと思います。「男だから、女だから」という思考停止的な考えはやめて、適材適所、男性だけど家事が得意、女性だけどリーダーシップがとれるなど受け入れて全員が自由に選択できる社会になるよう、一人一人の考えを教育していくことが大事だと思います。
男性	70 歳代以上	男女共同参画は、大変必要な事と認識するも、特に女性に、それにそぐわない人が多々あるように思う。その辺の意識改革も必要では・・・。
女性	60 歳代	思いやり、助け合い、いつの時もこのことが一番大切かと思います。
女性	30 歳代	どの世代、どの環境にせよ、子どものころの教育がなにより大切だと思います。家庭環境に関係なく、学力だけでなく人間力と理性を育てる教育に力を入れてほしいです。そして、関心のある人だけでなく関心のない人にもそういった教育に参加できるようなシステムをつくってもらいたいです。

５．市への要望

性別	年齢	内容
女性	70 歳代以上	ＤＶは個々の問題であると思いますが、男女共同参画は、自治体が積極的に市民に働きかけてほしいと思います。
男性	60 歳代	講演会また、講習会の機会を多くし女性の考え方を、多く、取り入れた方が良いと思います。女性の方は、良い考えを持っている方が多いです。

６．その他

性別	年齢	内容
女性	60 歳代	男女共同参画、何となくわかってはいるが、実際には、どういう事なんでしょうか。自分のやりたい事には、どんどん積極的に参加されています。めんどくさい事は、はっきりＮＯ（ノー）と言う。身勝手な事が通ってしまっている気がします。男女共同参画、おしつけられている様です。
男性	60 歳代	若者は、気の合った方々とは親しく付き合っています。男女協働のことでも、夫婦間では話し合って仲良くしているように見えます。なぜ協働しなければならないのですか？収入が多く必要ではないのですか？働こうと思えば、いろんな働き方があります。その責任を行政に押し付けるのは、どうでしょうか、家庭で解決すべきではないでしょうか？ 「ＤＶ」「暴力」もほとんどは金銭問題ではないですか？子供の教育は親が教えられない（低学力）ので塾に行かせているが、塾には、ほとんど意味がありません。親が子供から離れ自分の時間がほしいだけと思います。女性も社会に出るべきです。方法はボランティアを含めて考えるべきです。最後に「保護費」は減らすべきです。特に教育関係（甘えてる人あり）。

７．アンケートについて

性別	年齢	内容
男性	30 歳代	セクシュアル・ハラスメントやＤＶについては、どこまでがそれらにあてはまるかについてグレーな面も多く、回答が非常に難しかったです。
女性	20 歳代以下	まず、男女共同参画と言っているのに女性にしかこの質問アンケートを出してない所、時間をかけて答えているので何かお礼の商品券などあってもいいと思う。名前は出してもいいと思うが、真剣に書くだけ無駄だったと思う。 アンケート結果をしっかり集計して、広報にでものせる方がいいと思う。 時間はかかっても、希望が多いものは改善するべきで、意味のあるアンケートにしてほしい。
女性	40 歳代	この様なアンケートで何か変わるのか…という疑問が残った。長い目で見て、変わっていく世の中であってほしいと思います。
男性	40 歳代	この設問全てが共同参画のまちづくりにつながるとは思えない。実体験者にとってはつらいです。プライバシーは守って下さい。
男性	70 歳代以上	こんな調査が必要ですか？個人の問題に市役所が関与する必要はないと思う。市役所本来の業務に邁進して欲しい。それより市役所職員の教育に力を入れて欲しい。
男性	50 歳代	アンケートの結果がどこかで公表されたりしているのか？
女性	30 歳代	この調査にお金をかける意味ありますか？ あと、この調査のパスワードはなんのためにあるのですか？スタンパーで押したような数字 4 つで, 他の数字に変えてもエラーがでない。 4000 人の中の 2010 番の意味にとってしまいます。だったら個人を特定できるのでは？不信感を抱かせるような作りにしない方がいいと思います。加東市から送付される調査へは今後協力したくない。